

東方次元交錯想

究極神黎斗

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

忘れられたもの達の楽園「幻想郷」、この地にとある男降臨し、さまざま次元からライダーや怪人そして怪物が召喚される。幻想郷には忘れられたもの達が辿り着く。

そう、我々は忘れていた、この男がすべての悪の根元であることを??? 「私のゲームに…終わりはない」

彼が繰り広げるゲーム『デイメンションクロニクル』に翻弄される少女達、果たして勝つのは神か？それとも人間か？幻想郷の運命やいかに

東方×仮面ライダーとその他クロスオーバーした小説が好きなので書いてしまいました。

感想待ってます

目次

第1章 再臨する神 始まるクロニクル	1
プロローグ 神の中の神を越えて	1
解説	5
第1話 襲撃の博麗神社	8
第2話 奇跡な叫び、緑の仮面ライダー	12
第3話 荒ぶるGOD	18
第4話 潰れて、流れて、溢れでて	24
第5話 あざ笑う眼	37
第6話 氷河の妖精と流星の門番	44
第7話 運命の鎧	54
第8話 制御不能	62
第9話 吠えるサバト	69
第10話 奇妙な変身	82
第11話 飛来する戦士	88
第2章 イレギュラー襲来の章	
第12話 来訪神と獣が噛う	99
第13話 殲滅のプレデター	109
第14話 神と神	116
第15話 Are you ready?	121
第16話 ハザードを越えてゆけ	138
第17話 Dの襲来	148
第18話 Eの覚醒	157
第19話 最終鬼畜エボル	162
第3章 アマゾンス異変の章	

第20話	獣の宴	171
第21話	始動／AMAZON	179
第22話	乱戦／ROGUE	187
第23話	波乱／PEDANIUM	192
第25話	談笑／EVOLT	202
第26話	狂気／THE・WORLD	205
第27話	要塞／REVOL	214
第28話	覚醒／ARMORE ZONE	223
第29話	輪廻／DIE SET DOWN	229
第30話	最期ノ審判／EAT KILL ALL	234
第4章	四次元大戦異変の章	
第31話	開幕のゴング	245

第1章 再臨する神 始まるクロニクル プロローグ 神の中の神を越えて

ここは多次元宇宙《マルチバース》あらゆる世界へ繋がる空間。

その最深部にある数多の世界の情報を管理するコア メモリス・ファイア・ここには誰も訪れず、誰も管理していない。だがそこに一人の男が訪れた。

??? 「これがメモリスファイア：美しい…まさに神である私にふさわしい輝き！」

男は懐から黒いゲーム機の様なものを取り出しそれをメモリスファイアに向ける、するとメモリスファイアがオレンジ色の粒子になり黒いゲーム機に吸い込まれていく、男は満足そうに微笑むとゲーム機の上部についている赤い銃口の様なものを口に向けて、

中の粒子を飲み込んだ

??? 「グオオオオ!!アガツアガガガ!!グオ！」

男の体に凄まじい衝撃が襲いかかり、体のいたるところから光が漏れ

すると虚空から

檀 黎斗神「私はかつて捨てた名を拾い上げた!!!今の私は檀 黎斗神だああ!!!」

という叫び声が空間内に響いた。

空間の裂け目に飛び込んだ檀 黎斗g「檀 黎斗神だ!!」檀 黎斗神がたどり着いたの小高い森の丘だった。

檀 黎斗神「ブワハハハハ!ついに来たぞ幻想郷!!!」

そう叫ぶと体からたくさんの光球が飛び出し幻想郷中に降りそそいだ。

檀 黎斗神「幻想郷の者共よ神の恵みを受けとれええ!!」

瞬間、黎斗神は何かを感じとりその場から飛び退く、すると立っていた場所が爆発し、クレーターができた。

檀 黎斗神「次から次へとなんだ!神に対して!!」

攻撃が飛んできた方向を見るとスキマが開いておりその中のから金髪の大人びた女性が出てきた。

???「あなた、どうやって幻想郷に入り込んだのかしら?それにさっきの行動はなに?…まあいいわ、捕まえてしまえばいいことだもの」

檀 黎斗神「スキマ妖怪…八雲 紫か、幻想郷の賢者が神である私の邪魔をする気か?」

紫 「あら?私を知ってるなんて驚きね」

紫は余裕そうにしているが黎斗から溢れる謎にパワーを警戒していた。

檀 黎斗神「君程度、この私が相手をするまでもない」

黎斗は懐から黒いゲーム機ガシャコンバグヴァイザーを取り出してバグヴァイザーから究極生命体ゲノムスを召喚した。

檀 黎斗神「こいつとのゲームを楽しむといい…」

『ギユ・イーン!』

ゲノムスはバグヴァイザーを装着すると紫に襲いかかる。とつさ

に回避したが服の裾が切られてしまった。紫は弾幕で反撃するがゲノムスはまったく意にかえさず襲いかかってくる

『チュ・ドーン!』

ゲノムスはバグヴァイザーをビームガンモードにかえると光弾を放つ。スキマを展開して逃げようとするが間に合わずに被弾してしまう。だが紫も負けじと弾幕で攻撃するがやはり効果がない。

紫「はあはあ、弾幕が通じないなんて厄介ね…でもこれならどうかしら!!」ドスツ「ツ!?ガハツ!」

紫はスペルカードを取り出そうとするが背中に激痛がはしりやめてしまう、振り返るとそこにはスズメバチのような姿をした妖怪が左腕の針を紫の背中に突き刺していた。

紫「カハツ…この妖怪どこから…?気配は何もなかったのに…」

紫は意識を失いそうになりながらも何とかもちこたえるが

ゲノムス「フンツ!」

ゲノムスの追撃を喰らい吹き飛ばされてしまう。

紫「あつ…あなたはいつたい何…者…」

そう言うとき意識を失い、紫の体は粒子状になり黎斗が新しく取り出した緑色のゲーム機ガシャコンバグヴァイザーIIに吸収された。黎斗はゲノムスと蜂の姿をした妖怪…妖怪ではなく蜂の姿をした仮面ライダーザビーを体に吸収する。そして天を仰ぎ

檀 黎斗神「さあ幻想郷の諸君、心行くまで楽しむがいい、エンディングなど存在しない永遠なるゲームを」

幻想郷に訪れた神、檀 黎斗はどんな異変を巻き起こすのか?

G A M E S T A R T

解説

大前提としてこのSSに出てくる原作キャラ（仮面ライダーなどの）は本編終了後に時が経ち死亡したあと幻想郷に転生したという設定です。黎斗や他の者によって記憶をいじられています……

檀 黎斗神

トリロジীরのあとに生まれ変わり再び神を名乗り始めた

あらゆる仮面ライダーやウルトラマンのアイテムを生み出すことができる

怪人、ライダー、怪獣、ウルトラマンを生み出すことができる（ウルトラマンはダミー）

あらゆる世界の組織がアイテムを買いにくる

作者がジョジョ好きなのでさらっとスタンドを使用

あとケロロとか

主人公なのに登場は少ない

ガシャットはハイパームテキ以外所持している

性格

基本は原作と同じ

仮面ライダーゲンム（リプログラミング対策済み）

アクションゲーマーレベル2レベル0

ゾンビゲーマーレベルX

ゾンビクロニクルに登場するゾンビゲーマーはライダーゲージはないが撃破可能だが黎斗及びナビゲーター黎斗のゾンビゲーマーは劇中同様に完全に不死身

ゴッドマキシマムマイティXを使用するまでもないときはこれらの姿で戦う。ガシャコンウエポンを全て使用可能

ゴッドマキシマムゲームレベルビリオン

再び作り出したゴッドマキシマムマイティXでグレードビリオンのコールで変身する。黎斗のアイデア一つで世界の概念を変換しゲームを生み出す。メモリースフィアを取り込んだことでウルトラマンや他の世界のキャラクターの力をしようすることができる。さらにゲームを改造していくことでレベルビリオンを越える可能性がでてくる。

生み出したゲーム

ゾンビクロニクル

不死身のゾンビと戦うサバイバルホラーゲーム

コズミッククロニクル

宇宙崩壊の危機から地球を救うゲーム

ゲームは今後増えていく予定

ネオゲンムコーポレーション

誰も知らない幻想郷の果てにある見た目は原作のゲンムコーポレーションだが中はとてつもなく広くてさまざまな施設がある

社員は全員量産型ライダーか怪人そして怪人として実体化させたキャラクター

幹部には上位怪人や原作ライダーやオリジナルライダー

怪獣ルーム

あらゆる怪獣を保存している。怪獣たちは怪獣カプセルに入っておりその中は故郷と同じようになってる

研究ルーム

さまざまな世界を調べる部屋。珍しい世界を見つけたら社長室に通達するようになってる

温泉ルーム

様々な温泉がありサウナやマッサージもある

空き地ルーム

なぜあるかわからない

格納庫

ウルトラマンのメカニックや仮面ライダーのメカニックが格納されている

システム管理ルーム

メインコンピュータはメガヘクスとギルバリスのふたつの人格がある

社長室

社員以外侵入ができない 社長のプライベートルームもかねてい
る

隠し機能

ネオゲナムコーポレーションはドラゴン型の宇宙戦艦に変形し時
空を越えることができる

幻想郷に登場するライダー達はステージセレクトの能力を使うこ
とができる

一輝け流星の如くく黄金の最強ゲーマー！ハイパームテキくエグ
ゼイド≡フラフララララララララララララララララララララララ
ララララララララララララララララララララララララララララララ
ララララララララララララララララララララララララララララララ

第1話 襲撃の博麗神社

紫と檀 黎斗が戦ってから数日後…

博麗神社

博麗神社の巫女の博麗霊夢はいつものように境内の掃除を終わらせて居間でお茶を飲んでいた。いつもなら友人の魔法使いの霧雨魔理沙がくるのだが今日はなぜかこない。

霊夢「変ねえ。いつもなら箒ごと突っ込んでくるのに」

霊夢はせんべいをとろうとすると外から爆発音が聞こえてきて霊夢は外に飛び出してみると里の方面のいたるところから煙があがっているのが見える。

霊夢「何なのよいったい…急いで向かわないとっ!!」

霊夢はお払い棒を手に里に向かおうとしたが鳥居の方から異様な気配を感じてそちらを睨んだ。するとたくさん怪物を引き連れた二人の青年が登ってきた。青年達が引き連れてきたのはグルル、マスクレイドドーパント、黒影トルーパー、眼魔アサルト、ライオトルーパーという量産型ライダーや戦闘員だったが仮面ライダーではない霊夢にとっては十分脅威だ。

霊夢「何なのよあなたたち、もしかしてこの騒ぎの犯人かしら？」

青年1「半分は正解だな、俺達はこの担当さ。それにしても俺達の最初の相手が博麗の巫女なんてついてるな兄貴ー」

青年2「……」

坊主頭の青年1の言葉に物静かな青年2は無言のまま頷いた。

青年1「俺は鷲尾 雷！こっちは兄貴の風ってんだ！簡単にやられてくれるなよ？博麗の巫女!!」

すると雷は右腕、風は左腕についているギアのような機械を手に取り。雷は紫色の銃ネビュラスチームガンを取り出しギアをセットする。

『ギアエンジンー！』

そのままネビュラスチームガンを天に向けて引き金をひく

『ファンキー！』

二人の頭上に煙が立ち込め、雷はギアエンジンを外して風にネビュラスチームガンを渡す。風は右手でギアをセットして左腕を前に突き出す。

『ギアリモコン！』『ファンキー！』

雷／風 「潤動！」

二人は煙に包まれ、変身が完了する。

『Remote control gear』『Engine running gear』

雷は身体の右半分が白い歯車に似た装飾で覆われており、顔の左半分には名前通りマフラーがついたエンジンを模した仮面をつけているエンジンブロスに、風は身体の左側にだけ青緑色の歯車が沢山ついたアシンメトリーなデザインで、顔の右半分はテレビのリモコンに似た仮面で覆われているリモコンブロスに変身した。

始めて人間が怪人に変身したのを見て霊夢は驚き動揺したがすぐに戦闘体制の移行する。

エンジンブロス「俺はエンジンブロスで兄貴がリモコンブロス、どっちと相手したい？」

霊夢は質問に答えず攻撃をしかける

霊夢「いきなり姿が変わって驚いたけど所詮は鎧を纏った人間、こけおどしよ！」

エンジンブロス「そうか…二人同時にか！」

霊夢の初撃をリモコンブロスは横に転がり回避し、エンジンブロスはガードする。続いて霊力を纏った蹴りをおみまいするがエンジンブロスの装甲は硬く、霊夢の足が痛むだけだった。

霊夢「ッ！殴ってダメなら弾幕よ！」

霊夢は数発の弾幕を放つがリモコンブロスがネビュラスチームガンですべてを射ち消してしまう。

リモコンブロス「…私を忘れてもらっては困りますね」

意識をリモコンブロスに向けている隙にエンジンブロスがスチー

ムブレードで斬りかかってくる、回避したが蹴りをくらってしまいリモコンブロスの追撃の歯車にエネルギー纏わせたひじうちをもろに受け吹っ飛んでしまう

霊夢「いつたいわねえ」ペツ血

(アイツらの攻撃の1発1発が重いわね、しかもこちらの攻撃が効いていないし……こうなったら一か八か夢想天生で！)

『ギアリモコン！』

『ファンキードライブ！ギアリモコン！』

霊夢が策を巡らせている隙にリモコンブロスはネビュラスチームガンにギアリモコンを装填させ必殺技の青緑色のエネルギー弾を、エンジンブロスは白い歯車状の斬撃を霊夢に放つ

霊夢「っ!!」

必殺技は炸裂し爆発が起こった。

エンジンブロス「博麗の巫女もこの程度か、これで第一ステージはクリアだ。お前ら！帰るぞ！」

エンジンブロスは引き連れてきたが出番がなかった怪人達に帰還の指示をするがりモコンブロスが止める。

エンジンブロス「?なんだよ兄貴?まだなんかやることあったか?」

リモコンブロス「……さっきの攻撃は奴の手前で何かに阻まれて炸裂しました……ゲームはまだ終わってない。」

エンジンブロス「なんだと!」

二人のブロスは爆発したところを見つめる、すると煙が晴れてきて出てきたのは巨大な緑色の眼の紋章だった。霊夢はそのうしろで無傷で倒れていた。

リモコンブロス「あの紋章はたしか……しかしまだやつらには……」

すると紋章から緑色の髪をして蛙の髪飾りをつけ、巫女服をきた少女が現れた。

少女「大丈夫ですか霊夢さん? いやあまさか幻想郷に怪人やライダーが現れるなんて、やはり幻想郷は常識にとられないんですね!」

霊夢「ハアツ助けに来るならもつと早く来なさいよ、早苗」

早苗「ヒーローは遅れて来るもの。これって特撮とかの常識ですよ」

エンジンブロス「おいっ！俺達をほったらかして話てんじゃねえ!!」

早苗「あつと、ごめんなさい、つい：ね？テヘペロツ」

エンジンブロス「テヘペロツじゃねえよ！つてかお前は誰だよ！」

リモコンブロス「まあまあ落ち着きなさい雷、：たしかに私もあな
たが誰だか気になりますね。そして先程の力も」

リモコンブロスがネビュラスチームガンを構えながら聞くと早苗
はその質問を待ってましたといわんばかりに答える。

早苗「よくぞ聞いてくれました！私は妖怪の山の頂上にある守矢神
社の巫女で、奇跡を起こす程度の能力をもつ東風谷早苗といいます!!
？そして…」

早苗は目薬を注すような形をした機械を左手首の装着し、緑色の機
械的な目玉のようなものを取り出して叫んだ。

早苗「仮面ライダー!!!」

第2話 奇跡な叫び、緑の仮面ライダー

早苗は意気揚々とネクロム眼魂を起動しメガウルオウダーにセツトして変形そして横のボタンを押す。

『ステンバーイ』

『イエッサー』

『ローディング』

すると音楽が鳴りはじめメガウルオウダーからパーカーゴーストが飛び出しブロス達に体当たりをする。

早苗「さあいきますよお、変身！」

そして早苗はメガウルオウダー上部にある目薬のような機械のボタンを押す

『テンガン！ ネクロム！ メガウルオウド！ c r a s h t h e i n v a d e r！』

早苗の体がネクロムの素体スーツに包まれパーカーゴーストを着て変身が完了する。

早苗「私は仮面ライダーネクロム…心の叫びを聞け!!…つてキヤー言っちゃった言っちゃった!!」

ネクロム早苗<以下N早苗>は感激してぴよんぴよん跳ねる。

仮面ライダーがぴよんぴよん跳ねるとはなんともシュールな光景である。

エンジンブロス「仮面ライダーネクロム？幻想郷のやつらにはまだアイテムを配ってないはずだろなんでもってんだよ兄貴？」

リモコンブロス「そういうことは私ではなく彼女に聞きましょうか。力づくでね!!」

ブロス達がN早苗に襲いかかる。

霊夢「早苗！来るわよ!!」

早苗「任せてください霊夢さん。守矢の巫女の力もとい仮面ライ

ダーネクロムの力お見せしますよ！」

エンジンブロスが斬りかかるがN早苗は体を液化化して攻撃を無効化し攻撃を外してバランスを崩したエンジンブロスにキックをくらわせる。さらなる追撃をかけようとするがリモコンブロスの射撃によって邪魔される。

N早苗「遠距離攻撃とはなんとめんどくさい！」

液化化しながら射撃を無効化しながらリモコンブロスに近づき、ボディーブローをきめ、続けてラッシュを撃つ。だがリモコンブロスはラッシュを受けながらもN早苗の腹部に銃口を押し付けゼロ距離射撃をする。

N早苗「っ！まだまだあ！」

リモコンブロスが回し蹴りヒットさせN早苗が怯んだ隙にエンジンブロスが戦線復帰し、シオルダータックルをくらわせ、リモコンブロスが裏拳を放つ、ブロス達の攻撃はどんどん激しくなりN早苗は圧倒される。リモコンブロスはN早苗に背を向けエンジンブロスがレシーブのような構えをしているところに片足をかけ、エンジンブロスが手を振り上げるとリモコンブロスはそのままバク転しながら蹴りを叩き込む。N早苗は大きなダメージを受け倒れそうになるがなんとか根性で耐える。

リモコンブロス「……ここまで耐えるとは、正直驚きましたよ」

N早苗「異変解決は巫女の仕事！幻想郷のために負けるわけにはいかないんですよ！」

エンジンブロス「上等！上等！そうでなきや面白くねえ!!」

ブロス達の攻撃はさらに激しくなっていく。N早苗は身体を液化化させ二人の攻撃をすり抜け一瞬、ほんの一瞬の隙をつくる。その一瞬でN早苗はメガウルオウダーを變形させボタンをおす。

『アストロイ！ダイテンガン！ネクロム！オメガウルオウド！』

N早苗のうしろに眼の紋章が浮かび上がり、緑色のエネルギーがN早苗の左腕に収束する。

エンジンブロス「甘いんだよ!!」

『エレキスチーム！』

N早苗「かつ身体が痺れるっ！」

スチームブレードからの電撃でN早苗は痺れ、必殺技のエネルギーが霧散してしまう。

『ギアリモコン！』

リモコンブロス「たった一人、しかも新米ライダーが私達に勝てるとても？勘違いも甚だしい。」

『ファンキードライブ！ギアリモコン！』

リモコンブロスはエネルギー弾を痺れて動けないN早苗：ではなく先程の戦いで動けない霊夢に向けて放つ。

N早苗「卑怯な！くっ！間に合ええええ！」

N早苗はなんとか霊夢をかばって攻撃をくらい、衝撃で変身が解けてしまう。

リモコンブロス「…やはり手負いの仲間をつれた奴にはこの戦法が有効ですね。」

N早苗「ハアハア、あなたたち、いい性格してますね。でも私はまだやれますっ！」

再びネクロム眼魂を構えるがリモコンブロスに射たれ、飛んでいつてしまう、それをエンジンブロスが拾いあげる。

エンジンブロス「これで万策尽きたな、さあゲームオーバーにしてやるよ。」

『ライフルモード！ファンキー！』

『ギアエンジン！』『エレキスチーム！』

リモコンブロスはネビュラスチームガンをライフルモードに変形させて早苗に狙いを定める。

リモコンブロス「…たしか奇跡を起こすことができるんだね、ならばこの状況を覆してみせてくださいよ！」

『ファンキーショット！ギアエンジン！』

『pause』

ファンキーショットが放たれる瞬間、幻想郷の時間が止まった。止まった時の中でどこからともなく頭部はエグゼイド型（目はゲムに

近い)だが、王冠のように伸びる5本のブレードアンテナ「クロノブレードクラウン」によって独自のシルエットを成していて、腰に壇黎斗が持っていたものと同型のバグルドライバーIIを装着した緑色の仮面ライダーが現れる。そのライダーはフアンキーショットを軽く手ではらってかき消し、バグルドライバーIIを取り外してビームガンモードにする。

『ガッチャーン』

そしてBボタンを押したあとAボタンを押して必殺技を発動する。

『キメワザ』 『CRITICAL JUDGMENT』

強力な緑色ビームを周囲にばら撒くように放つ。放たれたビームはブロス達やほとんど空気になっていた怪人や量産型ライダー達の目の前で止まる。必殺技を放った緑色のライダーの身体に電流がはしり火花がはじけとぶ。

緑色のライダー「やっぱり…これが限界か…」

緑色のライダーは急いでエンジンブロスの手からネクロムゴースト眼魂を奪い、早苗と霊夢を抱えてこの場を立ち去る。

緑色のライダー「…そして時は動き出す。」

『restart』

時間停止が解かれ、ビームがブロス達に着弾する。二人は変身が解除され地面に叩きつけられるが怪人達は耐えられるはずもなく爆散する。

雷「なにが起こった…あつ！博麗の巫女と緑はどこいった！」

雷は憤慨するが、風は落ち着いた様子で立ち上がり服についた泥をはらいながら言った。

風「…私達が認識できない程の速さで攻撃を仕掛け、二人の巫女を連れて逃げるとは…」

雷「でもよお兄貴、単なる高速移動やクロックアップくらいならブロスのシステムで探知できるはずだぜ？」

風「…高速移動でないとすると…なるほど。雷、一旦帰還しますよ、社長に報告しなければ、イレギュラーな事が起きています。」

雷「イレギュラーなことって今のことかネクロムか？」

雷の質問に風は無言で頷き口を開く。

風「…ネクロムもそうですがさっきの出来事は間違いなく仮面ライダークロノスの時間停止…その証拠に一瞬で私達が攻撃する側から攻撃される側になった…高確率でクロノスの能力の仕業とみていいでしょう。」

雷「でも、まだ幻想郷のやつらにライダーアイテムはばらまかれてないはずだろ?…まさかライダーシステムを作れるやつが幻想郷にもいるってのか!」

雷の導きだした答えに風は頷いた。その事を会社の幹部達に伝えるために博麗神社をあとにした。

玄武の沢

霊夢と早苗をつれた緑色の仮面ライダーは玄武の沢にたどり着き抱えていた二人を降ろした。霊夢は突然景色が変わり早苗とは違う仮面ライダーに抱えられていて困惑していた。

霊夢「助けてくれたのはありがたいけどあんた誰よ、仮面ライダーなの?」

早苗「にとりさん!バグルドライバーIIとクロニクルガシャットを完成させたんですね!」

霊夢「ええ!Σ(□。 ;／)にとりなの!?!この仮面ライダーが!?!」
クロノスへにとり「へへッそーだよ!すごいだろ!実は一回の変身が限界なんだけどね、ってあらら?」

バグルドライバーIIから火花が飛び散り、にとりの変身が解除される。そのままバグルドライバーIIとクロニクルガシャットが砕け散ってしまった。

にとり「アハハ、また作り直さないと…まあいっか、二人とも!私のラボについてきて、渡したいものがあるんだ。」

早苗「もちろんついていきますとも、もしかして新しいアイテムができたんですか?」

にとり「それはついてきからの楽しみだよ♪」

興奮気味でついていこうとした早苗を霊夢が止めた。

霊夢「ちよつちよつと待ちなさいよ 状況が呑み込めないんだけど

「
早苗／＼にとり「まあいいからいいから」ガシッ
早苗とにとりは霊夢の手を掴みラボ引きずって行く。
霊夢「こんなの、私聞いてな〜い！」ズルズル
霊夢の叫びは玄武の沢にむなしく響き渡るのだった。

第3話 荒ぶるGOD

ここは幻想郷の最西端、なにもなかったはずのこの地に数日前からゲムムコーポレーションのビルを中心とした巨大な施設が現れた。檀 黎斗が作りあげたネオゲムムコーポレーションの要塞兼社屋である。その会議室にて、

檀 黎斗神「どーいうことだあ！なぜ配布前のライダーアイテムが出回っている！なぜクロニクルのガシヤットをやつらが持っているう！ゲムムマスターの私に許可なくガシヤットを作るなど許さぬああい!!」

鷲尾兄弟からの報告を聞いた黎斗は自分以外がガシヤットとを作ったことを知り怒り狂っていた。

???「落ち着け…ブロス達の報告では守矢の巫女がネクロムに変身したとあった…おそらく奴らはほかのアイテムも製造できる可能性が高い。」

黎斗は怒りの矛先をたった今発言した男に向ける。その男は黒い外套に身を包み、ただならぬ凄みを漂わせている。

檀 黎斗神「君の部下が守矢の巫女を捕獲すればすぐに解決だったんだあがなああ！氷室幻徳う！」

氷室幻徳「…ブロス達のミッションは博麗神社の攻略だけだ…守矢の巫女の捕獲は任務の中に入っていない。」

檀 黎斗神「私に口答えするなあ！」
二人の間に険悪なムードが流れはじめるがそれを一人の男が仲裁する。

???「いまはそんなことで争っている場合ではないぞ黎斗、氷室君。問題はアイテムを製造できる者の存在とその技術を与えた者がいるということだ。」

口論を止め状況を整理したのはかつて人々をデータ化し管理しようとした仮面ライダークロノスであり黎斗の実の父親の檀 正宗だ。黎斗は気分を落ち着かせ返答する。

檀 黎斗神「そんなことはわかっている、情報収集は必殺お仕事人

達に一任してある。」

檀 正宗「ほほう？では、君達の成果を聞こうかシユララ君」

正宗は、額と腹部に青い円形と横長の長方形を合わせたような図形の中央に黒い縦長の長方形が横に3つ並んだようなマークもち、右手にランス、左手に盾を装備して、尻尾の先端も尖っていて、頭部に被ったケロメットの外見は顔の右半分にあたる部分が銀色、左半分が金色で、両目の上には角があり、両耳に当たる部分は斧のようになっていて体色は体の右半分が紫、左半分が緑。瞳は右が水色、左が黄色のオッドアイの必殺お仕事人の元締め、シユララに問いかけた。

シユララ「いいま、お仕事人の一人に探索させているう。幻想郷で機械をいじくるのはあ限られているからなあすぐに見つかるであらう。」

氷室幻徳「フム：幻想郷のメカニック：河城にとりか。」

檀 正宗「素晴らしいじゃないか、この事はシユララ君達を信用して我々はプロジェクトについての話し合いを進めようか。」

檀 黎斗神「…なぜ貴様がしきつてるのかはこの際においておこう。戦極 凌馬、戦極ドライバーとゲネシスドライバー…それに新型の調整はどこまですんでいるんだ？」

白髪のメツシユで白衣を着た男、戦極凌馬はタブレットを見ながら自分の成果を報告する。

戦極 凌馬「戦極、ゲネシスはいつでも配布できる状態まで仕上がってるよ、だが新型のロールアウトはまだまだ先になりそうだな。まあ気長に待ってくれたまえ」

凌馬の報告を聞いた黎斗は満足そうに微笑み椅子の背もたれに寄りかかる。その後氷室幻徳が黎斗に質問する。

氷室幻徳「様々な世界の施設を幻想郷に出現させる計画だが、幻想郷の土地は足りるのか？」

土地の不足の課題についての疑問があがる。現実世界では重要な問題だが黎斗は別に気にした様子もなく答える。

檀 黎斗神「先日取り込んだ八雲 紫の『境界を操る程度の能力』で幻想郷を拡張している、土地の不足は問題じゃない」

疑問がひとつ解決した瞬間ドアが開き、コブラの意匠が随所にあり血のように赤いワインレッドをイメージカラーとするダークヒーローの様な洗練された容姿をした怪人 ブラッドスタークが会議室に入ってきた。

スターク「社長さんよお、あんたメモリースフィアを盗んだときにウルトラマンにあったんだろ？宇宙警備隊が計画を邪魔しにくるじゃないのか？」

檀 黎斗神「その点は問題じゃない、幻想郷は博麗大結界で覆われているからなウルトラ戦士であろうとそう簡単には見つけることはできないさ。」

シユララ「もし、侵入してきたらどうするんだあ？」

檀 黎斗神「フフン、もちろん対策済みだ。ウルトラ戦士にはカレをぶつける、ゲームの神は人選においても神なのさ。」パチンツ
自慢気に微笑みながら指を鳴らすとある人物が転移してくる。

檀 黎斗神「私の神の才能はもはや死の概念すらも超越する。彼のライザーとカプセルもすでに開発済みさ」

現れた人物はかつて最凶のウルトラ戦士ウルトラマンベリアル
の狂信的な部下でベリアルの息子、朝倉リクと死闘を繰り広げた男、ス
トルム星人 伏井出ケイだった。

ケイ「…介入してくるウルトラマン達は私が引き受けよう。だがベ
リアル様のお力がなければフュージョンライズができませんぞ？」

ベリアル融合獣へ変身するためにはベリアルから与えられる闇の
力が必要だと黎斗に伝える。しかし黎斗は、

檀 黎斗神「問題ない、神である私にかかれば闇の力を与えること
など容易い。」スツ

黎斗は手をかざしケイに闇の力を注ぎ込む。

檀 黎斗神「神の恵みをありがたく受けとれええ!!」

ケイ「グオオオオオオ！」

檀 黎斗神「これも神の才能さあ！」

闇の力を注ぎこまれ終わったケイは肩で息をしている。その眼は
かつて力を解放したときと同じように紅く輝いていた。正宗はケイ

に席に座るようにながす。ケイを加え幹部達は会議を再開する。

檀 正宗「諸君、ひとつ提案があるのだが…ライダーアイテムの配布を今すぐにも開始しようと思う…」

氷室幻徳「…理由は？」

壇 正宗「計画の進行のために下準備は早くにすませたほうがいいだろう？」フツ

正宗の提案に机に足を乗つけて暇そうにしていたスタークが

スターク「おれはもう紅い館のやつにトランスチームガンンを渡しちまったよ。フツあいつは強くなるぜえ♪もしかしたらお前の頃よりもなあ」

スタークは幻徳に指をさしながら挑発するように言う、幻徳はその態度が癪にさわり上着のポケットからフルボトルをとりだし起動させる。

『アンジャー』

ここで暴れられては困ると戦極凌馬が幻徳をとめた。スタークは席を立つと会議室の出口へ向かう。

スターク「ほんじゃあ俺はやることがあるから、先に失礼するぜ」スタークが去ったあと幻徳もなにも言わずに会議室をでていく。

正宗はため息を吐きながら背もたれに寄りかかる。

正宗「まったく…彼らには困ったものだ、同じ組織なのだからもう少し協調することを知ってほしい。」

檀 黎斗神「氷室幻徳はもともといた世界でスタークに運命を狂わされたようだからな。だから中身は違えど彼はブラッドスタークを嫌悪するんだろう。」

戦極凌馬「そういえばヘルヘイムの森を調査しているトルーパー部隊が森でフランドールに似た少女と遭遇したらしい」

シユララ「ヘルヘイムの森に吸血鬼があ？…まさか！まあさあかあああ!!」

シユララは何か気づき声を荒げる。凌馬は無言で頷く。ケイは話が呑み込めずほかの幹部たちを見ると全員がなにかを察したような顔をしている、ケイ以外はその人物のことを把握しているようだ。

黎斗はどす黒いオーラを放ちながらその少女の名を呟き

檀 黎斗神「：グランベル・スカーレット……：ゲームマスターの私に許可なくライダーを生み出すことは許さぬあああ!!」

いつもの調子で叫んだ。

にとりのラボ

ラボにつれてこられた霊夢は開いた口が塞がらなかつた。ラボのなかには機械の体をもった虫やコウモリ、様々な種類のカードにベルトやブレスレットが並べられていた。

霊夢「なんなのよこれ!!」

にとり「すつごいだろ♪早苗がアイデアを出して私が作ったんだよ、まだ他にもあるから見ておくれよ!」

にとりは得意顔で『危険』と書かれた扉のなかにはいつていった、するとなかから爆発音やら叫び声やらが聞こえてきて霊夢は青ざめここから逃げ出そうと入り口まで走りだした。だが…

早苗「あつ! 霊夢さんどこ行くんですか!」

霊夢「帰るのよっ! こんな危なそうなところにいれるもんかあ!!」ダーツ

早苗「大丈夫ですから! 私が保証しますから! だから帰らないでください!! トウツ!!」ダーツ! バシユツ

ラボに入り口に突っ走る霊夢に早苗が飛びつくがその霊夢は50センチくらいの丸太にかわってしまふ。驚いていると霊夢は数メートル先を走っていた。

霊夢「変わり身の術よっ! ドヤア」タツタツタツタツ

早苗「くつ無駄にすごい逃走スキルですね! こうなったら…」タツタツタツタツ

早苗はメガウルオウダーを装着しネクロム眼魂を取り出し起動させようとするが

早苗「あらっ?」スツテーン

つまずいて転んでしまった。そうしている間に霊夢は出口の目前にまでせまり。

霊夢「やった！これで…つてえええええ！」

出口の目の前に紫のスキマのようなクラック開き、そこから少女出てきて霊夢を止める。

???「落ち着きなさい霊夢、ここにいればもつと面白いものが見られるわよ♪」

霊夢「フツフラン？でも羽が…」

早苗「グランベルさん！」

霊夢「グランベル？」

にとり「トホホひどい目にあつたよ…あつ盟友！来てたんだ！」

危険と書かれた部屋から煤だらけになったにとりが出てきてグランベルという少女に話しかける。どうやら三人は知り合いのようだ。

霊夢「フランじゃないのね、あんた達こいつは誰なの？」

早苗「フフフ、聞いて驚かないでくださいよ？この人は…ムグ」

グランベル「シー、大丈夫よ早苗♪私は自分で自己紹介できるから♪」

グランベルは早苗の唇に指を当ててセリフを遮る。そして霊夢のほうに向きなおし、

グランベル「コホンツそれじゃ気を取り直して」

軽く咳払いをして自己紹介を始める。

グランベル「私はグランベル・スカーレット、しがない商人よ」

第4話 潰れて、流れて、溢れでて

霊夢「グランベル…スカーレット？スカーレットってことはレミリア達と同じ吸血鬼ってこと？」

グランベル「うーん…半分は正解ね、いまはオーバーロードっていう種族なのよ。私はいろいろな世界を巡って商売をしているの♪ちなみににとりにライダーシステムの構造や素材をあげたわ♪」

オーバーロードという言葉に霊夢は首をかしげるがそれよりも疑問に感じたのは

霊夢「商売してるったってあんた、何を売ってるのよ？」

グランベル「私はライダーのアイテムなどを造り出して販売しているの♪こんな風にね♪」

グランベルはスーツケースを造り出して霊夢に渡す。霊夢はケースをあけ中身を確認するとそこには黄色いレンチ型のレバーがありベルトの中心にプレス機のような装置がついている水色のドライバーと巫女の模様と神社の模様がある小さなボトル二本と『HAKUREI SCULSHJELLY』と書かれたゼリー飲料の様なものが入っていた。

グランベル「すごいでしょ？それはあなたにプレゼントするわ♪」

霊夢「へえ〜ありがたいけどなんだか怪しいわねえ安全なのかしら」ジイーツ

グランベル「ひどいこと言うわねえ♪まあそのままじゃ変身できないけどね」

霊夢「えっ？」

突然グランベルは霊夢の体をオーバーロードの力を使ってヘルヘイムの植物を操り拘束した

霊夢「何すんのよ！」

グランベル「フツツ大丈夫よ♪あなたをライダーに変身出来るようにするだけだから♪」スツ

災禍『ハザードオペレーション』

グランベルは霊夢の額に手をかざし魔方陣を展開する、その魔方陣からドス黒いネビュラガスが出て来て霊夢の口や鼻から体内に入り込んでいく。数十秒ほどでガスを注入し終わり拘束を解除する。急に拘束を解除され霊夢はその場にへたりこむ

グランベル「ハザードレベルはちよつぴり高めの4.2つところかしら♪霊夢、気分はどお？」

霊夢「ドブ川に顔面を突っ込んだような最高の気分ね、まだフラフラするわ」

グランベル「それはけっこう♪これであなたも仮面ライダーよ♪」
早苗「霊夢さんよかったじゃないですか！これで二人で変身できますね！」

霊夢「まあやられて変身解除するのはあんたが先だけどね〜」
早苗「ひどいと言いますねえ、一応仮面ライダーの先輩なんですよ」プンスカ

霊夢と早苗が仲良く？トークしているのを微笑みながら見ているグランベルにとりが話しかける。

にとり「盟友はさ、なんで私達にこんなにしてくれるのさ？」

グランベル「私は面白いことが好きなの、面白いものが見ればそれが私の儲け…それにワンサイドゲームなんてつまらないじゃない♪」

にとり「やつぱり盟友は面白いね」

グランベル「そうかしら？あなたにもプレゼントあげるわ♪」ヒョイッ

グランベルはキューブ状の物を造り出してにとりに渡す。

にとり「なにこれ？ライダーアイテムの素材？」

グランベル「それはパンドラボックスっていうものよ、内包されているネビュラガスを霊夢の強化とかに使ってちょうだい♪」

にとりはパンドラボックスを観察しながらとあることに気づきグランベルに質問する。

にとり「そーいえば、リツ君は？」

グランベル「……………忘れてた♪」スッ

グランベルは天井にクラックを開く、すると少年が落ちてきた。

リク「痛てて…死ぬかと思った…あっ！グラン！なんで置いてったのさ！インベスに追っかけられてたいへーリツクーん！おかえりなさい！」あつにとり、ただいま」

にとりは少年に飛び付く、霊夢はその様子を見ながらグランベルに話しかける。

霊夢「グランベル、あの子は誰なの？にとりがだいぶなついてるけど」

グランベル「彼はとある世界の少年をモデルにして私が造り出して連れてきたのよ、名付け親はにとりよ」

グランベルはリクに霊夢に自己紹介をするように促す、リクはにとりから離れて霊夢に駆け寄り握手をしながら

リク「河城 リクです、にとりのところでご厄介になってます。よろしく願います。」

霊夢「博麗霊夢よ、よろしくね……もしかしてあんたも仮面ライダー？」

リク「違いますよ、僕は……」

リクのセリフをグランベルが遮りラボの端を見つめながら、

グランベル「ファーストコンタクトはそこまでよ…どうやらネズミが紛れ込んでるみたいね…」

グランベルが紅い光弾をラボの端に放つ、光弾を避けるように影が飛び出す、その影は徐々に形を変え体色は青色で、額と腹に目玉のマークがあつて幼年期のケロン人と同じく尻尾があり、目の下から白色となつていて帽子の耳に当たる部分の先端および尻尾の先端にも目のようなものがついているケロン人になる

グランベル「フツツ必殺お仕事人シユララ軍団のギョロロ、相変わらず偵察の仕事がお得意のようね♪」

ギョロロ「ギョロロロロロ、河童のラボの搜索と監視を任されて来てみればとんだ奴がいたでやんす」

そういうとギョロロは耳についている目からビームを放ちラボの

壁を破壊して外に逃げ出し、霊夢と早苗がそれを追う。

霊夢「あいつは私達に任せてあんたはその二人を頼むわ！早苗！早く追うわよ！」ダッ

早苗「待つ待ってくださーい」タツタツタツタツ

ぶち抜かれた壁から霊夢と早苗が飛び出していったのを見守りながらにとりは呆然とする

にとり「わっ私のラボが…あっあはははは」

リク「にとり、僕達も修理を手伝うから落ち込まないで、ね？グラン？あれどこ行った？」

にとりを慰めながらリクはグランベルに話しかけるが彼女は忽然と姿を消していた。

霊夢と早苗は河原にてギョロロと対峙していた。

早苗「追い詰めましたよ！覚悟してください。」

霊夢「おとなしくすれば痛い目は見なくてすむわよ？」

ギョロロ「貴様ら、あつしを追い詰めたと思ってるでやんすね？だが残念！あつしが貴様を追い詰めたのでやんす!!」

すると周りの草むらから、初級インベス、ライオンインベス、ホースファンガイア、フロッグオルフェノクが姿を現しギョロロもメモリを取り出してボタンを押す。

『eyes』

メモリを腕に挿しギョロロはアイズドローパントに変貌する。さらに、

スターク「おもしろそうじゃねえか、俺も混ぜてもらおうぜえ」

ブラッドスタークも姿を現す。絶対絶命のこの状況で少女達は笑っていた。

霊夢「フツなんでかしらね早苗、こんな状況なのにワクワクが止まらないわ」

早苗「奇遇ですね霊夢さん、実は私もなんですよ。」

二人の少女をそれぞれ変身アイテムを取り出す、

『ステンバーイ』 『イエツサー』

『スクラッシュドライバー!!』

早苗はメガウルオウダーに眼魂を、霊夢はスクラツシユドライバーにキヤップを前にしたスクラツシユゼリーを装填する。

『ローディング』

『ハクレイゼリー!』

二人のアイテムから待機音が流れ、ネクロムのパーカーゴーストが敵を弾き飛ばす。早苗はメガウルオウダー上部のボタンを押し、霊夢はレンチを押し下げる。

霊夢／早苗「変身!!」

『テンガン!ネクロム!メガウルオウド!crash the in vader』

『潰れる!流れる!溢れ出る!!ハクレイ イン レイム!!ブラアア!!!』

早苗の体がネクロムの素体スーツに包まれパーカーゴーストが覆い被さり仮面ライダーネクロムに変身が完了する。

一方、霊夢の周りに巨大なカプセルが出現すると同時に液体が霊夢の体を覆ってスーツが形成され、最後に頭部から液体を放出してボディや頭部のパーツ等が出現し仮面ライダーレイムに変身が完了した。

レイム「へえなかなかしつくりくるわね」

レイムは手を閉じたり開いたりして動作を確認する。

N早苗「かつこいいですね霊夢さん!さあ幻想郷の巫女の力をあいつらにおもい知らせてやりましょう!」

レイム「オーケー、一人残らずぶっ潰してやるわ!」

二人のライダーは怪人達に向かって走りだす、ネクロムは初級インベスを殴りとばし、ホースファンガイアに掌底を放ち、

N早苗「ハアツ!!ソリヤツ!」ドカツバキツ

ライオンインベス「ぎしやああああ」ザクツ

N早苗「いっただいすねえ、お返しです!」シュツ

ライオンインベスの爪で切り裂かれたN早苗は後ろ回し蹴りで顔

面を蹴り飛ばす。

レイム「おっと、隙だらけよ！」 シュバツ

レイムはフロッグオルフェノクに右ストレートをお見舞いしふらつかせる。だがフロッグオルフェノクも負けておらず手に持ったウォーターガンから溶解液を発射した。それをレイムは紙一重でかわす。

レイム「うっとおしいわねえ、なんかこう一瞬で片付けられるような武器はないのかしら？」

レイムがそういうと手首の装甲に空いている穴からヴァリアブルゼリーが溢れ、ツインブレイカーに似た紅白色の武器オンミヨウブレイカーが装備される。

『オンミヨウブレイカー！』

レイム「いい武器があるじゃない、オラア!!」

『オハライモード！』

オンミヨウブレイカーをツインブレイカーでいうアタックモードに相当する形態オハライモードに変えフロッグオルフェノクに一撃を放つ、するとあまりの威力のフロッグオルフェノクは耐えきれず蒼い炎に包まれ灰化して崩れ落ちる。レイムはオンミヨウブレイカーを変形させ弾幕モードにしてミコフルボトルとジンジャフルボトルを装填する。

『弾幕モード！』

『シングル！ツイン！』

レイム「早苗え伏せなさ〜い！」

『ツインバニツシュ！』

N早苗「へ？つてうわあああああ！」

「ギヤアアア」ドガンー！

レイムの放ったツインバニツシュはN早苗を巻き込みかけながら怪人達に炸裂し一掃する。N早苗はちよつとキレ気味でレイムに抗議をする。

N早苗「ちよつと霊夢さん！危ないじゃないですか!!」 プンスカ

レイム「ゴメンナサイネーツギカラキヲツケルワネー」

N早苗「セリフが棒読みですよ！反省してるんですか!？」

レイムとN早苗が口喧嘩していると怪人達に戦闘を任せて高みの見物をしていたブラッドスタークとアイズドールパントがレイム達の足もとに攻撃する。

レイム「危ないわねえってあんた達まだいたのね。コブラ男」

スターク「惜しいッ正解はブラッドスターク、お前のハザードレベを計らせてもらうぜ。おい目玉野郎お前はネクロムを相手しろ」

アイズドールパント「誰が目玉野郎でやんすか、言われなくてもわかってるでやんす。」

N早苗「目玉なんてなんだか妙な親近感ですね、まったく嬉しくないですけどっ！」シュツ

アイズドールパント「貴様なんぞ、一捻りにしてやるでやんす!!」ダツ
N早苗とアイズドールパントが戦闘を開始し、レイムとスタークも戦いを始める。

スターク「おらよっ！」シュイーンバシツ

スタークは腕の蛇の尻尾を伸ばしレイムに向かって叩きつけるレイムは横にかわしてオンミョウブレイカーから弾幕を放つ、数発ほどスタークに被弾するがトランスチームガンを取り出してレイムに向かって連射する。

レイム「こんな攻撃なんて効かないわよ！教えてあげるわ！勝利とは戦う前にすでに決まっているのよ！」

『オハライモード！』ギューイーン

レイムは弾丸をくらいながらもスタークにかけよりオンミョウブレイカーで殴る、

レイム「おうううりやあああああ」バキツドカツ

スターク「グツ、なかなかいい拳じゃねえかハザードレベ『シングル！シングルバースト！』グハアアアア」

レイム「まだまだいくわよ！」

『デイスチャーシボトル！』

スタークを殴りとばし、レイムはジンジャフルボトルをスクラツシュドライバーにセットしてレバーをおろす。

『潰れなくい！』『デイスチャージクラッシュ！』

掌の穴からヴァリアブルゼリーが溢れだし絵馬の形になり絵馬から成型のエネルギー飛び出してスタークに一直線に襲いかかる、スタークはこれを掴み森の向こうに投げ飛ばす、続いて賽銭箱の形に変化しその中からお金状の弾幕が発射されスターク向かってとんでいく。

スターク「ハッハッハッ、賽銭をもったいない使い方してんじやねえよ」ズバツビシツズバツ

スタークは笑いながらレイムの弾幕を腕やスチームブレードではじいたり切り裂いている。

レイム「本物の賽銭だったらこんな使い方しないわよ、それよりも気づいてる？あなたがはじいたゼリーの弾幕がしめ縄になつていることに、あなたは結界の中にいる！その弾幕には任意で爆発できる術を仕込んであるわ」

スタークにはじかれた弾幕は消え去らずに互にくつつき神社のしめ縄を形成しスタークの足下に結界を張っていた、だがスタークは

スターク「へえー」(CV:金尾 哲夫↓藤原 啓治 BGM 柱の男のテーマ AWAKE)

笑っていた。

レイム「なっなんなのよその笑いは!?まだ笑っていられるの!」

スターク「お前の次のセリフは、『消してやるわ!そのニヤついた顔を』だ」

レイム「消してやるわ!そのニヤついた顔を!はっ!コイツっ!私のセリフを!」

自分のセリフを読まれて動揺するレイムにスタークはさらに続ける。

スターク「結界だと?よく見ろ!結界を張っていたのは俺のほうだ!」

いつの間に召喚していた大量の小さなベノスネーカーのような水色のコブラを繋ぎあわせ、レイムの結界を破壊し、スタークの結界に

変換する。

スターク「貴様の作戦なんぞすでに見切っているぜ！」

レイム「クツ！」

スターク「レイム、お前さつきこう言っていたな？『勝利とは戦う前にすでに決定されている』とか！」

スタークの胸部の装甲から巨大なコブラが一匹、

スターク「まさに！」

また一匹と飛び出し、

スターク「まさに！」

レイムの四方を取り囲みレイムの逃げ場のなくしてしまう。

スターク「まさに！まさに！まさにいいい！まさにお前の言う通りよなあ!!もつとも上を行き勝利を決定していたのは俺の策のほうではあつたがなあ!!」

レイムを取り囲む結界の小さなコブラと巨大なコブラの牙から毒液が滴り落ちる。すると毒液が落ちた地面に火がついた、

スターク「いまからこの全てのコブラが噛みつき仕上げだ、貴様の穴という穴に俺の毒液を送り込みい！バースデーケーキのろうそくのように綺麗に火を灯して焼いてくれるぜえ！」

コブラ達がまだかまだかとスタークの指示を待っている、ゴースイグが出れば一斉にレイムに飛び付き毒液を注入しながら体を噛み裂くだろう。

スターク「絶望のおくひきつり濁った叫び声を聞かしてみせてくれレイム〜！」

毒液がレイムに垂れるほどコブラが近づいた状況でもレイムは腕を組み仮面の下で目を閉じ笑った。

レイム「ふっ」

スターク「なあっ！」

レイム「ふっふっふっ！」

突然レイムが笑いだしたことにスタークは軽く動揺しながら問いかける。

スターク「お前はいまおれに精神を掴まれているはず…こんな時に

レモン型のアームズが開いて凌馬の頭にかぶさりレモンの果汁が飛び散りブルーのライドウエアに体が包まれる、その後アームズが展開し、アーマードライダーデュークに変身が完了する。

デューク「おとなしく投降してくれたまえ、そうすれば悪いようにはしない」

グランベル「私は自由が好きなの…あなたたちに捕まって籠の中の鳥なるなんてまっぴらごめんよ」

そういうとグランベルは黄緑色のボディにピンクのレバーがついたゲーマドライバーを装着し真紅色のガシヤットギアデュークを取り出す、

デューク「紅いギアデューク…」

グランベル「心が踊るわ…」

『デュアルガシヤット!』

『The strongest fist! What's the next stage?』

グランベル「マックス大変身」

ガシヤットを装填し、レバーを開く

『ガツチャーン!マザルアップ!』

『緋の拳強さ!紅きパズル連鎖!緋の紅き帝座!パーフェクトノックアウト!!』

グランベルの前に真紅のパネルが展開されそれにくぐると仮面ライダーパラドクスの赤い部分は緋色に、青い部分は真紅色になり目のまわりの縁と胸のライダーゲージはオリジナルままで目の色は緋色と真紅色になっている仮面ライダーに変身した。

グランベル「仮面ライダークリームゾンパラドクス…吸血鬼だった私にピッタリな姿でしょう?」

デューク「素晴らしい!是非とも捕獲して指先まで解剖して調べ尽くしてやろうか」

そういつてクリームゾンパラドクスはスペルカードを発動する。

クリームゾンパラドクス「幻槍『スピア・ザ・ゲイボルグ』——余り戦いたくないんだけど、貴方達の命をお代に味わってちょうだい」

今、公爵と吸血鬼の戦いの火蓋が切つて落とされた…。

第5話 あざ笑う眼

ネオゲナムコーポレーションの社長室

黎斗は椅子に座り幻想郷を見ながらある人物に話しかける。

壇 黎斗神「それで：ヘルヘイムに向かわせたメカ戦極凌馬の部隊は全滅、グランベル・スカーレットも取り逃がしたと」

戦極凌馬「いやはや参ったよ、まさか彼女がパラドクスに変身するとは」

凌馬はソファに腰をかけ笑いながらメカ戦極凌馬から送られてきたデータを眺める。

壇 黎斗神「エナジーロックシードとゲネシスドライバーは彼女に回収されたのか？」

戦極凌馬「いや、敗北したら彼女を巻き込み爆発するようにプログラムしておいたさ。だがその機能が発動するより一手早く彼女は逃げてしまったよ。」

壇 黎斗神「はあ…まあいい見たまえ、巫女達の戦いに決着がついたようだ」

黎斗がモニターをつける、そこにはアイズドローパントを打ち倒したN早苗がレイムのもとへ向かう姿が映されていた。

玄武の沢

N早苗「レイムさくん大丈夫ですかあゝ加勢に来ましたよ」タツタツタ

戦いを終えたN早苗がレイムにかけよる、

レイム「あら早苗遅かったわね、こっちは決着ついたわよ。おもいつきり消し飛ばしてやったわ」

スターク「いや、俺は生きてるぜえ」(CV藤原啓治↓金尾哲夫)

レイム/N早苗「!!」

瓦礫の中からスタークが立ち上がり、レイムとN早苗は戦闘体制をとる。

レイム「まだ生きてたのね、またぶっ倒してやるわ」

『オハライモード!』

スターク「さてさて、この勝負は俺の負けだ。素直に撤退するよ、これは俺を楽しませてくれた札だ、くれてやるよ」ポイツ

スタークはレイムにUSBメモリを投げ渡す

レイム「なによこれ？」

N早苗「ガイアメモリ…ではないですね」

スターク「そいつにはある禁断の兵器の設計図が入ってる、作るかわらないかはお前ら次第、さあ言いたいことは言い終わった、あばよっ」ブシュー

スタークは体についているパイプから蒸気をだして撤退した。レイムとN早苗は変身を解こうとするがそこにボロボロになったギョロロが現れ、

ギョロロ「ギョロ：ロロロ：まだ終わってないでやんす」

レイム「早苗…あんたしっかり倒しきってないじゃない」

N早苗「霊夢さんもそーじゃないですか、それに私はむやみに命は奪いませんよ。そのあなた！おとなしく投降してください！」

ギョロロはダークスパークに似たダークルギエルの顔の部分のかわりにゲムムのゴークルがついているアイテム『ゲムムスパーク』と頭部が巨大な目になっている怪獣の人形を取りだした

N早苗「そのアイテムはまさか！レイムさん！逃げてください!!」

レイム「え？なんなのよ急に…」

ギョロロ「もう遅いでやんす!!」

ギョロロはゲムムスパークの先で人形の足についたライブサインをリードする。

『ゲーマライブ！ガンQ！』

ギョロロは巨大な目玉に手足が生えその手足にもたくさんの目玉がついている怪獣『奇獣 ガンQ』にかわる。

ガンQ「キシヤキシヤ」ドシーン

(まとめて踏み潰してやるでやんす！)

レイム「ギャアアア目玉！目玉！目玉の化けものおっ!!」ダーツ

N早苗「なんでガンQに〜!!」ダーツ

レイムとN早苗はガンQの奇怪な見た目におどろきその場から逃げますがガンQは目玉から紫色の光弾を発射する。光弾は拡散しレイムとN早苗のまわりの地面に着弾して爆発をおこす

ドガアーン!! ドガガーン!!

レイム「早苗〜! ドーすんのおよ! これ〜! ドー考えてもライダーじゃ対抗できないわよ〜!!!」ダダダダッ

N早苗「私に言われても〜! とにかく逃げるんです〜!!」

ガンQ「キャシャシャシャ」ズガーンズガーン

(まつでやんす〜このちびども!!)

二人のライダーが全力でガンQから逃げていると向こうから人影が2つ迫ってくる。それはリクとにとりだった、どうやらラボの修復は終わったようだ。

にとり「二人とも大丈夫? ってギヤアアア!! 目玉の化けものお!!」

N早苗「にとりさん! 落ち着いてください! ここは危険すぎます。逃げましょう」

レイム「はやく! はやく! 踏み潰されるう〜!!」

三人は取り乱すがリクは落ち着いて様子でガンQを見上げている。リクは三人にこいつは自分にまかせて逃げろと言う。

にとり「わかったよ! リツ君! さあ二人とも逃げるよ!!」

レイム「ちよつと待ちなさいよ! あいつはドーやってあんなデカイ奴と戦うのよ!」

N早苗「とりあえず彼にまかせて逃げましょう!」

三人が退避したのを確認すると赤と黒の配色のアイテム、ジードライザーを取り出し叫ぶ

リク「ジーツとしてても、ドーにもならねえ!」

ホルダーからカプセルを一つ取り出し起動させ、ナックルに装填する。

リク「ユーゴー!」

ウルトラマンカプセル『シユワッ!』

さらにもう一つ取り出し起動させ、同様にナツクル装填する、

リク「アイゴー!」

ベリアルカプセル『デヤッ!』

リクはライザーのボタンを押したあとナツクルを手にとりライザーでカプセルをリードする。

リク「ヒアウィーゴー!」

『フュージョンライズ!』

リク「決めるぜ!覚悟!はあっ!!」

ライザーを胸の前に構え、ボタンを押して叫ぶ。

リク「ジイイイイド!!!」

『ウルトラマン!』 『ウルトラマンベリアル!』

『ウルトラマンジード!プリミティブ!』

リクに二人のウルトラマンのイメージが重なり、ウルトラマンジードへ変身した。

ジード「ハアッ!!」ボカッ!

ジードが変身と同時にガンQにアッパーを食らわせ、大きく後退したガンQに飛びかかる。

ジード「ハアッ!デヤッ!」バシッ!ドガッ!

ガンQ「キヤシャシャシャ!」シユババババッ!

ガンQは六体に分身してジードを翻弄する、ジードがそのなかの一体に殴りかかるがすり抜けてしまい、

ガンQ「キヤハハハハッ!」ビビビビビ

(食らうでやんす!)

ジード「グアッ!!」ズガーン!!

六体の分身達の巨大な目玉から紫色の破壊光線がジードに放たれる。ジードはさきほどは違う分身に、

ジード「シエヤッ! (レッキンググリッパ!)」シユバンツ

ガンQ「キヤッハッハッ!」ドカッ

(残像でやんす!)

ジード「ウアッ!!」

(何とかして本物を倒さないと、奴の本体はどれだ?)

ジードはガンQの本体を探すが六体に違いはなく強引な手段にする、

ジード(リク)「ああっ!もうめんどくさい!!っジードクロー!!」
シューーン

かぎづめのような武器ジードクローを召喚し、精神世界でリクはジードライザーでジードクローをリードする。

『シフトイントウマキシマム!』

クローを展開しボタンを三回押して技を発動する

ジード(リク)『ディフュージョンシャワー!』

ディフュージョンシャワーを頭上に放ち、無数のエネルギーのシャワーがまわりのガンQに降りそそぐ、六体のうち一体だけがダメージをうける。

ジード(リク)「見つけたっ!」

ガンQ「キャシャシャシャ…」

(ぐっ油断したでやんす…)

ジード(リク)「いまだっ!」

ジードが地面に向け両手を前に交差すると 赤 と 黒 の光子エネルギーがの全身に行き渡り、頭上へ突き上げると全身が眩いばかりに輝き、雄叫びを上げながら 左右に広げると全身から赤黒い稲妻が飛び散り目が禍々しく発光する、そしてジードは必殺技をディフュージョンシャワーでダメージを受けふらついているガンQに放つ

ジード(リク)「レッキングバーストオオオオオ!!」

青白い光線の周りに赤黒い稲妻を纏ったレッキングバーストがガンQに直進し目玉に直撃するがガンQはレッキングバーストを吸収し始める。

ガンQ「キャハハハハッ!キャシャシャシャ」

(あっしに光線技を使うとは、選択を間違えたようで

やんすね!)

ジード(リク)「僕を…なめるなああああ!」

ジードはレッキングバーストの出力を高めるとカラータイマーが点滅し始め、ガンQは光線を吸収し続けるが許容量限界なのか体のいたるところから光が漏れ始める。

ジード「ウオオオオオオ!!」

ガンQ「ギヤアアアアキヤシャシャ!!」

(ま…まずい!このままじゃ耐えきれないでやんす)

ガンQの体が限界を向かえ爆発しそうになる直前、光線の照射が止まる。高出力でレッキングバーストを放ったためエネルギーがきれてしまったようだ。ジードはその場の膝をつく、ガンQがジードに狙いを定め破壊光線をチャージする。

ガンQ「キヤハハハキヤハハハハ!」

(危なかったでやんすが、形勢逆転でやんす!)

ズドンッ!!!

ガンQ「キヤハッ?」ピカッ

(なっ!なっ!まずい!このままじゃエネルギーが溢れ…)

ドガアアアアアアアアアア!!!

突如ジードの遥か後方から飛んできた光の槍がガンQの目玉を貫通する、レッキングバーストを限界まで吸収していたガンQは水風船に針を刺したときのように体から膨大なエネルギーが溢れでて爆発する。

ジード(リク)「な…なんとか助かつ…:…た」ドサッ

ガンQが爆発したのを確認したジードはその場に倒れ、リクの姿に戻る。その後にとり達が倒れたまま気をうしなっているリクを発見し大急ぎでラボに運んでいった。

槍が放たれた方向

???「お見事でございます、お嬢様」

メイド服を来た銀髪の女性はコウモリのような羽を生やした少女に話しかける。

???「フフフ…コブラ男にもらったこれがあれば幻想郷を支配できる

：博麗の巫女だつて必ず倒せるわ!!」

そう豪語する少女の周りを小さなUF0のようなものが飛んでおり、少女の手には『F』と書かれた紅いメモリが握られていた……

第6話 氷河の妖精と流星の門番

霧の湖

ラボに運びこまれたリクが目を覚ましたのを確認した翌日、霊夢と早苗はにとりにスタークからもらったUSBメモリを渡したあと槍が飛んできた方向にある紅魔館に向かって歩いていたら、二人は怪獣に止めをさした攻撃に心当たりがあったからだ。

霊夢「あの槍：レミリアのグングニルよね、でもあんなに射程距離広がったかしら？」

早苗「それも怪獣を貫くほどの威力でしたね、レミリアさんが何らかのパワーアップをしたとみていいと思います」

二人が湖畔を歩いていると突如湖のほうから何かが飛んできて地面に墜落した。

早苗「あつぶなっ！なんなんですか急に！」

霊夢「はあもう馴れたわ、で？なにやってんのかなよ魔理沙？」

墜落してきたものの正体は霊夢の友人の魔法使い霧雨魔理沙だった、彼女がのっていた箒が半分以上凍っている、おそらくこれが墜落の原因だろう。

魔理沙「イテテ：よう霊夢、こんなところで会うなんて奇遇だな」

霊夢「奇遇だなじゃないわよ、なんで落ちてきたの？」

魔理沙「あっそうだった！チルノと戦ってたんだっ！」

霊夢「チルノ？あの⑨に苦戦するなんて珍しいじゃない」

早苗「それにしてもなんか寒くありませんか？」

魔理沙「いやあそれがな…」

チルノ「見つけたぞ魔理沙ー!!」

三人は声がした方向を向くとアイスエイジドーパントに変身したチルノが湖を凍らせながら走ってくる。

早苗「どうりで寒いと思ったらアイスエイジドーパントでしたか……ってドーパントオオオオオオ!!」ギョツ

霊夢「⑨にも使えるメモリがあるのね。私：ビツクリしました。」

早苗「どつかのラスボスみたいなセリフはかないてくださいよ、つてかなんで知ってるんですか。」

アイスエイジチルノ「誰が⑨だ！アタイをバカにしやがって！カチコチに凍らせてやる！」

霊夢と早苗が雑談しているとアイスエイジチルノ（以降 Iチルノ）が怒り、体から冷気を放つ

早苗「寒っ！霊夢さん！はやく変身しますよっ！」（（； ㇏））
ガクガクブルブル

魔理沙「待つてくれ早苗、これは私とあいつのゲームだ、お前達は手を出さないでくれ」

霊夢「ハツクシオンツ！でも魔理沙あんたさつきやられてたじゃない」ズルズル

魔理沙「いきなり変身してビックリしただけだ、けど今度は大丈夫だぜ」スチャツ

魔理沙は一枚のカード『CHANGE ケルベロス』と黄色のバックル『グレイブバックル』をとりだす、カードをグレイブバックルに装填しバックルを腰に装着する。

霊夢「魔理沙…まさかあんた」

魔理沙「そのままさかだZE！変身!!」

『Open up』

バックルを展開すると同時にオリハルコンエレメントをくぐり魔理沙は仮面ライダーグレイブに変身する。

早苗「グレイブツ！なかなかいいところをつきますね！」

霊夢「そんなことは問題じゃないの、魔理沙あんたどこでそれを手に入れたの」

グレイブ魔理沙（以降G魔理沙）「赤と緑色の陽気なコブラ男にもらったんだぜ」

霊夢「コブラ男って…スタークじゃない！魔理沙！あんた体はなんともないの?!」

G魔理沙「なんともないぜっ！むしろ絶好調って感じだ！」

G魔理沙はその場で腕を振り回し大丈夫なことを伝えていると氷

弾が飛んできてG魔理沙に被弾する、Iチルノがお怒りのようだ。

Iチルノ「いつまでアタイをほったらかしとくつもりだ！もう許さないぞ!!」

魔理沙「おつと悪いな、もう準備OKだぜ！かかってこいよ！」
キッ

魔理沙は醒剣グレイブライザーをかまえる。

Iチルノ「アタイの幻想郷支配のための礎になれー！」
シャー

G魔理沙「いいセリフだな！感動的だ！だが、無意味だZE！」
ザンツ！

足場を凍らせて滑走してくるIチルノをグレイブライザーで
右薙ぎに一閃する。

Iチルノ「グハツ！やるじゃない！氷符『アイシクルフォール』！」
ヒュババババツ！

G魔理沙「弾幕のパワーが上がってるな、いつもより寒いぜ！」
バツ！
ザンツ！

Iチルノ「今度は当たらないよつ！」
ヒラリツ！

振り下ろされたグレイブライザーをよけ刀身と地面を凍らせてG
魔理沙の動きを止める

G魔理沙「ぬっ抜けねえ！」

Iチルノ「隙ありだよつ！とりや！」
ドガツ！バキツ！

G魔理沙「グアツ！」
ドサツ

G魔理沙を吹き飛ばしたIチルノはグレイブライザーの冷凍を解
除し自分の得物にする。

Iチルノ「これなかなか強そうじゃない！さいきよーのアタイに
ぴったりだね!!」
ブンブン

グレイブライザーをめちゃくちゃに振り回しG魔理沙を攻撃する、
Iチルノは何も考えず攻撃しているためG魔理沙は太刀筋が予測で
きずに斬られ続ける。

G魔理沙「いつ！おいつ！痛っ！この…いい加減にしやがれ!!」
バ
キッ！

Iチルノ「へブラツ！」

顔を殴られたIチルノは衝撃でグレイブラウザーを落としてしまふ、

Iチルノ「よくもやったね！これでもくらえっ!!冷符『瞬間冷凍ビーム』!」ヒュバー

G魔理沙「そんな攻撃くらわないぜっ!」ズザー

一直線に放たれる瞬間冷凍ビームをG魔理沙はビームの下をスライディングしながらかわす、Iチルノの冷氣によって地面が凍り滑りやすくなって利用しそのまま地面を滑走しながら近づきIチルノの足元に落ちているグレイブラウザーを拾ってIチルノの足を斬る。

Iチルノ「なにいつ!うわっと!」グラッ

G魔理沙「ざまあ見ろ!機動力を封じてやってぜ!つてうわー!止まらねー!」ガサガサッ

G魔理沙は雑木林に突っ込む、その間にIチルノは氷で足を再生し体勢を立て直す

Iチルノ「アタイの氷を利用するなんてね!やるじゃない!でもこれで終わりよ!!」

Iチルノは右手を天にかざし周りの冷氣を収束し氷のエネルギー球を生成する。

Iチルノ「アタイの究極奥義!永久『エターナルフォースブリ』『MIGHTY』へっ?」

雑木林から電子音が鳴り箒にまたがったG魔理沙が周囲に星の弾幕をばらまきながら極太の金色の光を纏ってIチルノに突撃してくる。

G魔理沙「重彗星『グラビティブレイジングスター』だぜええええええ!!」ズドドドドドドド

Iチルノ「えっ?ちよつちよつと!タンマ!ストップ!ストップ!!」アタフタ

G魔理沙「そのセリフも無意味だぜええええええ!」

ズガーーーーーン!!!

Iチルノ「うわあああああ!!」ピチューーン バリンツ

グラビティブレイジングスターをくらったチルノはメモリブレイクされ気絶する。

G 魔理沙「弾幕はパワーだZ E♪」

魔理沙は変身を解除し、勝利のブイサインを気絶したチルノに向ける。

??? 「チルノちゃん!」

すると緑色の髪に妖精の羽を生やしたチルノの親友の大妖精が飛んでくる。

魔理沙「おっ!大妖精か」ヨッ

大妖精「魔理沙さん、こんには。大きな音が聞こえてきたんですが、またチルノちゃんと弾幕ごっこを?」

魔理沙「まあそんなかんじかな?チルノならあそこでノビてるぜ」クイツ

魔理沙は指をさすとクレーターに大の字でチルノがノビていた

大妖精「あつチルノちゃん!大丈夫?!」タッ

大丈夫はチルノにかけより心配そうに声をかけるがチルノは完全にノビている。

大妖精「無茶しないでついても言ってるのに:魔理沙さん、すみませんでした。チルノちゃんは私が連れて帰りますね」

魔理沙「おうっ!よろしく頼んだぜ??目を覚ましたらいつでもリベンジ待ってるぜって伝えといてくれ」

大妖精「わかりました。では」ヒョイツ ヒューン

大妖精はチルノを抱えて飛んでいく、それを見送ったあと魔理沙は霊夢と早苗に声をかける

魔理沙「二人ともー終わったぜー出てきてもいいぞー」

湖畔の雑木林からすすだれけになった霊夢と早苗がでてきた。

早苗「あく死ぬかと思つた」

霊夢「あんたねえ観戦してる私達のこと考えなさいよ、星形の弾幕よけるの大変だったんだから」

魔理沙「そりゃ失敬、今度から気をつけるぜ♪」

霊夢「フツ:ほんとに反省してるのかしら?」

早苗「ともかく魔理沙さんも合流したことですし、紅魔館にむかいますしょう。」

三人は紅魔館へ歩を進める。

ネオゲナムコーポレーションの社長室

カタカタカタカタ

パソコンの画面を凝視しながら檀 黎斗はひたすらキーボードを叩いていた、パソコンのコードはベルトのようなものにつながれている。

檀 黎斗神「…ようしこれでえ」ピカッ

黎斗の目が紫色に輝くとパソコンから粒子が出てきてベルトを包み込む、粒子がすべてベルトに吸収されるとそこにはゾディアーツスイッチのボタンのようなものが中心にある黒いドライバーができた。

黎斗はコードを外し、ドライバーをかかげていつものように叫ぶ

檀 黎斗神「やはり…私は神だああああ!!」

各階の幹部達「ああ、また叫んでるよ」

黎斗の声がネオゲナムの社屋全域に響き渡るのは日常茶飯事なのである。

紅魔館の門前

紅魔館についた一行は門番である紅 美鈴と対峙していた。

霊夢「ねえ美鈴、ふつうに通してくれないかしら？ 私達はレミリアに聞きたいことがあるだけなのよ」

美鈴「残念ですが、お嬢様からあなた達の実力を試さないと言われておりますので」

早苗「つてことはレミリアさんは私達が来ることを予想してたんで

すね？」

美鈴「ええ、お嬢様は運命を見ることが出来ますから」

魔理沙「じゃあさっさとおっぱじめようぜ」スチャツ
グレイブバツクルをとりだした魔理沙を霊夢がとめる

霊夢「ここはあたしにやらせてちょうだい、さつきから戦いたくて
うずうずしてるのよ」

そういうとスクラッシュドライバーを腰に装着する。

魔理沙「鬼巫女さんは気性が荒いなあ♪しようがないからこのバト
ルは譲ってやるぜ♪」

霊夢「一言余計よ」

美鈴「誰が戦うか決まったようですね」スチャツ

そういうと美鈴は天球儀のような形をしたドライバーを装着しボ
タンをスライドさせる。

『METEOR Ready?』

音声とともに紅魔館の時計塔が展開する。美鈴は両手を互い違い
に回し胸の前で交差する、その後両手を斜めに展開し右手でドライ
バーのレバーを押し下げる、するとドライバーの球体部がミラーボ
ールの如く煌めきながら回転し、ディスクを思わせる曲が流れ、展開さ
れた時計塔から天にむかつてコズミックエナジーが発射される、放た
れたコズミックエナジーは遙か上空の博麗大結界で反射し美鈴に降
りそそぎ青い球体を形成する、その後球体が弾け満天の星空の如く煌
く黒地のラメスーツ。流星の尾を模した袈裟のような青い装甲や頭
部をもつ仮面ライダーメテオに変身が完了する。

メテオ美鈴(以降M美鈴)「仮面ライダーメテオ：あなたの運命は私
が決める」

霊夢「ずいぶん長ったらしいわね、じゃあ私も！」

スクラッシュゼリーのキャップを前にむけドライバーに装填する

『ハクレイゼリー！』

霊夢「変身！」

レンチ型のレバーを押し下げるとスクラッシュゼリーが押し潰さ
れベルトのタンクがゼリーで満たされる。

『潰れる！流れる！溢れでる!!』

霊夢の周りに巨大なカプセルが出現すると同時に液体が霊夢の体を覆ってスーツが形成され、最後に頭部から液体を放出してボディや頭部のパーツ等が出現し仮面ライダーレイムに変身が完了する。

『ハクレイ イン レイム!!ブラア!!』

レイム「変身完了、仮面ライダーレイム：邪魔するやつはぶっ潰す！」

『オンミョウブレイカー!』

レイムはM美鈴にオンミョウブレイカーで殴りかかる、M美鈴は避けずのあえて攻撃を受けた

M美鈴「いい攻撃ですね…だが！ホアチャア!!」バシッ！シュバツシュババ

そしてレイムの腕を弾き連撃をくらわせる。

M美鈴「今の一撃でああなたの気を乱しました。アチヨクホワツチャク！アチャツチャ！」バシッドガツ！ドドツ

レイム「くっ！痛っ！」ガシツバシツ

レイムはふらつきながら反撃するがいなされて攻撃をくらう、掌底をうちレイムを怯ませたM美鈴はメテオギャラクシーの木星のマークがついたボタンを作動す

『Jupiter ready?』

指紋認証装置に左手の指紋を照合して特殊攻撃を発動する。

『OK! Jupiter!!』

M美鈴「ホクワチャー!!」ドゴオ!

レイム「ぐはあっ!!くそっ！」ズザーツ ゴロゴロ ガシツ

ジュピターハンマーをくらって地面に転がるレイム、急いで立ち上がりかまえる

M美鈴「ジュピターハンマーを受けて立ち上がるとはタフですね」レイム「伊達や酔狂で巫女やってないわよ！」スチャツ

ミコフルボトルとハクレイスクラッシュゼリーをオンミョウブレイカーにセットする

『シングル！ツイン!』

『ツインバースト!』

レイム「とおりやああああ!!」グオオオ

M美鈴「ふむ…ならばこちらも!」

メテオスイッチをメテオギャラクシーに装填、指紋を照合してスターライトシャワーをはなつ

『Limit break! OK!』

M美鈴「アチャク! ホツホツホツホワチャク!」バシツ!ズドドドドドドズドーン!

レイム「なっ!ぐあつはっ!ぐうう!!」ズドドドドドド

M美鈴は初撃で左腕を弾きオンミヨウブレイカーを無効化し、がら空きになったボディにラツシユを叩き込むがレイムは踏ん張り、スクラツシユゼリーをドライバーに装填してレンチを押し下げ、オンミヨウブレイカーを弾幕モードに変形してジンジャフルボトルを新たに装填する

レイム「まだまだあ!」

『ハクレイゼリー!』『弾幕モード!シングル!ツイン!』

『スクラツパバニツシユ!』『ツインバニツシユ!』

オンミヨウブレイカーとスクラツシユドライバーで必殺技を発動しレイムの体から赤いオーラが迸り、オンミヨウブレイカーから色とりどりの光の球が飛び出す、赤いオーラと光の球が右足に収束しレイムは飛び上がってライダーキックを放つ。

M美鈴「必殺技の撃ち合いですか!いいでしょう!!」

メテオスイッチをドライバーに戻しスイッチを押して天球部分を回すことで必殺技を発動する

『Meteor on! ready?』『Meteor

Limit break!』

M美鈴は飛び上がり青い電撃を纏った蹴りを放つ

M美鈴「ハアアア!メテオストライク!!」

二人のライダーの必殺技がぶつかりあい衝撃が周りに広がる。

魔理沙「スツゲエパワーだなこりゃ」

早苗「でも霊夢さんは気を乱されてパワーが落ちています!このま

までは！」

レイム「ウオオオオオオ！」ズゴオオオオオオオ

M美鈴「ハアアアアアアアア！」ズゴオオオオオオオ

必殺技がぶつかりあうなかでレイムがベルトのレバーを倒すと赤いゼリーが背中から吹き出し必殺技の威力があがる。

『スクラップバニッシュ！』

レイム「これが今の全力だああああ!!」ズゴアアアアアアア!

M美鈴「こっこのパワーは…ぐはあっ!!」ドガッ!

ドガアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア!

M美鈴は押し負けライダーキックを胴体にくらい門までぶっ飛び爆発する。レイムは着地と同時に変身が解除され膝をつく。

霊夢「はあはあっ、止めのついでに門も開けてやったわ…」

早苗「霊夢さん…ナイスファイトでしたけど…」

魔理沙「門までぶっ壊すのはやり過ぎだZ E♪」

魔理沙のセリフを最後に霊夢の意識は途絶えた。

魔理沙「あく気絶しちまったよ、どーする?このまま置いてくか?」

早苗「それは可哀想なんで待ちましよう、お菓子も持ってきますし」ガサガサ

魔理沙「おー用意がいいな、いただきぜ♪」

数十分後に霊夢が目を覚ますまで二人はお菓子を食べながら楽しく過ごしていた。

第7話 運命の鎧

霊夢が美鈴を倒したことで三人は紅魔館へ入れるようになったが、肝心の霊夢が気絶していたので目を覚ますまで早苗と魔理沙がお菓子を食べながら時間を潰している。と銀髪のメイド服を着た少女「十六夜 咲夜」がでてきて二人に話しかける。

咲夜「どうやら美鈴に勝ったようね、まさか門まで壊すとは思ってなかったけど…」ハアッ

魔理沙「霊夢が美鈴を門までぶっ飛ばしたんだ。犯人はそこでのびてるぜい」スツ

魔理沙は倒れている霊夢を指差す。

咲夜「まあいいわ、お嬢様達がお待ちよ、中へいらっしやい」

早苗「霊夢さんはどーしましょうか？」

魔理沙「こうすれば起きるぜ」スツ

魔理沙は十円を取り出して地面に落とす。

チャリーン

霊夢「十円!!!」

瞬間、霊夢は凄まじい勢いで起きあがり十円に飛び付き

霊夢「十円！拾ったアアアアあ!!!」パンパカパン

拾った十円をかかげて叫んだ

魔理沙「ほらな？」

早苗「なんだか悲しくなってきました」

咲夜「アホなことしてないでさっさといらっしやい」ガチャッ

咲夜は扉を開けて中に入り三人はそれに続く、エントランスホールを抜け、大図書館の横を通りレミリア達がいる広間の扉の前にたどり着いた。

咲夜「さあついたわよ。あら？魔理沙は？」

扉の前で咲夜が振り向くと魔理沙がいなくなっていることに気づく

霊夢「魔理沙なら、図書館に入ってたわよ。どーせ本でも盗みにいったんでしょーね」

咲夜「はあ、面倒事をおこさないといいけど…」

早苗「ところで咲夜さんは戦わないんですか？」

咲夜「私はライダーに変身できるものを持ってないのよ、さあお嬢様達が待ってるわ」ガチャツ

そういつて扉を開けると中には玉座があり、この館の主であるレミア・スカーレットが座っていてその隣に妹のフランドール・スカーレットが立っていた。

レミア「あら？遅かったわね…あまりにも遅いから美鈴に負けて帰ったのかと思ったわ」

レミアは組んでいた足を組み換え二人を挑発し、フランは黒と緑色のガシヤットを指回して笑っていた

霊夢「そんなわけないでしょ、あんな居眠り門番に遅れをとるなんて」

早苗「…けっこう苦戦してましたけどねボソツ」

霊夢「あんたは黙つとれい！」ピシッ

余計な補足をした早苗に平手打ちをした霊夢はフランが持っているガシヤットに目が留まった

霊夢「フラン、なんであんたがクロニクルのガシヤットを持っているのよ？」

フラン「フフ♪これはね私達に挑んできた里の人間達が使ってたの♪」

レミア「レベルの差もわからないバカなライドプレイヤー達をまとめてゲームオーバーにしてやったわ」スウ

レミアが手をかざすと手のひらにエネルギーの球体が形成され、そこにはライドプレイヤー達が二人に挑んでいる様子が映しだされた

早苗「そつそのライドプレイヤー達はどうなったんですか?!」

早苗が尋ねるとレミアは含み笑いをしながら答える

レミア「言ったでしょう？まとめてゲームオーバーにしたと、おかげで私達のレベルが随分上がったわ」

二人の横にモニターのようなものが浮かび上がり、レミアはLv

18、フランはLv16と表示されている

レミリア「ゲームオーバーになった者は消滅する運命…フフ、たった一つしかない命を燃やして戦うのよ」

フラン「フフフ♪楽しかったな〜♪はやくあの叫び声を聞きたいな〜♪」

二人の態度に霊夢は怒りで手を震わせながらスクラツシユドライブーを装着する

霊夢「あんた達、そのレベルになるまで何人の命を犠牲にしたの…？」

レミリア「フフ…あなたは今まで食べてきたパンの枚数を覚えているの？」

その言葉を聞いた霊夢の怒りは頂点に達し、スクラツシユゼリーを取り出す

霊夢「…ぶっ潰す！いくわよ！早苗!!」

早苗「はいっ！消滅した人達の無念を晴らすためにも！」

『ハクレイゼリー！』

『ステンバード』『イエツサー』『ローディング』

霊夢／早苗「変身!!」

霊夢はレバーを押し下げ、早苗はボタンを押す

『潰れる！流れる！溢れでる！ハクレイ イン レイム!!ブラア!!』

『テンガン！ネクロム！メガウルオウド crash the in v a d e r r !』

霊夢は仮面ライダーレイムに、早苗は仮面ライダーネクロムに変身しかまえる。そのような見たレミリアとフランは紅いメモリを取り出して起動させた

『F U N G !』

N早苗は二人のもつメモリに違和感を覚え質問する

N早苗「フアング…メモリですか？なんだか私が知ってるものと色がちがうような…」

フラン「これはパチエに頼んで私達カラーに変えてもらったの♪」

N早苗「なるほど！ペイントしたただけなんですね」

レイム「どーでもいいからさっさと準備してちょうだい」

フラン「あらっそうだったわ♪」

二人はフアングメモリを首筋に現れたコネクタに挿すと二人の顔の下半分にステンドグラスの模様が浮かび上がる

レミリア「フフフ：ヴァンパイア吸血鬼に牙をプラスしたら何になると思う？」

レイム「知らないわよそんなもん!!」

フラン「正解はフアングエアだよっ！おいで！キバット！」

レミリア「これで変身条件は満たした！来なさい！サガーク！」

二人が呼び掛けるとコウモリのようなモンスターと小さなUFOのようなモンスターが飛んでくる。すると、フランの腰に鎖が巻かれコウモリの止まり木のようなベルトが装着され、レミリアには小さなUFOのようなモンスター『サガーク』が体を伸ばして巻き付きベルトになる。

キバット「行くぜ！フランツ！ガブツ！」

フラン「変身♪」カチャツ

フランがキバットを掴み、自分の手を噛ませ魔皇力を注入すると顔の下半分を覆っていたステンドグラスの模様が牙のような模様になり、キバットをベルトにかける。フランの身体は赤い振動とともに一瞬ガラスのようなもので覆われそれが砕け散り、拘束具カテナで覆われたコウモリを模した仮面ライダーキバに変身する

レミリア「フフツ変身」

『ヘン シン』

レミリアは取り出したジャコーダーをサガークに挿し込み引き抜くと青い振動が発生しフランと同じようにガラスのようなものに覆われ一瞬で砕け散り、ヘビを模した仮面ライダーサガに変身が完了する

レミリア「それと：転想『ステージセレクト』」

レミリアがスペルカードを使用すると、夜空に紅い月が浮かぶ古城へと景色が変わった

フラン「さあ！キバって行くわよ！」

レミリア「フフツこんなに月が紅いのに：楽しい夜になりそうね」

キバフラン（以降 Kフラン）とサガレミア（以降 Sレミア）はレイム達に向かって駆け出す

レイム「早苗！あんたはフランを任せるわ！」

『オンミョウブレイカー！』

N早苗「はいっ！任せてください！やっとな私の戦闘描写が…」

ドガツ！

Kフラン「メタな事は言わないのっ！」

N早苗「これは失敬！ハアアアア！」バシツシユバツ

Kフランの蹴りを受けるがN早苗は蹴りの勢いで回転し裏拳を放ち、掌底をKフランの腹部に撃つ。

Kフラン「やるじゃない！」バキツ

N早苗「くっ！」シユババツ

N早苗がKフランから距離をとるために後ろの飛ぶ、すると

レイム「早苗！後ろ!!」

N早苗「へ？」

ザシユツ!!

N早苗「ぐはあっ!!」

Sレミア「私もいることを忘れるな！」ビュンビュン

N早苗「仕方ない！」ビシャー

N早苗は液化化し、その瞬間にレイムが弾幕を放つ。

Kフラン「っ!!」ドガガツ

Sレミア「ごさかしい！」ヒュルルツビシツ

レイム「なっ!!」

Sレミア「場所を変えるわよっ!!」バツ

ジャコーダービュートでレイムを拘束して古城の中に飛び込みS

レミアは

Sレミア「ハアアアアアアア!!」ヒュオーン

ドガアアアン!!!

拘束したレイムをおもいつきり床に叩きつける

レイム「ヴァアアア！やっってくるじゃない!!」

『オハライモード!』

バシツドガッ！ババツ！ズガッ！

レイム「オラアアアアー！」バキイツ！！

Sレミリア「グフツ！！」ヒューン　ズザー

一進一退の攻防の末、オンミョウブレイカーの一撃がSレミリアの顔にヒットしたことでSレミリアの視界が揺らぐ、そこにレイムが追撃をくわえようとするが

Sレミリア「甘いわよっ！！」ザッ！ズドドドドドド

ジャコーダーで斬り上げ、がら空きの胴に連続で突きを繰り出し、追撃で回転斬りを放ちレイムに大ダメージをあたえレイムは膝をつく

Sレミリア「あら？こんな程度かしら？博麗の巫女が聞いてあきれ
るわね」

レイム「はあはあ…うるさいわ…ねえ！！」ブオン！！

Sレミリア「！！」グラツ

突然放たれたアツパーをかわすが、ぐらついてSレミリアはバランスを崩す

レイム「ハッ！ボディから顎にかけてガラ空きになったようねえ
!!!」

『スクラップパニツシュ！』

ドゴオオオオン!!!

Sレミリア「ぐああああああ!!!」ドカーン！！

ガラガラガラ

胸に強烈な一撃をくらい壁に叩きつけられ上から瓦礫が落ちてきてSレミリアは埋められてしまう。その様子を見て一息つくレイムに
にとりから通信が入る。

ピピピピピ

にとり「もしもし霊夢！あくよかつたやつと繋がった！」

レイム「うっさいわね…耳元で騒がないでよ、ってかいつの間にか
んな機能つけたのよ」

にとり「へへへっ霊夢達が寝てる間にちよいちよいつとね♪それは
そうとメモリに保存されてた禁断のアイテムが完成したよ！いまか

ら送るね!!」

レイム「相変わらず仕事がはやいわねえ、で?どうやって送るつてのよ?」

にとり「あのUSBメモリに転送装置の設計図も入ってたのさ。3

2 1 転送!!」

するとレイムの手に赤い神社のようなアイテムが転送された

レイム「なにこれ?神社?」

にとり「それはハザードジンジャって言って、ネビュラガスを利用した強化剤によってレイムの戦闘能力を飛躍的にあげることができ
るんだけど長時間使用すると理せど
ガアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアン!!!

瓦礫の下敷きになっていたSレミアアが青い波動を放ちながら立ち上がり、放たれた波動によってにとりとの通信が切断される

Sレミア「少し油断してたわ…でも、これで終わりよ!!」

Sレミアはフェッスルを取り出してサガークの口に挿し込む

『ウエイク アップ』

ウエイクアップの音声とともに特徴的な音楽が鳴り響きSレミアアは腰に手を当てフェンシングのようにジャコーダーを構える。

Sレミア「王の判決を言い渡す、死だ!」ビシューッ!

レイム「っ!!またなの!」ビシッ

ジャコーダービュートでレイムを拘束し広間の天井に浮かび上がったファンガイアの王の紋章に飛び上がりビュートを絡めレイムを宙吊りにする、着地したSレミアアはジャコーダーを空中に固定して手にライフエナジーで精製した槍を構える

Sレミア「命神槍『スネーキング・デス・グングニル』!!」

レイム「まずいつ!!」カチャッ

深紅の槍が迫るなかレイムは片手でハザードジンジャを起動させてドライバーのプレス機とスクラッシュユゼリーの上から被せるように装着する

『ハザードオン♪』

Sレミア「いまさら何をしようともう遅い!!」

ズガアアアアアアン!!!

グングニルが炸裂し大爆発をおこしてレイムと思われる影が煙に包まれながら床に落下する。その様子を確認したSレミアはフランに加勢しようと背を向け外に向かおうとするが

スクッ

Sレミア「!!」

煙が晴れると無傷のレイムが立っていたがその姿はボディの部分はビルドのハザードフォームと同じで両目が赤くなり、顔を覆う装甲は黒く、額から漆黒の般若のような角が二本飛び出した仮面ライダーレイム。ハザードフォームに変わっていた

『荒ぶる!・昂る!・滅び去る!!ハザード イン レイム!!!ドラー!!!』

ハザードフォームとなったレイムはオンミヨウブレイカーを破棄してSレミアに殴りかかる。

第8話 制御不能

レイムと分断されたN早苗はKフランの猛攻に圧されていた。

Kフラン「禁忌『レーヴァテイン』!!はあっ!!」ズオオ!

ズバアアアアン!!

N早苗「くっ!!相変わらずとんでもない威力ですね!!」

Kフラン「キャハハハハ!!まだまだ行くよー!!!」

レーヴァテインから炎が放たれる、その炎はコウモリの形に変化し

N早苗に襲いかかった

N早苗「はっ!!くっ!!ここまで防戦一方になるとは!!」バシツシユ

バツシユバツ

Kフラン「：隙だらけだよ♪」

N早苗「なあっ!!」

ズバアアアアア!!

炎のコウモリに気をとられていたN早苗は背後に回り込んだKフランに気づかずレーヴァテインの一撃をくらって地面に転がる

ゴロゴロゴロオ

N早苗「はあはあ…さすがは悪魔の妹…徒手空拳では限界がありませんね」

N早苗は紫色のアイコンを取り出して起動しメガウルオウダーにセツトして変形させボタンをおす

『イエッサー』

するとしめ縄の輪を背負った赤いパーカーゴーストがあらわれる

『テンガン!カナコ!メガウルオウド!(グリム風のリズムで)オンバシラ〜♪』

N早苗は八坂神奈子の姿を模した仮面ライダーネクロム カナコ魂に変わる。

Kフラン「あら?フォームチェンジ?なら私も♪」カチャツ

Kフランは腰のホルダーから青いフェッスルを取り出しキバツト

に噛ませる

キバット『ガルルセイバー!』

するとどこからか狼のような剣が飛んできてKフランが掴む、すると左腕はセイバーを持つ事でカテナが解除され、狼男の毛皮と腕を模した形状に変化し身体のメインカラーと左腕、複眼、キバットの眼が青く染まったガルルフォームに変化する

Kフラン「このステージは満月：狼男の力は最高になる!」ブンツ!

ガキイン!!

振るわれたガルルセイバーを御柱で防ぎKフランを押し返す。

Kフラン「ガウツ!!」

ガキインガキガキガキイン!!

N早苗「なんの!筒粥『神の粥』!!」シュバババツ

ガルルセイバーをクラツシャーに啜えてあたりを飛び回りながら攻撃してくるKフランに楕円形の弾幕を放ち動きを止めようとするがキバのフォーム随一のスピードを誇るガルルフォームにすべてかわされてしまう。Kフランは屋根の上に飛び乗り月に背にむけながらガルルセイバーをキバットに噛ませる

Kフラン「フフツこれで終わらせてあげる♪」カチャツ

キバット『ガルルバイト!』

Kフラン『ガルル・ハウリングスラツシュ!!』

周囲が草むらのような風景に変わりセイバーをクラツシャーで啜えて魔皇力を注入して飛び上がり回転しながらN早苗に襲いかかる

N早苗「待っていました!この瞬間を!!」シュツシュツシュツ

N早苗が天に手をかざし目の紋章を描くと雲が月を覆い隠してしまふ。月を隠されたことによりKフランは急激にパワーが下がり減速したところをN早苗が御柱をスイングして吹っ飛ばす。

カキーン!!

Kフラン「キヤアツ!!」ゴロゴロゴロオ

N早苗「フフフ!これこそ神奈子さまの『乾を創造する程度の能力』!!これであなたの力は半減した!!」

Kフラン「半減したから何だつてのよ！だったら他の力を合わせればいいじゃない!!」カチャツカチャツ

キバツト「おっおい！待てフラン!!お前にそれは早い!!」

Kフラン「ウルサイ!!」

フラフラと立ち上がり、キバツトの制止を無視してフェッスルを立て続けに使用する

キバツト『バツシャーマグナム！ドツガハンマー!』

Kフランの右腕と胴体のカテナが解除され、右腕は魚人の鰭と腕を模した形状に変化し、胴体は頑丈な鎧のようになり、頭部はキバフォームのものとなった仮面ライダーキバ ドガバキフォームになった。

Kフラン「はあつはあつ…このキバの力を手にいれてカラ、戦いたくてしかたないノ」ズオオ

Kフランはドツガハンマーは振るいN早苗に襲いかかる。

N早苗「だからって里の人達を消滅させていいわけじゃありません!!」バシツ

Kフラン「うるさい!!」ガシン！ドカーン

N早苗「キヤアアア!」

ドツガハンマーの突きをくらいそのまま投げ飛ばされる

Kフラン「ダったら！ダツタラ！コノ気持チの行き場を教えテよ!!!」

ドガアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア

古城の壁がぶち破られてSレミアが吹き飛んできてKフランにぶつかる。N早苗は壁の穴の方をみると真つ黒にそまったレイムが立っていた。

N早苗「霊夢さん!?そのすがたは?!」

レイム「にとりから送られてきたやつで強化変身したのよ、すごいわ…力がどんどん溢れて…」ガキーン!

Kフラン「キヤハハハハハ!!すごいジャンイ霊夢っ!!!」ドズーン

レイム「うっとおしいわ…よ!!」バシツドツ!

Kフラン「ぐあああああああ!!!」

ドシーン!!

ドツガハンマーの柄を掴んで引つ張り、Kフランの姿勢を崩して回転し裏拳を放つと壁にぶつ飛ばす

レイム「ふう、まあこんなもんね……!」クラア

レイムの意識が徐々に薄れていき、脱力したようにダランと腕をたらしてその場にたたずむ

N早苗「れ…霊夢さん?」

N早苗が心配そうに霊夢に声をかけるが反応がない、するとレイムの後ろでSレミリアが立ち上がりジャコーダーを構え攻撃をしかけようとする。瞬間、レイムが振り返りSレミリアに駆け寄り強烈な一撃を叩き込み、Sレミリアの身体が一瞬浮かぶ、レイムはハザードジンジャのボタンを押しレンチを下げる

ドガアツ!!

Sレミリア「がはあっ!!」

レイム「……………」

『マックス!ハザードオン!!』

『オーバフロー!ドリア!!』

レイムの体から漆黒の強化剤『プログレスヴェイパー』が溢れもう一撃、拳を叩き込むとSレミリアは地面でバウンドし、さらに追撃のヤクザキックを繰り返して吹き飛ばされ変身が解除される

レミリア「ぐあっ!!」ゴロゴロゴロオ

レイム「……………」ダツ!

バシユシユ!

レイムが振り向くとバツシャーマグナムを構えたKフラン立っていた。

Kフラン「はあはあ…こんなモンじゃないわ…モット楽しませてよ!!」ジャキンツ!

左手にもつガルルセイバーで斬りかかるがレイムにすべていなされて逆に手痛い反撃をくらう。そして頭を掴まれ…

Kフラン「ぐっ!はっはなして!!」

レイム「……………」

が抜けた気がしたの…」

早苗「なるほど、おそらくメモリの毒素が抜けたんでしょうね…メモリブレイクはされてないようですが」

霊夢「まあいいわ、あんたとフランのメモリを渡しなさい、私達で処分するから」

レミリア「わかったわ、それじゃあさっさと仲直りしましょう」

霊夢とレミリアが仲直りの握手をしようとしたそのとき

バンツ！

レミリア「っ!!」

レミリアの肩が撃ち抜かれた。霊夢と早苗が発砲音が聞こえてきた玉座の方を見るとそこには

早苗「なっなんで…」

霊夢「なんであんたがそれをもってるのよ!!」

咲夜「!!!」

そこにはトランスチームガンを構えた紅魔館のメイド長「十六夜咲夜」がいた。咲夜はコウモリの模様が描かれたボトルをとりだし

てトランススチームガンにセットし

『Bat』

ポケットに左手を入れトランススチームガンを持った右手を顔の横にもっていき呟く

咲夜「蒸血…」

『Mistmatch』

瞬間、咲夜の姿がミストに包まれた

第9話 吠えるサバト

『Bat…Ba Bat…:…:Fire!』

煙か晴れると咲夜は怪物というよりはダークヒーローという感じの洗練されたデザインのコウモリの意匠をもつ怪人『ナイトローグ』に変身していた

霊夢「コウモリ女…?」

ナイトローグ「ナイトローグだ…」

霊夢「どっちでもいいわ!そんなこと!」

N早苗「咲夜さん!なぜレミリアさんを」

ナイトローグ「お嬢様にはまだやってもらうことがある…:こんな風
にね」

『ライフルモード!』『デビルスチーム!』

バシユツ!

ナイトローグはトランススチームガンをライフルモードに変えてレミリアにガスを撃ち込む

レミリア「くっ!!くああああああ!!」

ガスを撃ち込まれたレミリアが苦しみはじめ体内のメモリからあ
る音声が鳴りはじめる

『FANG…FA…FAN…:…:FFFFFFF…:FANG
IRE!OVER MAXIMUM!』

極限の眩きが聞こえたあとレミリアがシャンデリアのような機械
仕掛けの城塞のような姿にかわりその体の各部分に複数の隠し腕と
複数のレリーフのような顔が彫刻が施された美しくも不気味な形状
をしているほか、長く突き出た首の先には獣の骸骨のような形の顔が
あり、羽の形をした髪型は顔を覆い4つの光る目のようなものを隠し
ているような怪物『サバト』に変貌した

サバト「ぎしゃああああああ!!」

N早苗「うわああああ!!」

霊夢「レッレミリア!!咲夜あんたレミリアになにしたのよ!!」
変貌したレミリアに驚きつつ霊夢はナイトローグに問い詰める

ナイトローグ「お嬢様にガスを注入したのよ…ガイアメモリの新たな可能性を試すためにね、結果は成功だったようだわ…!!」バシツ
状況を説明するナイトローグにいつの間にか目覚めて変身したK
フランが襲いかかるが攻撃を受け止められてしまう

ナイトローグ「あら？妹様お早いお目覚めですね」

Kフラン「咲夜あ！大切な家族だと思ってたのに！なんでこんなことを!!」ガシン

ナイトローグ「……………さあなぜでしょうね」バツ！

Kフランの質問に答えずナイトローグはボディに強烈なひじうちを繰り出しKフランを吹き飛ばす、そして体中のパイプから吹き出した蒸気に身を包み、再び姿を現したときにはブロスやスタークと同じスチームブレードを装備していた

ザシュツ!!

Kフラン「きやあつ!!」ゴロゴロゴロオ

ナイトローグ「満身創痍のその体で…私に勝てると思うな…」

霊夢「フランっ!!」「ハクレイ イン レイム！ブラア!!」

レイムは変身して二人のもとに駆け寄ろうとするがサバトの腕に阻まれてしまう。さらに広間の壁をぶち破ってG魔理沙が飛ばされてくる

N早苗「魔理沙さん!?!なにかあったんですが!?!」

G魔理沙「いててて…図書館で本を借りようとしてたら赤いコブラ男が現れて小悪魔とパチュリーを化け物に変えちまったんだぜ」

魔理沙が開けた穴から2体の異形があらわれる。1体は忍者のよ
うな姿の「ミラージュスマツシユ」もう1体はクラゲのような姿をも
つ「アイススマツシユ」だった。スマツシユ達は魔理沙に襲いかかる。

アイススマツシユ「ふしやあああああああ!」ヒュー

G魔理沙「冷たいのはチルノだけで十分だぜっ!!」ヒョイ

アイススマツシユの冷気を回避したG魔理沙を分身したミラー
ジュスマツシユが「スライスマツシャー」で斬りつける

G魔理沙「ぐあっ!!ちっ、厄介な能力だぜ」

サバト「きゅおおおおお!!」バシーンズガアアアアアアン

レイム「ほんとよ、せめてもう一人いれば…」ガシーン！

サバトの猛攻に耐えるレイムにミラージュスマツシユの分身が襲いかかる、一瞬反応が遅れたレイムをフォローするようにN早苗が分身を突き飛ばす

N早苗「状況は厳しいですね…」

ナイトローグ「余所見してる暇があると思ってるの？」バンツ！

N早苗「っ!!」ビシヤツ

ナイトローグの銃撃を液状化で無効化するがナイトローグはスチームブレードのバルブを回し

『アイススチーム!』ブシユアアアアア!!

冷気で液状化したN早苗を凍らせて動きを封じる

ナイトローグ「これで手も足もでないわね……!!」シユツ

ドガアツ!!ドガアツーン!!

サバトの放った弾幕がN早苗に当たり冷凍が解除され、ナイトローグは軽く跳んで弾幕を避け、天井にぶら下がる

ナイトローグ「チツ…ここじや流石に狭すぎるか」ブウウン

コウモリのバイザーが光りサバトに指令を送るとサバトは天井を突き破り外に飛び出す

レイム「逃げんなあ!!」

『シングルー!』『シングルバニツシユ!』

ズドーン!!

サバト「キュアアアアア!!」

飛び立つサバトの触手をシングルバニツシユで破壊する。しかしサバトは止まらなかった

レイム「くっ!このままじゃ周りに被害が!」

Kフラン「キバット!なんかなのっ!?!」

キバット「もちろんあるぜ!とっておきがなあ!!茶色いフェツスルを使え!」

ホルダーについているフェツスルを取り出しキバットに啜えさせ音を鳴り響かせる

キバット『キャツスルドラーン!!』

ネオゲンムコーポレーション

フェッスルの音が幻想郷の果てにあるネオゲンムコーポレーションにまで届き、社屋のひとつが城のようなドラゴン「キャッスルドラン」に変わり、紅魔館へむけて飛び立つ

グラグラア

氷室幻徳「……なんだ？この揺れは…」

檀正宗「ほほう、これはめでたい『ドキドキ魔界城キバ』がキャッスルドランを使用したようだ」

氷室幻徳「キャッスルドラン？」

戦極凌馬「かつてファンガイア族がドラゴンを生きた城として改造したものだよ、本来は月光を当てないと正体を現さないがフェッスルの音だけで擬態を解除するようにしたんだ」

氷室幻徳「なるほどな…ところで『ドキドキ魔界城キバ』ってのはなんだ？」

檀正宗「息子の趣味だ、いいだろう？」ニンマリ

正宗の満面の笑みに幻徳と凌馬は苦笑するしかなかった

紅魔館

キャッスルドラン「ぐおおおおおん!!」

サバト「ぎしやあああああああ!!」

紅魔館に到着したキャッスルドランはサバトを発見するなり炎を吐きだし攻撃する、直撃したサバトも負けじとエネルギー弾を放ち応戦し2体の怪物は紅魔館上空で激突する

Kフラン「やっちゃえー!!」

レイム「見物してないで私達も行くわよ！フランツ！」シュバツ！

Kフラン「オツケー!!」シュバツ

二人はキャッスルドランの頭に飛び乗り、そこからサバトに攻撃を

開始する

Kフラン「禁忌『クランベリートラップ・キバ』!!」

『スクラップバニツシュ!』

レイム「霊爆符『夢想バニツシュ』!!!」

レイム/Kフラン「ハアアアアアア!!!」

一方 G魔理沙はスマツシュ達に苦戦していた

G魔理沙「ちっ!分身どもが面倒だぜ!!おわっ!」

一瞬の隙をついてアイススマツシュが足元を凍らせ、ミラージュスマツシュの分身が一斉に飛びかかる

G魔理沙「やべえっ!!」

『SATURN READY?』『OK!SATURN

!』

シュインシュイン!!

ミラージュスマツシュ「!!」

ドガアアアアア!!

突然飛来したサターンソーサリーがミラージュスマツシュの分身達ごと本体を切り裂き爆散させる

G魔理沙「まさかつ!」

チツチツチツ

技を放った人物がG魔理沙達の目の前に降り立った

G魔理沙「紅 美鈴!!」

M美鈴「イエス!アイ アム!!」ビシイーツ!

先ほどの戦闘でレイムに吹き飛ばされた美鈴がこの危機を察知して戻ってきたのだった

M美鈴「屋敷に妙な気を感じて急いで戻ってきて正解でしたよ」

アイスマツシュ「うがあああああ!」

M美鈴「フツ!ホワアチャー!!」シュビツバシツ

襲いかかるアイスマツシュをいなしM美鈴はその視線をナイトローグに向ける

M美鈴「さて:~どういふことか説明してもらいましょうか咲夜さ

ん」

ナイトローグ「フッフ：私が簡単に教えると思う？」

M美鈴「まあいいでしょう、先代メイド長としてあなたの行動は見過ごせません」バツ！

二人は駆け出し戦いを始める。ナイトローグの一閃がM美鈴の肩をとらえたが体を捻り回避、そのまま後ろ回し蹴りを繰り出しナイトローグの顔に一撃をいれ数歩退かせる

ナイトローグ「チツ！おいつ!!」ピカア

アイスマツシユ「きしやああああ」

アイスマツシユが指令をうけM美鈴に襲いかかるが…

『MIGHTY』

ずばああああああん！

アイスマツシユ「!!!」

G魔理沙『グラビティスラッシュ』：私を忘れてもらっちゃ困るぜ！

グラビティスラッシュでアイスマツシユを一撃で葬るG魔理沙、これで2体のスマツシユは行動不能になり地面に転がる

ナイトローグ「一撃だと…！ならば！」バサア

ナイトローグは背中に巨大な翼を出現させG魔理沙とM美鈴に襲いかかり放たれる弾幕をすべてかわしながら二人に攻撃をくわえる

G魔理沙「チツ！恋符『マスタースパーク』!!」

ずおおおおおおおおお!!

ナイトローグ「そんな直線的な攻撃なんて当たらないわよ！」

大きく旋回しマスタースパークを避けたナイトローグは煙幕を身に纏った回転蹴りを繰り出した

ナイトローグ「ハアアアアアア!!」ギユルギユルギユル

『METEOR! ON! READY?』『METEOR! LIMIT BREAK!』

M美鈴「ワチャアアアア!!」バシユウウウウン

ナイトローグ「グハア！」

だがM美鈴がリミットブレイクを発動しナイトローグの回転蹴り

を打ち落とす

ナイトローグ「くっ！小賢しい真似を！」

二人はナイトローグを挟むように立ちそれぞれ必殺技を発動する

『MIGHTY!』 『METEOR!LIMIT BREAK!』

G 魔理沙はマイティのカードをリードして重力波をミニ八卦炉に吸収させ、M美鈴はドライバードライバーの天球部分を回転させもう一度リミットブレイクを発動させ地面を踏みつけ振動を起こしナイトローグを軽く浮かせる

G 魔理沙「重恋符『グラビティマスタースパーク』!!!」

M 美鈴「流気符『流星地龍天龍脚』!!!」

重力波を帯びたマスタースパークと青い彗星のような飛び蹴りが放たれナイトローグに迫り決着がつくと思われたが…

ナイトローグ「スペルカード幻世『ザ・ワールド』：私だけの時間よ」

時が止まりナイトローグは二人の必殺技の軌道からはずれ、倒れる2体のスマッシュの成分を空のボトルで回収し、成分を抜き取られたスマッシュはパチュリーと小悪魔の戻る

ナイトローグ「いいデータも得られたし今回はここまでにしておきましょう…次に会うときは私の世界を攻略できるくらいにはなつときなさい？」ブシュー

ナイトローグが蒸気に身を包み退却すると時が動き始め、G魔理沙とM美鈴の必殺技はお互いにぶつかりあう

M 美鈴「えっ?」

G 魔理沙「しまった!咲夜には時間停止が…」

ドガアアアアン!

M 美鈴「きゃあああああ!」

G 魔理沙「くっ!」

必殺技の衝撃で二人は吹き飛び変身が解除される。

魔理沙「悪かったな美鈴、咲夜に時間停止があることを忘れてたぜ」

美鈴「私も暑くなりすぎて気づきませんでした…あ!見てください

魔理沙さん!パチュリー様と小悪魔さんが倒れてますよ!」

魔理沙「たぶん咲夜が成分を抜き取ったんだろうな、おーい起きろー」ペチペチ

倒れているパチュリーの頬を軽くはたく魔理沙に美鈴はある質問をする

美鈴「魔理沙さん、成分とは？」

魔理沙「ん？ああ、スマツシユはネビユラガスを注入された人間が変異した姿なんだぜ、だから人間に戻すときはネビユラガスを抜き取る、その抜き取った成分をもとに霊夢が持つてるフルボトルやスクラツシユゼリーを作り出すんだぜ」

美鈴「なるほど…なんで魔理沙さんはそんなに詳しいんですか？」

魔理沙「私にグレイバツクルをくれたコブラ男がいろいろ教えてくれたんだぜ」

パチュリー「うっうん」

小悪魔「あれ？私はなにを？」ムク

魔理沙が説明していると二人は目を覚ました、だが怪物にされた記憶は失われていたようなのでいまは二人を休ませることを優先し、魔理沙達は霊夢とフランの帰りをまつた。数分後、瓦礫の下で早苗が気を失っているのを発見された。

紅魔館上空

サバト「キュアアアアアア！」スドドドドド

キャツスルドラン「ゴアアアアアア!!」ボウウ

レミリアが変貌したサバトはライフエナジの弾幕を撒き散らし、フラン達は思うように近づけず攻撃できずにいた。

レイム「ああもう！うっとおしいわね！あまり長引かせるとレミリアの体に負担がおおきいだろうに！」

Kフラン「でもどうしよう、このままだとあいつ近づけないわ！」
レイム「そんなことわかってるわよ、仕方ないこいつを使って動き止められればいいけど…」スツ

レイムはハザードシンジャを取り出して考える。オーバーフローモードならば弾幕を突破してレミリアにプログレスヴェイパーを流し込み動きを止められるかもしれない、だが暴走して自我を失ってし

まあば最悪レミリアを消滅させかねないのでレイムはハザードジンジャの使用をためらう。

キバット「動きを止める……！フランドツガを使え！ドツガハンマーなら奴の動きを止めてレミリアの場所を見つけられる！」

Kフラン「なるほど、ハンマーのトゥルーアイね！」カチャツ

キバット『ドツガハンマー！』

キバットがフェツスルを吹くと重低音の音色が鳴り響き、キヤツスルドランの口からドツガハンマーが発射されフランが掴むとKフランドツガフォームにかわる

Kフラン「行くわよおく。」グググ

サバト「ギシャツ!!」

ハンマーの指部分のサンダーフィンガーを開き掌のトゥルーアイをサバトに向けると動きが止まり弾幕の射出が停止する。さらにサバトの中心部にレミリアの反応を見つけた

Kフラン「霊夢っ！動きは止めたわ！お姉さまはアイツの中心部分にいる！」

レイム「オツケー！」

『スクラップバニツシュ！』

レイムはヴァリアブルゼリーを全身に纏いきりもみ回転をしながらサバトに特攻しレミリアを救いだしそのまま紅魔館のベランダに着地する

レイム「レミリアは助けたわ、あとは好き放題やってちょうだい」

その言葉を聞いたKフランは待ってましたと言わんばかりに仮面の下で口角をあげる

Kフラン「キャハハハ♪待ってたわ♪」スッ

キバット『ドツガバイト！』やれやれ…困ったお嬢さんだぜ」

空が朧月夜にかわり、雷が発生する、そして拳状のエネルギーが発生しおもいつきりサバトに叩きつける

Kフラン「禁忌の紫『ドツガ・サンダースラップ』!!!」

ズドオオオオオオオン!!

サバトが砕けちり紅魔館上空で大爆発が起こる。Kフランを乗せ

たキャツスルドランは裏庭に降り立ち雄叫びをあげ勝利を告げた
キャツスルドラン「ギャオオオオオオオオオオオオ!!」

数時間後

パチツ

レミリア「ううん…」

フラン「あつ！よかつた！お姉さまが起きたわ！」

レミリアが私室で目を覚ますと早苗と紅魔館のメンバーが心配そうにレミリアを見ていた

美鈴「お嬢様、体に異常はございませんか？」

レミリア「あ、ありがとう美鈴…大丈夫よ。それより…：…咲夜は？」
レミリアの質問にフランと美鈴が暗い顔で黙りこむ、そんな二人のかわりに早苗が説明する

早苗「咲夜さんはレミリアさんを怪物にしたあと私達と交戦しそしてどこかに行ってしまった」

レミリア「そう…」

悲しい顔をしてレミリアは落ち込み、それをみんなが慰めようとするが突然ドアが開き、変身したレイムが入ってくる。

レイム「あんたたち大変よっ！⑨と大妖精が変な怪物の大軍を引き連れて迫ってきてるわ！」

パチュリー「…今日はいろいろあるわね…まあ怪物にされてた鬱憤を晴らす機会が来たと考えれば…ねえ？キバーラ」

パチュリーが呟くとキバットの二分の一くらいの大きさの白いコウモリが現れる

キバーラ「ウッフ、そうねえこの気配はアイツらだろう血が騒ぐわく♪」

魔理沙「私も手をかすぜ！」

早苗「私もっ！やられっぱなしで活躍できてませんから！」

レミリア「いいえ…あなた達は里に行きなさい…里に良くない運命が見えるわ」

早苗「でもっ！」

レミリア「いいからはやくっ!!」

レイム「わかったわ…行くわよあんたたち」

レミリアに言われ三人は紅魔館を出て里に向かう。

フラン「いいの？あんな厳しく言っちゃって…」

レミリア「ああでもないといけないからね、さあ不屈きものどもを叩きのめしに行くわよ」

紅魔館の門前

怪物に変貌した妖精達を引き連れてきたのは先ほど魔理沙に倒されたチルノと無表情でいつもと違う雰囲気の大妖精だった。

大妖精「かつて俺を封印したキバ…今 そのキバに選ばれた者を倒す…」

チルノ「あれれ??大ちゃんって自分のこと俺って言ってたっけかな…?」

二人は紅魔館の前につくと門の前にレミリア達が立ちふさがっていた。

パチュリー「大妖精…レジエンドルガのロードに捕り憑かれてる…」

レミリア「いらつしやい妖精さん達、今日は団体で就職してきたのかしら?」

チルノ「バカにするな!アタイ達は幻想郷を支配する第一歩として紅魔館を侵略してきたんだ!」

レミリア「あらあら…それは大層なことね」

大妖精「その人数でこの軍勢に勝てると思ってるのか?」

レミリアは不敵に微笑みハンドスナップをすると紅魔館から腰に白い魔法使いドライバー(このssでは以降ワイズドライバー)を着した妖精メイド達がライドスクレイパーに乗って浮かびあがり一斉に仮面ライダーメイジに変身した

『チェンジ ナウ』

大量のメイジ軍団が変身し終わったあとにレミリアたちも変身を開始する

レミリア「サガーク!」『+!』” : — 「+\$/」

フラン「キバット!」『キバって行くぜっ!ガブツ!』

パチュリィ「…キバーラ」『ウフフ♪』

『METEOR! READY?』

小悪魔「イクサ：爆現!!」『READY』

「[[[変身!!]]]」

『へん シン』『FIRST ON!』『ウフフ♪変身♪』

レミリアは仮面ライダーサガ、フランは仮面ライダーキバ、パチュリィはキバの鎧を白くして女性的にした仮面ライダーキバーラ、美鈴は仮面ライダーメテオ、小悪魔は悪魔でありながら聖職者の姿を模した仮面ライダーイクサにそれぞれ変身を完了した。

I 小悪魔「その命、神に返しなさい!」

M 美鈴「仮面ライダーメテオ、あなた達の運命は…私が決める」

K R.パチュリィ「この戦い：私が止めてみせる」

K フラン「キャハハハ、さあキバって行きましょ!!」

S レミリア「まとめて王の判決を言い渡す、あなた達の運命は…死だ」

その様子を見て大妖精とチルノはキバットのようなモンスターを呼び出し変身を開始する

チルノ「レイキバット!行くわっ!変身っ!」

レイキバット「行こうか、華麗に激しく!変身!」

大妖精「倒す…この手で…貴様らを…!変身!」

Aークキバット「じゃく行きますからドロンドロンくへくンンン」

チルノはイエティを模した仮面ライダーレイに、大妖精は3mほどの大きさの巨大なライダー、仮面ライダーアークに変身する。

A 大妖精「行くぞ…開戦だ!!」ダッ

レジェンドルガ妖精「ヴおおおおお!!!」

S レミリア「羽虫どもめ、身の程を教えてあげるわっ!!」

紅魔館勢とレジェンドルガ妖精軍団の戦いが幕をあけた

一方そのころ魔化魍ヒトツミがマスカレイドドーパントを引き連れて人里を襲撃していた

ヒトツミ「へっへっへ」ガブツジュールジュール

ライドプレイヤー「きやあああああ……あ」ガクッ

『GAME OVER』

ヒトツミ「オラア！ほかに俺様にかかってくる奴はいねえのかあ！！」

ヒトツミは果敢にも挑んできたライドプレイヤーを打ち倒して血を啜りゲームオーバーにして暴れまわっておりマスカレイドドーパント達は変身できない住人達を襲っていた。

少女「きやああああー！」

マスカレイドドーパント「へへへ、おじょうちゃん怖がらなくていいんだよ？さあこつちにおいで」

少女「だっだれか助けて！」

路地でマスカレイドドーパントが少女に襲いかかろうとしたそのとき

???『オラアアアア!!オラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオオオオラアア!!』

マスカレイドドーパント「ぎやひっ！ぎっ！ぐわっ！ばばばばば！」バシユウウウン

マスカレイドドーパントは見えない何かのラツシユをくらい消滅する。少女が振り向くと路地の奥から帽子をかぶった見慣れない服装の高身長の方が歩いてきた。

???「やれやれだぜ……登校中になにかに落っこちたかと思ったら見たこともない場所にて化け物どもが暴れまわってるんだからよ……お嬢ちゃん、どつか安全な所に避難しな」

少女に避難するように促し男は怪物達が暴れまわってる方に歩いていく

???「スタープラチナが見えてないようだったからスタンド使いではないことは確かだが……それにいつの間にかポケットに入っていたこいつの事もわからねえ」カチャッ

男が手に持っていたのは赤いバックル『ロストドライバー』だった

第10話 奇妙な変身

慧音「ほらっみんな早く逃げて！」

寺子屋で教師をしている半人半獣の上白沢 慧音は子供達を安全な場所に避難させようとしていた。

マスカレイド1「おっと、こっから先は行かせないぜ〜」ガシツ
子供「きやあっ」

慧音「おいっ！子供に手を出すなっ！！」グツ

マスカレイド2「はいはい、先生はおとなしくしてましようね〜」

マスカレイドドーパント達が子供を掴み連れ去ろうとするのを阻止しようとした慧音をほかのマスカレイドが邪魔する

マスカレイド3「こいつらはヒトツミ様の餌にさせてもらうぜ」

マスカレイド2「へへへ♪それじゃ俺達はこの先生を…ジュール
リ」

慧音「ふんっ！！」ブルンツ！

マスカレイド2「うおおお！」

慧音はマスカレイドを投げ飛ばし懐からガイアメモリを取り出す

慧音「得体のしれない物は使いたくなかったが…仕方ない。」

『JOKER』

慧音「たしかこうだったか？」

首もとに現れたコネクタにメモリを挿入すると、慧音の服装と髪が黒く染まり、両手の甲にメモリと同じJのマークが浮かび上がった、ジョーカー慧音に変化する。

マスカレイド1「てめえ！そのメモリをどこで！」

ジョーカー慧音「よくわからんが里で貴様らが暴れ始めたときに、気がついていたらポケットに入っていた」

マスカレイド2「たとえジョーカーメモリでも相手は女で三対一だ
！やるぞっ！！」

マスカレイド1/3「オウツ！」

マスカレイド達は一斉に慧音に襲いかかる。ジョーカー慧音は一人目にボディブローを叩き込み二人目にぶつけるように蹴り飛ばす、

それを回避した三人目は回し蹴りをジョーカー慧音の顔にヒットさせよめかせる

マスカレイド3「ふんっ！俺はそっちの二人とは違って格闘技の心得があつてな」

ジョーカー慧音「ペツ、ほんとにそうか？隙だらけだぞっ!!」シュバババ

連続してひじうち、膝蹴り、アツパー、ボディブロー、頭突き、ローキックを繰り返しマスカレイド3は吹き飛び倒れていた二人のもとにころがる

マスカレイド2「ギャヒッ！」

マスカレイド1「どけっ！重いだろうがっ!!」

マスカレイド3「うゝん」クラクラ

マスカレイド3は1と2の上ののしかかったまま気絶して二人の身動きをとれなくさせてしまっている。ジョーカー慧音は右足にエネルギーを溜め飛び蹴りを放つ

『Joker maximum drive!』

ジョーカー慧音「ハアアアアアア!!」

マスカレイド達「わわっ!!待て待て！待て!!」

ドガアアア!!

飛び蹴りは三人に命中し消滅させる。脅威が去り一息ついていると子供達の叫びが聞こえる

子供「先生っ！うしろっ!!」

ジョーカー慧音「っ!!ぐあっ!!」

ふりかえると騒ぎを聞きつけたヒトツミが左腕の盾で慧音を殴り飛ばした

ヒトツミ「騒がしいと思ったら、女一人になにを手こずってやがる」
ヒトツミは子供に襲いかかろうとするがジョーカー慧音が腰にしがみつき動きを封じる

ヒトツミ「テメエ！離しやがれっ!!」ガスッガスッ

ジョーカー慧音「うっ！みんなっ私のことはいいいから逃げなさい！」

子供「でも先生をおいて逃げられないよ…」

ジョーカー慧音「いいから早く行きなさい！必ず私も行くから！」
子供達は慧音に待つてると言い残し避難していく、その様子を微笑みながら見送りヒトツミを掴む力を強くする

ヒトツミ「ちっ！いい加減にしやがれえっ!!」ブンツ

ジョーカー慧音「グツ!!」バシーン

慧音を引き剥がし壁に投げつけると槍を構え止めを刺すため近づ

く
ヒトツミ「雑魚にしては頑張ったがここまでだなあ…！」スツ

ヒュツ バシツ

ヒトツミ「ちっ！誰だっ！」

槍を振り上げたヒトツミにマスカレイドが飛んでくる、槍でそれをはらうとマスカレイドが飛んできた方をむく、そこには幻想郷では見かけないような服装の男が立っていた

ヒトツミ「人間か…俺の手下どもはどおした！」

???「マスカレイドドーパントだったか？いまごろ…お花畑で走り回ってるだろうぜ…」

ヒトツミ「なんでてめえがドーパントのことをしってるんだよ！」

???「さあな…この赤いやつを腰に巻き付けたら頭の中にあるんな情報の流れ込んできてな」

ヒトツミ「ロストドライバー！なぜお前がっ!!」ダツ

男の腰にはロストドライバーが巻かれていた。それを見たヒトツミは男を危険と判断し襲いかかる。槍を突きだすがなにかに掴まれたように動かなくなり顔を謎の衝撃が襲う。

ヒトツミ「ちっ！だがロストドライバーだけじゃ俺は倒せねえ！」
ブルンツ

槍を力任せに振るって拘束を抜け出したが男は飛び上がりジョーカー慧音の近くに着地する

???「そんなことは知ってる。おい女！テメエのメモリをよこしな
！」

ジョーカー慧音「なっ…あんたは一体…」

??? 「はやくしやがれっ!!」

男に急かされ慧音はメモリを抜き差し出す、ジョーカーメモリは男の手にわたると強く輝きだす

ヒトツミ「過剰適合の光…!」

『JOKER』

そしてメモリを起動させドライバーにセットする

??? 「どうやら切り札は常に俺の所に来るようだぜ…たしかこう言うんだっとな…変身」

『JOKER!』

男はシンプルな見た目の漆黒の仮面ライダー、仮面ライダージョーカーに変身した。そして素早くヒトツミの懐に入り攻撃をはじめる
ゴゴゴゴゴゴゴ

ジョーカー（以降 JO 承太郎）「この空条 承太郎は所謂不良のレットルを貼られている…」シュッ

ヒトツミ「くっ!!」バシッ

ヒトツミにパンチやキックを繰り出しながらヒトツミに確実にダメージをあたえていく

JO 承太郎「ケンカの相手を必要以上にブチのめし、いまだ病院から出てこれねえヤツもいる…イバルだけで能無しなんで気合いを入れてやった教師はもう二度と学校にこねえ。料理以下のマズイ飯を食わせるレストランには代金を払わねーなんてのはしよっちゅうよ…」バキいッ

そして腹部に強烈な一撃を叩き込み大きく後退させ…

ヒトツミ「ぐぼお!!病院?レストラン?なんの話をしてんだっ!」ズサッ

JO 承太郎「だがこんな俺にも吐き気をする『悪』はわかる!!『悪』とはテメー自身のためだけに弱者を利用し踏みつけるやつのことだ!!ましてや女を!!」

もう一度近づき今度はきつめのエルボーを食らわせる

JO 承太郎「きさまがやったのはそれだ!ああん?テメエには被害

者自身も里の人間も敵わねえし倒せねえ……だから！」

J O 承太郎は頭部のアンテナをなぞりながら高らかに宣言する

J O 承太郎「俺が裁く!!!」

ヒトツミも負けておらずその隙を狙い反撃を開始する

ヒトツミ「悪う?それは違うな……悪とは敗者のこと……正義とは勝者のこと……生き残った者のことだ!!」

J O 承太郎を突き飛ばして髪の毛を伸ばし捕縛攻撃を仕掛ける

ヒトツミ「過程は……問題じゃあない!!」ヒュバババババ

初撃を回避され木の桶を蹴り飛ばした攻撃を髪の毛で縛り粉碎する。そして着地した瞬間を狙い捕縛に成功した。

ビシイイイ

ヒトツミ「負けたヤツが悪なんだよ!トドメ喰らえ!!」ボウ

J O 承太郎「何い?敗者が悪?」

ヒトツミ「魔炎『鬼喰い焰』!!!」ボオオオオオ!!!

J O 承太郎「それじゃあやっぱり!!」ブチブチイ

スタープラチナ『オラアアア!!』

ジョーカーに変身したことによりスタンドを持たぬ者でも見えるようになったスタープラチナが髪の毛を引きちぎって炎を防ぎかき消す。

ヒトツミ「なにい!バカなっ!俺の魔炎を弾き飛ばしたあっ!!」

J O 承太郎「テメーのことじゃあねえか!!!」

ガシイッ!!!

スタープラチナ『オラオラオラオラオラオラオラア!!』ブンブンブン

スタープラチナがヒトツミの首を掴み激しく何度も揺らす

ヒトツミ「ぐっ!がはあ!!」

さらに拳を握りしめ顔を何度も殴る、殴る、殴る!!

スタープラチナ『オオ!!オラア!!オララララオラ!!』

J O 承太郎「裁くのは!!」

『JOKER!MAXIMUMDRIVE!!』

ヒトツミを軽く上に投げてジョーカーメモリをマキシマムスロット

トに装填して必殺技を発動するとスタープラチナの拳がJ〇承太郎の拳に重なりヒトツミの顔面に強烈な一撃をおみまいする。

J〇承太郎「俺のスタンドだあああああ!!!」

ボツゴオオオオオオオオオオオオオオオオ!!!

ヒトツミは天高く打ち上げられそのまま爆発し落下する

ヒトツミ「ごっつはあ…なんてパワーの野郎だ…」バタンっ

そしてその場に倒れ、仮面ライダージョーカー空条承太郎の幻想郷でのデビュー戦は華々しい勝利を飾り幕をおろした

第1話 飛来する戦士

ヒトツミを撃破したJ〇承太郎は倒れている慧音を立ち上げらせ
ここがどこかを聞く

J〇承太郎「ここは何県のどこだ？どうすれば帰ることができる
？」

慧音「県？ここは忘れられた者たちが集う幻想郷だ、幻想郷は結界
で覆われていて普通は出入りできないはずなんだが…この異変のせ
いだろうか？」

簡単には帰れないことを告げられJ〇承太郎は大きなため息を吐
き変身を解除して里の出口を探しにむかう

慧音「待てどこへいくつもりだ？」

承太郎「宿探した、帰れないんなら拠点を探すしかないだろ…」

慧音「それだったら助けてもらった礼だ、私の家に来るといい。自
己紹介がまだだったな私は上白沢 慧音、寺子屋で教師をしている」

承太郎「…俺は空条 承太郎だ、お言葉に甘えさせてもらうぜ…」

!! バツ

ルパッチマジックタッチゴールパッチマジックタッチゴーエクス
プロージョンナウ

不審な音が鳴り響き二人の周りが爆発する、承太郎はスタープラチ
ナに慧音と自分を抱えて飛び上がらせ爆発した位置から離れ音が聞
こえてきた方を睨む

慧音「…金色の魔法使い？」

基本カラーは金色と黒で、頭部には黄金の帽子が身に付けられてお
り、マスクは原石のような造形とカイゼル髭のようなパーツが特徴的
な魔法使いが二人にむかつて歩いてきた

金色の魔法使い「初変身でヒトツミを倒し私の魔法も避けるとは、
ハツハツハツ！素晴らしいじゃないか！仮面ライダージョーカー!!」
パチパチ

承太郎「なんなんだてめえは…」

金色の魔法使い「私はオーマ！またの名を魔法使いソーサラー!!いや：君達に合わせるならば仮面ライダーソーサラーと言ったところか？」

承太郎はソーサラーが自己紹介をしている隙にロストドライバーを装着しメモリをとりだす

ソーサラー「女性を守りながら戦うその姿勢は実に美しい、ここに拍手を送ろう！だが……」パチパチ

ソーサラーはドライバーのレバーを操作して手形の部分に指輪をかざして魔法を発動する

『リバイバル ナウ』

ソーサラー「お楽しみはこれからだ!!」

ヒトツミに金色の魔方陣が被さり復活させ、さらに巨大化していく

巨大ヒトツミ「グハハハハ!!里ごと喰ってやるぜい!!」ズオオオオ

巨大ヒトツミが承太郎と慧音を踏み潰そうと足を振り上げる

承太郎「野郎っ！厄介なマネをつ！どこにいきやがった!!」

承太郎が視線をソーサラーに戻すとすでにどこかに居なくなっていた。そうしている間にもヒトツミの足が迫ってくる

慧音「承太郎!!まずはこいつを里から遠ざけるんだ!!」

巨大ヒトツミ「もう遅いつ！ぶつつぶれるおおお!!」

ズシイイイイイイイン!!!!

巨大ヒトツミ「なにつ！」

足をあげるとそこには潰したはずの二人の姿はなく大きなクレターができていただけだった。巨大ヒトツミから少し離れた木の下で承太郎と慧音は隠れていた。

承太郎「『スタープラチナ・ザ・ワールド』……ふうなかなか危なかった」

慧音「そんな事ができるならもっと早くやってくれ!」

承太郎「やかましいぜ……とりあえずアイツからもっと離れるぞ」

慧音「子供達が無事だといいが……」

承太郎「慧音、あんたの家はどっちだ？アイツから離れてる場所に

あると嬉しいんだが」

慧音「残念ながら里にある…しばらくは野宿だな」

承太郎「…やれやれだぜ」

二人は巨大ヒトツミから遠ざかるために歩きだした

そのころ紅魔館から退却してきた霊夢達はミスティアの屋台を襲っていた怪人達と戦っていた

レイム「おらああ!!」バキィ!!

初級インベス「イギヤ!」

N早苗「はっ!!」バシツシユバババ

屑ヤミー「ああああつ」

Fミスティア「くっ!倒しても倒してもキリがない!」ザンツザンツ

ミスティアは白鳥を模した仮面ライダーフォームに変身し、ウイングスラツシヤーで敵を切り裂いている。

レイム「早いとこケリをつけないと…分断された魔理沙も心配だし」

『スクラップパニツシユ!』

エネルギーを纏ったパンチを初級インベスにくらわせて周りを巻き込み爆発させる

N早苗「ふっ!おりやつ!まったく屑ヤミーってのはしぶとくて嫌いです!」ガシツドン!

ブラッドスターク「だったらこいつらならどうだい?」

ズドドドドドドドド!

N早苗/Fミスティア「!!!」

レイム「スターク!!」

コブラを模した怪人ブラッドスタークが顔にゲンムのバイザーがついた機械兵士『ゲンムガーディアン』を引き連れて現れた。さらにスタークはヘルヘイムの果実を初級インベス一体に与えライオンインベスに変貌させる

ライオンインベス「がおおお！」バツバシッ

Fミスティア「くっ！新手！」

ブラッドスターク「魔法使いの嬢ちゃんの心配より自分の心配をしたほうがいいぜえ」

レイム「どういうことよ？」

ブラッドスターク「あれだよ」スッ

スタークが指差した先には暴れまわっている巨大ヒトツミがいた
レイム「なによアイツ！また怪獣ってわけ!？」

N早苗「いいえ違います！あの化け物は…」

ズバババツ！

N早苗達の足元にトランスチームガンで弾幕を放ちながらスタークがスチームブレードで斬りかかる。N早苗はそれを右手でガードしてスタークと組み合う。

ブラッドスターク「アイツは魔化魍…大小様々な種類がいるが怪獣じゃねえ怪人だ」ギリギリ

N早苗「あなた達は魔化魍を育てる技術も持っているということですかっ!？」ググッ

ブラッドスターク「ああその通りさー」ドカッ!!

N早苗「キャッ」

スタークはN早苗の腹部に蹴りを放ち突き飛ばす。二人が戦っている隙にレイムはにとりに連絡する

ピピピピ

レイム「にとり！デカイ化け物が現れたわ！リクを出撃させて!!」
にとり「リツくんならもう向かってるよ」

レイムが空を見上げると天空の彼方からウルトラマンジードが飛んでくる様子が確認できた

ジード「シユワツ!!」ドガッ！

巨大ヒトツミ「げふっ!!」ズドオオオオン

ジードは急降下キックをヒトツミの顔面にくらわせて着地する。
ヒトツミはすぐさま立ち上がり槍を振りおろして来るが横に転がっ

て回避して獣のような荒々しいスタイルで飛びかかる。

巨大ヒトツミ「しやらくせえ!!」バシユーンバシユーン!

ジード「グアツ!!」ドシイイイイン!!

巨大ヒトツミ「ガハハハ!!隙だらけだぜえ!!」ザクツザクツザクツ!

倒れたジードの上に飛びかかって槍を胸部めがけて何度も突き刺した

ジード(リク)「くっ!パワーじゃ勝てない…だったら!!」

精神世界でリクは2つのカプセルを起動させナツクルに装填する

リク「ユーゴー!」

ウルトラセブン『ダアア!!』

リク「アイゴー!」

ウルトラマンレオ『イヤー!!』

リク「ヒアウイーゴー!!」

『フュージョンライズ!!』

リク「燃やすぜ!勇氣!!ハアツ!!」

ジードライザーでナツクルに装填された2つのカプセルをリードしてライザーを天に掲げたあと胸の前で構え叫ぶ

リク「ジイイイド!!!」

『ウルトラセブン!ウルトラマンレオ!』

『ウルトラマンジード!ソリッドバーニング!』

ジード「ジユワツ!!」ゲシツ!!

ヒトツミ「うおっ!!」

ソリッドバーニングになったジードはヒトツミを蹴り飛ばし立ち上がる。そして体から蒸気を吹き出しながら構える

ジード「ハアツ!!シャツ!」

ガシツ! バシユーンズドオオオオン

先ほどよりもパワーがました攻撃にヒトツミは大きく後退する

巨大ヒトツミ「ちっ!喰らえ!!魔炎『鬼喰い焰』!!」ボウ!!

ジード(リク)「ソーラーブースト!!!」ズドオオオオ!!!

互いの放った光線はぶつかりあい拮抗するがソーラーブーストが徐々に圧していきヒトツミの眼前までせまりギリギリのところヒトツミは離脱する。ジードはスラッガーを装備して接近戦にもちこむ

巨大ヒトツミ「やられてばつかでいられるか!!」ガキイン!!

ジード(リック)「グアッ!!エメリウムブーストビーム!!」ビー!!

盾で光線を防ぎながらジードを突き飛ばす。

巨大ヒトツミ「どうしたあ!!そんなもんかあ!!」

ジード「ウオオオオ!!」

二つの巨影をネオゲナムコーポレーションから見つめていた伏井

出 ケイは怪獣カプセルの一つを起動し

ケイ「ケルビム」カチャ

ケルビム『ギャルルルル!!』

ナツクルにカプセルを装填しライザーでリードする

ケイ「この世界のジードの腕試しだ…エンドマークを打ってこい

!!」

『ケルビム!!』

ズズウウウウン!!

ケルビム『ギャルルルル!!』ブンツ!!

ジード「ナッ!?!」ガシッ

巨大ヒトツミ「どこのどいつだか知らねえが!ありがよっ!!」ブン

ブンブンツ!!

ジイイイイ

突如現れたケルビムに尻尾攻撃を食い止めるがヒトツミの槍撃が襲いかかりジードは再び窮地にたたされる。が突如幻想郷の空に宇宙と繋がったクラックが開いて青と赤のウルトラマンが落下してきた。

ドスウウウウン!!!

ウルトラマンゼロ「いてて…なんだったんだあの裂け目とツルは…ってジード!?!お前こんなところでなにしてんだ」

ジード（リック）「えーと、だ…誰？」

落下してきたウルトラマンゼロはジードがいたことに驚くが彼が知っているのは別世界のジード 朝倉リックなので河城リックは突然現れたウルトラマンの存在に困惑する

ウルトラマンゼロ「誰って…ゼロだよーウルトラマンゼロ！一緒に戦ったろ!?ウオツ！」

ゼロがジードに話しかけているときヒトツミは槍で攻撃を、ケルビムは頭部の一本角で切り裂こうと頭を振り下ろす、ゼロは角を掴んでケルビムをヒトツミの槍撃を防ぐ盾にして防御する

ケルビム『ギャウツ!?』

ウルトラマンゼロ「オラっ!!」ゲシッ!

盾にしたケルビムを蹴飛ばしヒトツミに当てて二体のバランスを崩したあとジードを立ち上がらせ共闘をもちかける

ウルトラマンゼロ「話はあとだ、まずはこいつらを片付けるぞ!!」

ジード（リック）「わかりました。シュワッ!!」

ジードは飛び蹴りを立ち上がったヒトツミの胴に叩き込み、ゼロは水平チョップをくりだす

ウルトラマンゼロ「デヤア!!」

巨大ヒトツミ「ヌウツ!!」ブンツ!

ウルトラマンゼロ「おっととと、いまだ!ジード!!」

ゼロはヒトツミの槍の薙ぎはらいを一步うしろにさがり回避、大振りの攻撃によって生まれた隙を狙ってジードはブースターを噴かしながら飛び上がり、右腕のジョイントにジードスラッガーを装着して威力を上げたパンチを叩き込む。

ジード（リック）「ブーストスラッガーパンチ!!!」ドガアツ!!

腹部に痛烈な一撃を喰らったヒトツミは大きく後退する。すかさずゼロがストロングコロナゼロにタイプチェンジしてヒトツミの首もとを抱え込みおもしろきり空に投げ飛ばす。

ウルトラマンゼロ「ウルトラハリケエエエエエン!!!」ギョルルルルルルルル!!!

巨大ヒトツミ「うおおおおお!!!」

ウルトラマンゼロ「からのおおお!!!」トンツ

ジードは腕部アーマーを展開し、ゼロは左腕のウルティメイトブレ
スレットを軽く叩き右拳にエネルギーをチャージしてそれぞれの必
殺技を放つ

ジード（リック）「ストライクブーストオオオ!!!」

ウルトラマンゼロ「ガルネイトオオバスタアアア!!!」

ズドドドドドドドドド

巨大ヒトツミ「ぐわああああああ!!!」ドガアアアアア
ン!!!

二人の光線がヒトツミに炸裂して大爆発を起こす。しかし気絶か
ら目覚めたケルビムが火球を乱射しながら襲いかかってくる。

『アクロスマツシヤー!』

ジード（リック）「スマツシユビームブレード!ハアツ!!」

ウルトラマンゼロ「…ルナミラクルゼロ」

二人のウルトラ戦士はそれぞれ青い姿『アクロスマツシヤー』と『ル
ナミラクルゼロ』にタイプチェンジする。ジードは左人差し指と中指
で印をつくり右腕にエネルギーを集中することで黄金の刃を形成し
光を越える速さでケルビムを切り裂く。

ウルトラマンゼロ「ミラクルゼロスラッガー…」シユシユシユイン

ケルビム「ギユアツ…!!」

光のゼロスラッガーを作りだしケルビムにむけて放つ、スラッガー
は体を貫通し無数の穴が開いた。ジードはジードクロウを召喚して
クロウ部分を展開し必殺技をケルビムの頭上に放つ

『シフトイントウマキシマム!』

ジード（リック）「ディフュージョンシャワー!!!」シユビンツ!

ズドドドドドドドドドド!!

ケルビム「ギユアアア!!!」ドガアアアアアアン!!!

無数のレーザーが降り注ぎ大爆発がおこり、それを背にして二人の
戦士が並び立つ。

ウルトラマンゼロ「ふつ、俺たちに勝とうなんざ二万年早いぜ。さ
て話を聞かせてもらおうか」

ジード（リック）「わかりました。じゃあ変身を解きましよう」

ジードはリックの姿に戻るがゼロは人間態を持たないためかつて自分が憑依したサラリーマンの伊賀栗レイトの姿に変身した。

ゼロ「念のために聞いておくがお前は朝倉リックじゃないんだな？」

リック「はい、僕の名前は河城リック。河童の河城にとりつて子がつけてくれました。」

ゼロ「河童かなるほどな……って河童あ!？」

リック「河童って珍しいんですか？」

ゼロ「珍しいも何も妖怪だぞおい！」

リック「なんだったら僕のうちに来ますか？そこにとりがいるので」

ゼロ「ああそうさせてもら……そのまえにアイツらを片付けないな」

ゼロが指差した方向ではブラッドスターク率いる怪人達と戦っているレイム達がいる

ゼロ「行くぞリック！」

リック「はい！えーと」

ゼロ「ゼロでいい!!急げ!!」ダッ

ゼロはウルトラゼロランスを、リックはジードクローを召喚して怪人達にむかっていく

そのころジード達から遠く離れた丘の上で少女グランベル・スカーレットは微笑んでいた。

グランベル「ウフフ♪ちよつと過保護だったかしら？でもこれでもっと面白いことになるはずよ♪」

グランベルがその場から立ち去ろうとしたとき黒いバイクがこちらに走ってきてグランベルの前に止まる。バイクに乗っていたのは黒いバトルスーツ（バイオハザードのウエスカーのような）に身をつつみ、顔は朔田 流星に似た男だった

???「貴様がグランベル・スカーレットだな？」

グランベル「そうだけど？なにか私の用かしら？」

男はホロスコープスイッチに似た変身ベルト『スタードライバー』を取り出して装着する

??? 「檀黎斗からの依頼だ…貴様を排除する…変身」

スタードライバーの中央のボタンを押すと男は黒と金の煙に包まれて周りに十二星座の紋章が浮かびあがり頭上に巨大な蛇使い座が描かれた魔方陣が展開され、魔方陣が煙ごと男の体を通過すると黒と金を基調としたゾディアーツのような仮面ライダーに変身が完了した

??? 「俺はネオゲナムのハンター『エイラ』、あまねく星々を司る仮面ライダーゾディアーツだ」

グランベル「私の知らないライダーシステム…：良いわね♪面白そうじゃない♪」カシュー

『デュアルガシャット!』

『The strongest fist! What's the next stage?』

グランベルはゲーマドライバーを装着してガシャットギアデュアルCクリムゾンを挿し込みレバーを開く

グランベル「マックス大変身!」

『ガッチャーン!マザルアップ!』

『緋あけの拳強さ!紅きパズル連鎖!緋の紅き帝座!パーフェクトノックアウト!!』

クリムゾンパラドクスに変身し蒼い槍『スピア・ザ・ゲイボルグ』を召喚し、Zエイラに斬りかかる

CPグランベル「さあ!!未知のライダーの力で私を楽しませてちょうだい!!」シユバツ!

Zエイラ「充分味わうといい…輝ける星の力を!」シユインツ!

『レオ・クロー!』

Zエイラはドライバーの水色のボタンをタッチしてレオゾディア

アーツのクローを両腕に装備して受け止める。その衝撃は大気を揺るがし辺りにいる小動物や妖怪が逃げ出すほどだった。

CPグランベル「フフフツ!!心が踊るわあっ!!!」

『高速化!』

エナジーアイテムで加速するCPグランにZエイラは黒い残像を残す高速移動で対抗する。

Zエイラ「まだまだこの程度で満足してもらっては困る!!」

二人のライダーは周囲を薙ぎ倒しながら戦う。霊夢達が知らない激闘がいまここにはじまった

第2章 イレギュラー襲来の章

第12話 来訪神と獣が噛う

CPグランベル「そのシステム、ゾディアーツの装備が使えるのねっ!!」ガキイイイン!!

CPグランベルのゲイボルグはZエイラの装備したキャンサーシザースによって2つに折られる

Zエイラ「ふっ、脆い槍だな！木の枝かと思ったぞ!!」ガオオオオオン!!

Zエイラは口元のクラッシュャーから咆哮弾をはなちCPグランベルを吹き飛ばす。グランベルは体制を立て直しゲイボルグを双剣の状態で召喚してギアデュアルのダイアルをパーフェクトパズルに合わせレバーを開閉して必殺技を発動する

CPグランベル「双刃『ツイン・ザ・ゲイボルグ』！からのおおおおお!!!」

『ガッチョーン！ウラワザ！ガッチャーン！』

『鋼鉄化！マッスル化！』

『パーフェクトクリティカルコンボ!!』

CPグランベル「連舞『デュアルコンボスラッシュ』！」

Zエイラ「何本増えようが同じことだ!!」

エナジーアイテムで強化したゲイボルグに紅蓮のオーラを纏わせて交差させて斬りかかる。Zエイラはキャンサーシザースで防御するがマッスル化で強化された一撃はZエイラの予想を越えた威力を生み出し吹き飛ばされる。Zはすぐさままたちあがりアリエスゾディアーツの杖『コツペリウス』を召喚する

『アリエス！コツペリウス！』

『高速化！』

コツペリウスから光弾を周囲にばらまくように放つ。CPグランベルは高速移動ですべて回避してZエイラに双刃を振り下ろす

ガキイイイン！

CPグランベル「無駄よ、クリムゾンパラドクスはエナジーアイテムの力を一つにつき二倍にして使用できるの♪」

Zエイラ「なるほどな…どうりでキャンサーの防御を突き破るわけだ」

CPグランベル「そういうこと♪これでトドメよ♪…あら？」

エナジーアイテムを操ろうとするがなにも反応がない、その隙に近距離で咆哮弾をくらう

Zエイラ「マツスル化でのパワーが従来と違う…それが貴様のパラドクスの能力か…だがアリエスの能力を忘れてないか？」

CPグランベル「さっきの光弾は私を狙ってたわけじゃなくてエナジーアイテムの機能を停止するためだったのね…」

Zエイラ「そういうことだ、アリエスの能力を忘れていたのが貴様の運のつきだったな」スツ

『ヴァルゴ！ロディア！』

ヴァルゴゾディアーツの杖『ロディア』を召喚しZエイラはダークネビュラを開く

Zエイラ「このゲームに貴様は不要だ…一瞬で暗黒空間にばらまいてやる」

グランベルがダークネビュラに吸い込まれそうになる瞬間

『1！2！3！4！4連鎖！』

ズバババ！！

Zエイラ「っ!!」バツ

CPグランベル「!!」バツ！ガキイイイン

二人はとっさに弾丸を回避する。Zエイラはダークネビュラを閉じてしまいグランベルの追放に失敗し、CPグランベルにはクリムゾンパラドクスのベースとなった赤と青の仮面ライダーパラドクスがパラブレイガンを振り下ろした。

パラドクス「見つけたぞ！偽者め！俺をエムのところに戻せ!!」

CPグランベル「フフツ♪最高のタイミングで来てくれたわね♪でもまだダメよ？」バツ

ジイイイイイ

CPグランベル「まったね〜♪」ヒョイ
パラドクス「おいっ！待てっ!!」

クラックを開いてグランベルは逃走してパラドクスは置き去りにされる。

パラドクス「クソッ！シラケるぜ！」

Zエイラ「ふんっ!!」バキッ！

パラドクス「グア!!」

Zエイラがパラドクスに鉄拳を放ちふつとばす

Z「貴様あ！よくも邪魔を!!」

『レオ！クロー！』

ザシユツ！ガキイイイン！ザンツ！

パラドクス「ぐはっ!!クソ!!」カチャッ!!

『ズ・ゴーン！』

パラドクス「おらあ!!!」ブンツ！

パラブレイガンで攻撃するがレオクローで弾かれる。

Zエイラ「ハアッ!!」シユシユシユイ!!ザシユザシユザンツ！

パラドクス「ぐあああああ!!!」バチンバチッ！バチ！

『ガツシユーン』

パラド「はあはあ…ちくしょう」

Zエイラは高速移動で連続攻撃をしかけパラドクスは膝をつき変身が解除される。それを確認するとZエイラは自分が乗ってきたバイクにまたがり、

Zエイラ「今のお前では牙を研ぐ相手にもならん…興醒めだ、二度と邪魔をするなよ」

そういうとZエイラはその場から立ち去り、パラドは気を失って倒れこむ。その様子を二人の人影が見つめていた。

場面は切り替わり：

レイム「ハアッ!!だりやっ!!」バキイ!!

ドガアアアアアン!!

ゲナムガーディアンを数体撃破したレイムだがガーディアン一体

一体の戦闘力が高く体力を消耗していた。

レイム「ハアハアツ、つたく！厄介な奴らをつれてきてくれたもんね！」

スターク「残念なお知らせだがもつと厄介になるぜ？」パチンツ
ゲナムガーディアンが灰色のガシヤットを取り出して起動する

『ギリギリチャンバラ！』

そしてボディにガシヤットを突き刺すとガーディアンの体にカイ
デンバグスターの姿を模した鎧が装着される。

ブンツ！！

レイム「なによその鎧は！」

スターク「そいつは強大なパワーをもつプロトガシヤットのコピー
だ、凄まじい力を手にいれることができるが強力すぎて人間じゃ死ん
じまう：だから実質ガーディアンの強化アイテムってところだな」

レイム「刀か：でも接近戦じゃ負ける気はしないわよ！」

シュバツ！ジャキーン！！

レイム「なあつ！！速いつ！！ぐはっ！」ゴロゴロゴロオ

チャンバラガーディアンの斬りあげをくらったレイムは地面に転
がる。

レイム「こんな奴らまで作って、あんた達の目的はなんなのよ？」

スターク「俺達の目的かあ？それはなあ：ん？」

シュインツ！

黎斗「呼んだか？」

突然、幻想郷の空に巨大な檀黎斗神のホログラムが現れる

レイム「なんなのよ！あんた！！」

黎斗「檀黎斗神がゲームをナビゲートしよう」スツ

黎斗が手をかざすと様々なキャラクターが描かれたゲーム画面が
空中に映る

黎斗「このゲームは様々な要素が交差しあうクロスオーバーゲー
ム、その名も『デイメンシヨククロニクル』！！君たちは知らないだろ
うがかつての『仮面ライダークロニクル』をリニューアルしたのさ。
プレイヤー諸君はそれぞれ手に入れたアイテムを使ってライバル達

と闘い勝ち続けることでその先にある栄光を手にする」

レイム「その栄光ってのは？」

黎斗「この幻想郷の全て…ゲームを盛り上げるために我々ネオゲンムも参加している。ただし闘いで撃破されたものは消滅、すなわちゲームオーバーになる。」

レイム「はあ?!ふざけんじゃないわよ!!」

怒鳴るレイムをスルーして黎斗は話をつづける。

黎斗「殺るか殺られるかそれはプレイヤー諸君次第、さあ幻想郷の頂点を目指して…レツツゲエエム!!」シユウウウン

説明を一通り終わると黎斗のホログラムは消える

スターク「ってわけだ、せいぜい頑張ってくれよ?」

シユバツジャキーン!!

チャンバラガーディアンが再びレイムに斬りかかる。

レイム「くそっ!!やってやろうじゃないっ!!」カチャ

『ハザードオン♪』

レイムはハザードジンジャを起動してベルトに合体してレンチを押し下げる。するとレイムの周りをビーカーが囲み黒い液体が満たされドス紫色の煙に包まれる。

『荒ぶる!・昂る!・滅び去る!!ハザード イン レイム!!ドラア!!!』

スターク「その気になったようだなレイムウ!!!」

レイム「…はっ!!」ガシャーン!!

『オハライモード!!』

ガキイイイン!!ズババツ!!シユビツ!!

チャンバラガーディアン の刃を受け止め腹部にパンチを数発打ち込み、ミドルキックを食らわせる

『シングル!・ツイン!・ツインバースト!!』

レイム「ぶっ飛べえええええ!!」

ツインバーストでチャンバラガーディアンを撃破したレイムは次の標的をスタークに定め攻撃をしかける。が

レイム「次はあんたよスターク…:…うっ」

スターク「おっと、こっからが本番だなあ」

『マックス！ハザードオン！』

『オーバーフロー!!ドラァ!!』

自我を失いスタークを右手で掴みあげオハライブレイカーで何度も殴り付ける。オーバーフロー状態の強烈な連打をくらいながらもスタークは余裕で笑っている。

スターク「ハハハハッ!!いいぞお!!リミッターを外せ!!」
バキイ!!

スターク「ぐあああああ!!」ゴロゴロゴロオ

レイム「……………」

スターク「まだいけるはずだあ!!さあ!!ん?」

???'「ギシャアアアア!!」

突然、着物を着たヒヨウのような怪物が乱入してきてレイムに襲いかかる。ハザードレイムは怪物の首を掴み投げ飛ばす。その様子を見ていたスタークは

スターク「まさか…あの怪物…とりあえずレイムに倒されるのはマズいな」スツ

スタークはえんじ色のガシヤットギアデュアル『ガシヤットギアデュアルβ』をとりだして『タドルファンタジー』にダイヤルをあわせる。

『TADORU FANTASY!』『Let's going king of fantasy!』

魔王の鎧を模したファンタジーゲームが召喚されてレイムに魔力弾を放つ。

場面は切り替わり、インベス達と闘っていたFミスティアとスワコ魂のN早苗にリクと伊賀栗レイトの姿に変身したゼロが加勢していた。

N早苗「リクさん!もしかしてその方はさっきのウルトラマンですか?!」バシッ

リク「そうなんだ！敵じゃないことは確かだ!!」

ジードクローでインベスを切り裂いてそこにゼロがウルトラゼロランスで貫き撃破する

ゼロ「ウルトラマンゼロだ、よろしくなっ！」シユインツ！

ライオンインベス「ぐおおおお!!」

ゼロ「おっと！あまいぜ！」

噛みつこうとしてくるライオンインベスを避けて蹴り飛ばす。

『ファイナルベント』

Fミスティア「みんな！横に避けて!!」

Fミスティアの契約モンスター『閃光の翼 ブランウイング』が飛んできて翼で突風を巻き起こしてインベス達をFミスティアのほうにとばす。それをウイングスラッシュャーでき切り裂く必殺技のミスティースラッシュを発動した

Fミスティア「ハアツ!!ハアツ!!エイツ!!」

インベス「!!ギヤっ!!キジャ!!」

ドガアアアアアア!!

Fミスティア「ふう、とりあえず片付きましたね」

ゼロ「俺達を巻き込みかけたけどな…」

リク「まつまあ助かったんだしいいでしょ、ハハハ」

N早苗「あとは霊夢さんのほうですが…あつ危ないっ!!」ダツ！

インベス達を一掃して一行は一息つくがN早苗はファンタジーゲームによって変身解除においこまれ倒れているレイムとそれに襲いかかろうとしているヒョウの怪人を発見して駆け寄ろうとする。

スターク「霊夢を喰われるのは困るなあ!!」ボボボ！バシユーン!!

N早苗「霊夢さああああん!!」ドガアアアア

ヒョウ怪人「ヴァアアアア!!」

霊夢を捕食されるのは都合が悪いのかスタークは炎をトランスチームガンに集束してヒョウの怪人に向けて放つ、しかし同じくレイムを助けようとしたN早苗が怪人を蹴り飛ばしたのでその炎はN早

苗に着弾する。そのときネクロムゴースト眼魂とカナコ眼魂とメガウルオウダーにセットされているスワコ眼魂が早苗と霊夢を爆発から守るがメガウルオウダーは破壊され3つの眼魂は黒い塊になってしまう。

早苗「くっつ！」ガクッ

スターク「眼魂が一時的に覚醒したか「がうっ!!」っ!!しまった!!」

一瞬の隙についてヒヨウの怪人がスタークを攻撃し、スタークはガシヤットギアデュアルβを落としてしまいファンタジーゲーマは消滅する。

リク「ゼロっ!!」

ゼロ「もらった!!」ガシッ

Fミステイア「退散しますよ!!」カシユッ!!

『アドベント』

スターク「おい待てっ!!」

ブランウイング『キュオーン!!』ビュオオオオオ!!

ブランウイングが白い羽を撒き散らして目眩ましをして退散する。

スターク「行つちまったか…まあこいつがレイムに倒されなかっただけよしとするか」チャキッ

ダンダンダンッ!!

スタークはヒヨウの怪人にむけてトランススチームガンの弾丸を放つ。怪人は素早い動きで回避するが避けた先でスタークの触手攻撃をくらって毒を注入されて動かなくなる。

スターク「毒の濃度は薄めてある、お前は貴重なサンプルだからなあ…死んでくれるなよ?アマゾンさんよ」ガシッ

スタークはヒヨウの怪人『ヒヨウアマゾン』担いでネオゲナムの本部にむかう。

一方、にとりのラボに逃げついた霊夢達は

リク「はあああ!!疲れたあ!」

ミステイア「どうしよう…屋台そのままにしてきちゃった…」

「ゼロ「お〜い！起きろ〜紅白巫女〜あつ起きた」

ゼロの呼び掛けで霊夢は目を覚ましまわりを確認して一言

「霊夢「また理性を失ってたみたいね……ところで魔理沙は？」

一同「あつ」

どうやら分断された魔理沙を置いてきてしまったようだ。

ネオゲナムコーポレーション

研究室にてスタークが持ち帰ったヒョウアマゾンの検査が終わり
メガヘクスによって結果が発表された。

メガヘクス「検体を溶源性細胞により変異した人工生命体『アマゾン』と断定。アマゾンを檀 黎斗が召喚したという履歴なし、自然に幻想入りしたと推測、感染源のアマゾンが存在する確率94.3%」
戦極凌馬「アマゾン：よりによって溶源性細胞か……これは面倒だねえ。至急トルーパー部隊を出撃させ発見次第抹殺させよう」

檀 正宗「商品価値がなく外の世界で絶版にされたものが幻想入りするとは……」

シユララ「いいますうぐ氣象衛星コマワリにオリジナルの探索を開始させるかあ？」

檀 黎斗神「まあたゲームの進行に支障をきたすものぐああ!!コマワリでオリジナルを発見しだいメガヘクスの端末を一体出撃させろ!アマゾンにはアマゾンをぶつける!!」カタカタカタ

メガヘクス「理解した」

黎斗は新たなガシャットのデータをメガヘクスにダウンロードする。

檀 黎斗神「あはあ♪やはり私は神だあ!!」

ウイーン!!ウイーン!!ウイーン!!

ギルバリス「緊急事態発生 緊急事態発生 別宇宙よりオーバーロード葛葉 絃汰が侵入 この幻想郷に向かっています 既に2体

のギャラクトロンが撃破されました。同時にネオゲナムコーポレーションにコントロール不能のインベスの大軍が迫っています。」

ネオゲナムコーポレーションのもう一つのコンピュータギルバリスが緊急事態をつげる。

檀 黎斗神「次から次へとおお!!ガーディアン部隊を出撃させるお!氷室幻徳うう!貴様も鷺尾兄弟を連れて迎え撃てえ!!新型も投入してかまわああああん!!私はガイムの相手をする!!」

鷺尾兄弟「ハッ!!全てはネオゲナムコーポレーションのためにつ!!」バシッ

氷室幻徳「行くぞ…」

幻徳と鷺尾兄弟が迎撃にむかった直後ネオゲナムコーポレーションの社屋が揺れる

ウィーンウィーン

ギルバリス「オーバード葛葉紘汰が博麗大結界を突破して侵入してきました。攻撃されています。攻撃されています。」

檀正宗「さて彼の相手は誰がする?やはり戦極ドライバーの開発者の戦極凌馬君か?」

戦極凌馬「私はどうも彼が苦手ですね黄金の果实を手に入れた今でも遠慮したいよ」

シユララ「ぬあらば私が…」

檀黎斗神「いや私が行こう!神はこの私ひとりで充分だあ!」

そういうと黎斗は体を黒い粒子に変換して葛葉紘汰が飛来した屋上へ向かう。平成ジェネレーションズファイナルで実現しなかった二人が邂逅する瞬間が訪れようとしていた

第13話 殲滅のプレデター

ガーディアン部隊を引き連れた仮面ライダーローグとブロス達は押し寄せてきたインベス達を殲滅していた。

ローグ「ふっ!!」バキイ

ヤギインベス「ぎしやあ!!」

ヤギインベスにボディブローを叩き込み、飛んでいるコウモリインベスに初級インベスを掴んで投げて撃ち落とす。クロコダイルクラックフルボトルをネビュラスチームガンに装填して放つ。

『クロコダイル!!』『ファンキーブレイク!!クロコダイル!!』

ドガアアアアアアン!!!

爆発したそばから別のインベスが背後から飛びかかるが素早くレンチを押し下げ、エネルギーを纏ったパンチを撃ち込み別インベスのところに弾き飛ばし纏めて爆発させる。

ローグ「……」

大量に倒したが一向に減らないインベス達を見てローグはため息を吐きながらある決断をする。

ローグ「雷、風、バグスターウィルスを活活性化させろ……」

エンジンブロス/リモコンブロス「了解」

エンジンブロスとリモコンブロスとローグの体からオレンジ色の粒子が飛び出し人の形を3つ形成する。雷から分離した粒子は不良のような金髪の男に、風から分離した粒子は銀髪の眼鏡をかけた男に、幻徳から分離した粒子は荒々しい感じの男に変化した。三人とも服装は分離した本人達と同じ感じになっている人型のバグスターである。

ローグ「鷲尾創、滅、火神……奴らを殲滅しろ」

滅「ああ? やつと解放されたと思っただら雑用かよ」

創「……了解」

火神「やつと闘いか!! おうし!! 塵一つ残さねえ!!!」

滅はネビュラスチームガンをとりだして歯車が金色ギアを装填してトリガーをひき、創に渡す

『ギアボンバー！ファンキー!!』

創も歯車が銀色のギアを装填してトリガーをひく。

『ギアシグナル！ファンキー!!』

創／滅 「潤動」

煙が二人を包み込み込み金色と銀色の歯車が装甲となった。ブросのような戦士に変身する。

『Bomber explode gear』『Signal starting gear』

創 「シグナルウルゴス…」

滅 「ボンバーウルゴス！」

創／滅 「見参!!」

二人の変身をみて火神もスクラッシュユドライバーを装着して濃い青色のクラックフルボットのふたを正面にむける。

『ワーニング』

クラックフルボットをドライバーにセットしてレンチ型のレバーを押し下げる。

『メガロドン！』

火神 「変身っ!!」

火神の周りにビーカーが形成されて青黒い液体に満たされ、そして左右に鮫の顎のようなものが現れビーカーを叩き割り変身が完了する。

『割れる！喰われる！砕け散る!!メガロドン イン プレデター!!
オオオラアア!!キャアアア!!』

火神は古代の鮫『メガロドン』をもした仮面ライダープレデターとなりスチームブレードを構えてインベスの群れにかけていき、ウルゴス達も攻撃を開始する。

リモコンブロス「雷、ギアエンジンを」

エンジンブロス「ああ」ひよいつ

『ギアエンジン！ファンキーマッチ！』

リモコンブ羅斯はギアエンジンを受け取ってネビュラスチームガンに装填してトリガーをひく

リモコンブ羅斯「潤動…」

『フィーバー!!』

エンジンブ羅斯から装甲がはずれ変身が解除される。白と青緑の歯車が煙幕とともにリモコンブ羅斯を包み込みヘルブ羅斯へと変身させる。

『パーフェクト!!』

ヘルブ羅斯「バグスターに負けていただけませんか」

雷「兄貴、あとは任せませー!」

ヘルブ羅斯「なにを言ってるんです雷？あなたも戦うんですよ？」
スツ

そういうとヘルブ羅斯は雷にネビュラスチームガンと歯車部分が赤いギアエンジンと歯車部分が青いギアリモコンを渡す。

雷「これは……社長が復元した…」

ヘルブ羅斯「そのとおり……カイザーシステムの原型であるギアリモコンとギアリモコンです。ヘルブ羅斯よりは若干劣りますがよいりはマシでしょう?」

雷「兄貴……ありがとよ!!」

雷はギアエンジンを装填したあとにギアリモコンを装填してトリガーをひく

『ギアエンジン！ギアリモコン！ファンキーマッチ!!』

雷「潤動!!」

『フィーバー!!!』

『パーフェクト!!』

赤と青の歯車と煙幕に包まれて雷はヘルブ羅斯の元となった戦士『バイカイザー』に変身が完了する。バイカイザーはネビュラスチームガンヘルブ羅斯に返し、スチームブレードを装備する。

ヘルブ羅斯「さっさと終わらせましょうか……」

バイカイザー「俺たち兄弟の力、見せてやるぜ!」

ザシュ!!ドゴズバアアアン!!

バイカイザーが初級インベス、上級インベス関係なく斬りあげヘルブロスが歯車状のエネルギーを撃ち込み爆殺する。

バイカイザー「これでこちら一帯は…ぐはあ!!」ザシュ!!

ヘルブロス「なっ!?雷!!ぐおっ!!」

バイカイザーとヘルブロスを何者かが攻撃する。その者は高速で移動しなかなか捕らえることができない。

バイカイザー「チツ!こいつならどうだっ!!」シユーン

『エレキスチーム!』

バイカイザー「おらよっ!!」

バチチチチチチ

『ぐぎやあああ!!』ドサツ

スチームブレードのバルブを回して電撃を刀身に纏わせて地面に突き刺す、地面に電撃が走る、ヘルブロスは平然としていたが高速移動していた者にはダメージがはいり動きをとめる。

バイカイザー「こいつは……」

ヘルブロス「未知のインベス……」

高速移動していた怪物はライオンインベスとヤギインベスとセイリウインベスが合体した異形のインベスだった。

『ぎしややや!!』

ヘルブロス「ふっ!!まさかこんなインベスがいるとは!カメラインベスといったところでしょか!」ギユイイイイン!!

バイカイザー「名前なんてどうでもいい!!さっさと片付けちまおう!!」

ヘルブロスがカメラインベスの角を掴んで引き寄せ左腕の歯車で攻撃をするが、カメラインベスは尻尾のセイリウインベスの口から炎を放ち怯ませその隙に尻尾の口で噛みつき、翼を展開して飛び立つ。

ヘルブロス「空まで飛べるとは……だが」スチャツ

『ギアエンジン!ファンキードライブ!!ギアエンジン!!』

ドガアアアアアン!!!

フアンキードライブをキメラインベスに撃ち込み墜落させる。落下途中にヘルブ羅斯は緩んだセイリユウインベスの口から抜け出して着地する。落下したキメラインベスを挟み込むようにバイカイザーが立ち塞がりヘルブ羅斯はネビュラスチームガンのトリガーをもう一度とひく。

『フアンキーフィニッシュ!!!』

ヘルブ羅斯「これでジ・エンドです」

バイカイザー「見た目の割には大したことなかったなー!」

キュインキュインキュイン!ズドドドドドド!!

ヘルブ羅斯「はああああああ!!!」

バイカイザー「オラアアアアア!!」

ヘルブ羅斯は白と青緑のエネルギーをバイカイザーは赤と青のエネルギー足に収束してドロップキックを放つ、キメラインベスはフアンキードライブの直撃と落下のダメージで身動きがとれなくなっていたので逃れることができずに被弾して爆発を起こす。

ヘルブ羅斯「一応データはとりましたが……この程度なら驚異にはならないでしょう」

異形のインベスを撃破した二人は残りのインベスを掃討しにかかる。

場面は切り替わりウルゴス達は巨大化シカインベスとイノシシインベスと戦っていた。

ボンバーウルゴス「こんのデカブツがあああああ!!」バキイ!!ドガアアアアアン!!!

巨大化シカインベス『ぐおおおおお!!!』

ボンバーウルゴスの拳がシカインベスの拳とぶつかり爆発を起こしシカインベスの腕を吹き飛ばす。シカインベスはあまりの痛みに後ずさるがボンバーウルゴスがラツシユを繰り返して爆殺する。

ボンバーウルゴス「ヒヤッハー!!さいっこうだぜえ!!!」

巨大化セイリユウインベス『ぐおおおおおおん!!』

巨大セイリユウインベスが炎を放ち攻撃するがボンバーウルゴスは黄金の歯車状のエネルギーを撃ちだしセイリユウインベスはそれ

を飲み込んでしまい体内から爆発を起こして消滅する。

ボンバーウルゴス「ちいせえのじゃつまらねーからデカいのを狙ったのによおあんま変わらねえじゃねえか、なあ創?」

ボンバーウルゴスの視線の先には三体イノシシインベスと戦っているシグナルウルゴスがいた。三体のイノシシインベスはまるで信号待ちをしているように動かない。

シグナルウルゴス「3, 2, 1, スタート…」

シグナルウルゴスの眩きとともにイノシシインベス達は動きだし突進しようとするがシグナルウルゴスは素早くネビュラスチームガンをギアシグナルを装填し…

『ギアシグナル!』

シグナルウルゴス「抹殺…」

『ファンキードライブ!!ギアシグナル!!』

バシユシユシユ!!!ドガアアアアアン!!!

赤黄緑の弾幕を放ってイノシシインベス達を爆発する。

シグナルウルゴス「状況終了…」

ウルゴス達の周りには大量の巨大インベスの残骸が転がっておりその光景を見た等身大インベス達は震え上がり逃げ出そうとするが、『クラックアップブレイク!』

プレデター「逃げられるとおもってんのか?」

インベス達をスチームブレードで切り裂き、鮫状のエネルギーが追いつちで食らいつき爆発を起こす。

プレデター「こんなんじゃねえ…まだ食いたりねえ!!」

コウモリインベス「ぎゆるるるるる!!」

プレデター「ふんっ!!ぐぐぐぐぐ…オラアアアア!!」ガシツブチチチチチブチィツ

コウモリインベス「ギャツ?!……………」ガクツ

飛んできたコウモリインベスを掴んで捕獲し上半身と下半身を引きちぎって絶命させる。さらに初級インベス二体に腕を突き立て脊髄をおもいつき引き抜いて倒す。

プレデター「もつとお…もつとだあああ!!!」ヒュックルツ

カミキリインベス「ギャプツ!？」

回し蹴りでカミキリインベスの頭部を粉碎し、さらに襲いかかつてきたビヤッコインベスの胴体に蹴りを入れてうずくまったところに

『クラックアップブレイク!!』

プレデター「うらああああ!!」ブシュウ!!

ビヤッコインベス「……………!？」

クラックアップブレイクでもいつきり踏み潰して止めをさした。

へキジャインベス「ぎやおおおおお!!!」

プレデター「来いよ!!」

『クラックアップブレイク!!』

プレデター「ぶっ飛びやがれえ!!」

どごおおおおお!!!

右足にメガロドン状のエネルギー纏わせてライダーキックを繰り

出しネオゲムムコーポレーション社屋に蹴り飛ばした、そう社屋に

プレデター「あっ!しまったあああああ!!!」

『ファンキーショット!クロコダイル!!』

ドガアアアアアン!!

社屋に激突しそうになったところでローグが放ったファンキーショットがへキジャインベスに炸裂し危機一髪で社屋の破壊を免れた。

ローグ「火神…防衛対象を破壊してどうする、あまり熱くなりすぎるな」

プレデター「ハハハ…すんません…」

あらたなスクラツシユライダーの初陣はなんとも締まらないかたちだった。

第14話 神と神

紘汰「ここか…メモリースフィアを盗んだやつのはね」

博麗大結界を抜けてネオゲナムコーポレーションの社屋の屋上に降り立った始まりの男「葛葉紘汰」はあたりを見回す、すると社内へ通じるドアが開き、黎斗が現れる。

紘汰「あんただな？メモリースフィアを盗んだのは」

黎斗「人聞きの悪い言い方をするな、私が究極神になるために借りただけだ」

紘汰「ふざけるな！あれがなくなったあと宇宙の至るところで異変が起きてる！もう俺や宇宙警備隊じゃどうしようもないんだ！」

黎斗「ふふん…私のなそうとしていることの為のささやかな犠牲さ」

紘汰「あんたは最上魁星によってエグゼイド達に変身できなくなったときにみんなを救うためにビルドガシャットを作っただろう？そのときの気持ちはどこに行っちゃったんだよ」

黎斗「はあ…あんなクズよりも私の才能が優れていることを証明したかっただけさ」

紘汰はその言葉を聞いて無言でカチドキロックシードがつけられた戦極ドライバーを召喚してカッティンングブレードを倒してロックシードを開き、黄金の錠前「極ロックシード」をかまえる

紘汰「…全宇宙のみんなの命が危険にさらされてるんだ！俺があんたを止めてみせる!!変身!!」

『フルーツバスケツト!!』

頭上に巨大なクラックが開き様々なアームズが紘汰の周りを旋回する。

『ロックオープン!』

カチドキロックシードの鍵穴に極ロックシードを挿し込んで回すと周囲のアームズ全てが紘汰と融合し西洋風の銀色の鎧武者に変身完了する。

『極アームズ!大・大・大・大・大將軍!!!』

ガイム「ここからは俺のステージだ!!」

絃汰の変身が完了するのを見届けると黎斗はゲームドライバーを出現させて紫色のガシャットをとりだして起動させる。

黎斗「思い知るがいい…最高神の力を」

『ゴッドマキシマムマイティX!!』

黎斗の目は紫色に輝き合掌するように構えて右手ガシャットを装填してレバーを開く。

黎斗「グレードビリオン…変身!!」

『マキシマムガシャット!!』

『ガツチャーン!フ→メ←ツ→!!』

『最上級の神の才能くクロトダウン!クロトダウン!』ガチャーン

『ゴッドマ〜キシマ〜ムX!!』

ゲーム画面からゴッドマキシマムゲームが現れてレベルゼロのゲムを収納して黎斗は仮面ライダーゲムゴッドマキシマムゲームに変身が完了する。

ゲム「私のレベルは……10億だ!!」

ガイム「10億だあ?知るかそんなもん!!」

『無双セイバー!!』

ガイム「だああああ!!」シャキン

ゲム「ふんっ!はっ!!」

ガキーン!!ゴスツドゴン!!

無双セイバーの斬撃をもとめせずにガイムに連打をくらわせる。ガイムは吹き飛ばされるがヘルヘイムの蔦をハンモックかわりにしてゲムのもとに戻り召喚したクルミボンバーで殴りかかる。

『クルミボンバー!』

ガイム「はああああああ!!」

ゲム『『ネイチャークロニクル』起動!はっ!!』バツ

ズズズズズズズ!! ボゴ!!

ガイム「なにつ!」

ガイムの攻撃が当たる瞬間に二人の間に大木が凄まじいスピードで生えはじめてクルミボンバーの鉄拳を防ぐ。

第15話

Are you ready?

にとりのラボ

霊夢「にとり〜まだなの〜?」ポリポリムシヤムシヤ

にとり「ガシャットとハザードの解析を同時にやってるから時間がかかるのさ、我慢しておくれよ」

早苗「私の眼魂達はどうなっているんですか?」

にとり「それなら向こうのメカにはいつてるよ」スッ

にとりが指さした先にはレンジのような蓋がついたコンテナのようなメカがあった。

にとり「リツくんが霊夢のスクラッシュゼリーとボトルをもとに眼魂の塊から早苗のボトルとゼリーを作ってるからしばらく待ってよ?ほら、きゆうりもあるし」

ガチャツ!!

ラボの扉が勢いよく開き、スタークとの戦いで分断されてどうなっていたかわからなかった魔理沙がはいつてきた。どうやら慌てている様子だ。

魔理沙「大変だぜっ!近くで慧音と知らない男二人が怪人達に襲われてるぜっ!」ハアハア

霊夢「あらあら、男を二人も連れてるなんて教師の風上にも置けないわねえ〜」

早苗「そんなこと言ってる場合ですかっ!急いで行きますよっ!!」

にとり「いやいやいや!待ちなよ!霊夢はともかく早苗はいま変身できないんだよ!?!どーするってのさ!?!」

早苗「そっそれは…」

にとりの言葉で立ち止まる早苗、変身して慧音を助けたいがライダーに変身できない自分ではどうしようもないことを痛感してうつむく。

にとり「巫女さん二人はラボに残っててよ。そとの怪人達は私と魔理沙とついでにミステリアでなんとかするからさ♪」グッ

ミステリア「ついでって私はおまけですか!?!」ガビーン

そういうとにとりかはレバーがついたドライバーと赤と青のボトルを手にして出口にむかう。

にとり「急いでいくよ魔理沙！ミステイア！新アイテムの試運転をしないと！」

魔理沙「おうっ!!」

ミステイア「：私はおまけ私はおまけ私は私は私は：」ズルズルズル

ガチャツ!!バタン!!

霊夢「三人とも：無事に帰ってきなさいよ：」

三人も見送った霊夢は誰にも聞こえないようにポツリと呟くのだった。

一方、襲撃されている承太郎たちは

ヘビアマゾン「シャアアア!!」シュバツ

J O 承太郎「チツなんだってんだコイツらは！いきなり群れで襲いかかってきやがって!!」ガシツ

ヘビアマゾンの攻撃を防御して連続でボディにパンチを打ち込み粉碎する。

J O 承太郎「オラララオラア!!」ズドドドドト!!

ヘビアマゾン「げひやつ!!ぐぶっ!!」

J O 承太郎「パラドツ!!助けられた恩があるんだ慧音をちゃんと守りやがれ!!」

ゾディアックに敗れたところを二人に介抱され（ほとんど慧音に）たパラドは変身してサイアマゾンの頭部にパラブレイガンを振り下ろしながら承太郎に答える。

パラドクス「そんなんわかってる！けど……」

J O 承太郎「ああん？はつきり返事しやがら「オラオラア!!!」あ？」

J O 承太郎が目を向けると服が鎧的になり髪は銀髪で両手の甲にMの文字が描かれた慧音がアマゾンを圧倒していた。

J O 承太郎「なんだ：あれは：？」

パラドクス「いつの間にか拾った新しいメモリを使ったみたいだ。

パラドクス「お前達は負けたんだ、敗者に相応しいエンディングを
教えてやるよ♪」

M慧音「人を喰らう怪物は妖怪だけで十分だ、観念しろ」

三人に追い詰められクワガタアマゾンは逃走を測るが

???「うおおおおお!!」

クワガタアマゾン「シユアツ!!」バターン

三人「!!!」

メカニカルな装甲を纏った蒼いトカゲのような仮面ライダーがク
ワガタアマゾンに飛びかかってまたがり執拗に攻撃をする。

???「うおお!!ヴァツ!ぞりやあ!!」カシユツ

『blade reading』ウィーン

???「はああああ!!」ザシユツ!ザンツジャキツ!!

ベルトにセットされてる注射器を押し込むと音声とともに腕の装
甲が開き黒い液体がブレードを形成して???はそれでクワガタアマゾ
ンにめちやくちやに振り回して斬り刻む。クワガタアマゾンはズタ
ズタにされて力尽きミイラのような死骸となる。

???「はあ…はあ…!!」

バシユンバシユン!!

J O 承太郎「ああ?こんどはなんだっ!」

銃撃が飛んできた方向を確認するとそこにはライフルモードのト
ランスチームガンを構えたナイトローグとバーニアバグスターの鎧
を装備したゲムムガーディアン『コンバットガーディアン』がいた。

ナイトローグ「見つけたわよ…オリジナル!!」バツ!!

ゲムムガーディアンはJ O 承太郎達にナイトローグはライフル
モードを解除したスチームブレードで斬りかかり???はブレードで受
け止め罅ぜりとなる。

???「なんでお前らは俺を追いかけるんだよ!」

ナイトローグ「それはあなた自身がよくわかっているでしょう?溶
源性は危険、外の世界であなたが殺された理由と同じよー!」

『エレキスチーム!』バリバリバリー!

???「ぐっがつ!!」

ナイトローグ「ハッ！セイッ！ハアッ!!」ザンツザンツザンツバ
ンツ

???「うあああ!」

エレキスチームで???の動きを鈍らせて逆手にもったスチームブ
レードで斬撃を放ちゼロ距離で弾丸を撃ち込む。

ナイトローグ「黎斗様はオリジナルの捕獲は生死を問わないと言っ
ていた……せつかく生き返ったのに可愛そうだけど……眠りなさいア
マゾンネオ……」

『バット……』

バットフルボトルをトランスチームガンに装填してエネルギーを
溜めネオに狙いを定める。チャージが完了して放たれる瞬間にM慧
音がトランスチームガンをメタルシヤフトで叩き落としてナイト
ローグの掴みかかる。

M慧音「やめるんだ咲夜!」

ナイトローグ「慧音え……邪魔しないでもらえるかしら?」

M慧音「そういかない!彼はお前に応戦はしたが反撃はしなかった
!無抵抗な奴が痛ぶられる様を黙って見てられるか!!」

ナイトローグ「抵抗するしないは問題じゃない!あの怪物がいるだ
けでどれだけゲームに支障がでるか……!」

M慧音「そんなのはお前達の勝手だろ!!」

グググググ

アマゾンネオ「クソツツ!!」ダッ

二人が組み合っている間にアマゾンネオは森の奥に逃亡をはかり
魔理沙の知らせを受けたにとり達がかけつけた。

魔理沙「待たせたな慧音!助っ人を連れてきたぜ!!」

ミステイア「わあ……ほんとに男の人二人も連れてる!!」
にとり「国家公務員が二股なんていけないねえ♪」

M慧音「助かったよ魔理沙!あと二人は変な誤解をするな『デビル
スチーム!』ぐっ!!うわあああああ!!!」ポロツ

ナイトローグ「次から次へと……私の邪魔をするなあっ!!」

パルプを回してスチームブレードの先端からネビュラガスを噴出して慧音をプレススマッシュへと変貌させる。スマッシュに変わって影響かメタルメモリは抜け落ちた。

魔理沙「慧音え!! 咲夜っ! 許さないのぜ!! 変身!!」

『open up』

ミステイア「私達も! 変身!!」カッシュ!

G 魔理沙「いくぜっ!」

F ミステイア「かかってきなさい!!」『ソードベント』

魔理沙は仮面ライダーグレイブにミステイアは仮面ライダーファムに変身してコンバットガーディアンに挑みかかる。

にとり「なるほど妖怪もスマッシュになるのか、それとも半分人間だからかな? とりあえず成分を抜き取れば元の慧音に戻せるはずだよね? さあ: 実験をはじめようか!」バシュー! カシャカシャカシャカシャカシャ

にとりは窪みが2つあり右側にレバーがついた黒いドライバーを腰に巻き赤と青のフルボトルをふって装填する。

『ラビット!』

『タンク!』

『ベストマッチ!!』

レバーを回すとプラモデルのランナーのような状態で装甲が形成される。

『Are you ready?』

にとり「変身!!」

バシューン!!

『鋼のムーンサルト! ラビット!! タンク!! イエーイ!!!』

装甲を体に纏ってにとりは仮面ライダービルド ラビットタンクフォームに変身が完了する。

Bにとり「勝利の法則は決まった!」ウイーン

Bにとりは刀身がドリルのようになった『ビルドドリルクラッシュャー』を装備してプレススマッシュに斬りかかる。

Bにとり「ハアッ! ハッ! ハアッ! ハアッ! セリャ!!」ギョルルル!! バ

チーン!!

プレススマツシユ「グオツ!!ふんっ!」ゴスツ!

バシツ!!ザンツ!!ギユルルル!!ギユオーン!

Bにとり「ひゅいゝゝなかなかやるね♪」

ナイトローグ「私がいることも忘れるな」ブオン

ギユイーン!!ガキンツ!!!

ナイトローグ「!!」

Bにとり「よつと!別に忘れてたわけじゃないよ?」

背後からの斬撃をドリルクラツシャーを逆手に構えてガードして弾き飛ばしてBにとりは紫と黄色のボトルを取り出してドライバーにセツトする。

『ニンジャー!』『コミック!』

『ベストマッチ!!』

レバーを回してプラモデルのランナーのような状態でこんどは紫と黄色の装甲が形成される。

『Are you ready?』

Bにとり「ビルドアップ♪」ガシユーン

『忍のエンターテイナー!ニンニンコミック!イエーイ』

『分身の術!』

Bにとり「ほらほらこつちだよーん♪」シャキツザンツ!ザンツ

ナイトローグ「ちっ!めんどうなことを!」ガキンツ!!!

分身してナイトローグを翻弄しながら攻撃するBにとりは4コマ忍法刀のボタンを二回おして新たな術を発動する。

『火遁の術!火炎斬り!!』

Bにとり「おりやああああ!!」×5

5体の分身が炎を纏って一斉にナイトローグに斬りかかる。外の世界では初期のビルドを圧倒したナイトローグでも食らえばひとまりもないだろう。だが、咲夜が変身したナイトローグには強力な能力が備わっている。

パチーン

ナイトローグ「幻世『ザ・ワールド』私の能力を忘れていたようね

…」ガシッ

時を止めたナイトローグは慧音が変貌したプレススマツシユを身代わりにしてアマゾンネオが逃げた森の奥へむかう。

ナイトローグ「まさかにとりがビルドに変身するとはね…オリジナルとともにこの情報を黎斗様への手土産にさせてもらおうわ♪」

パチーン

Bにとり「りやああああ!!」

ザンツ！ザンツ！ザンツ！ザンツ！ザンツ！

プレススマツシユ「ウゴアアアアア!!」

ドガアアアアアン!!

Bにとり「えっ？慧音!?っ時間を止められちゃったか!」

火炎斬り×5をくらったプレススマツシユは爆発して倒れる。Bにとりは空のボトルで成分を抜き取って慧音の姿にもどす。

Bにとり「おくい大丈夫?」

慧音「…ん?その声はにとりか?私はなにをしていた?」

Bにとり「咲夜に怪物にされたんだよ。やっぱり半人半獣でもガスを注入されたら記憶を失うんだね」

慧音「なにを言ってるんだかさっぱりだがとりあえず助けてくれたことは礼を言うよ、ほかの奴らの手助けをしなくては…あっ」フラッ立ち上がって承太郎達の加勢に向かおうとするがふらついて倒れそうになりBにとりにささえられる。

Bにとり「怪物にされて私の必殺技までくらったんだから無理しないほうがいいよ、近くに私のラボがあるから連れてくよ」

慧音「いやラボの場所は前に行ったことがわかるから一人で行ける、お前はみんなの手助けをしてやってくれ」

そういうと慧音はふらつきながらも玄武の沢にあるラボに向かいBにとりはそれを見届けるとまだ戦っている仲間のもとに向かう。

Bにとり「心配だけど本人がああいうんじゃ仕方ないね、それにメモリもあと一本持つてるみたいだし…」

そのころ魔理沙は

ズガン!!ドガン!!ドガガガン!!!

G 魔理沙「うおっ!やべっ!あぶなっ!やいこら飛んでばっかりじゃなくて降りて戦え!!」

コンバットガーディアンが上空からミサイルを放ちG 魔理沙はそれを避けながら反撃の隙をさがすが射程範囲外なので防戦一方だった。

G 魔理沙「その赤青ヤロー!!あいつをどーにかしてくれ!!」

ゲムムガーディアンを蹴散らしているパラドクスのもとにコンバットガーディアンを誘導して押しつけようとする。

パラドクス「だれが赤青ヤローだ!自分の敵くらい自分で倒せ!!」

『1・2・3!』

パラドクス「オラッ!行つてこおおい!!」

どどど!!

『3連打!』

G 魔理沙「飛ばしかたが雑なんだぜ〜!!」ヒューンガシッ

吹っ飛ばされたG 魔理沙はコンバットガーディアンの胴体に掴まりコンバットガーディアンは魔理沙を振り下ろそうとデタラメの飛ぶ。

G 魔理沙「うわわわ!!目が回る〜!クソッこうなったらヤケクソだぜ!!ハアッ!ハアッ!」シャキンシャキンザンッ

バシyunバシyun!!ブシュー!!

G 魔理沙「うわああああああ!!今度は落ちんのかよ〜!!」

グレイブラウザーの攻撃を受けたコンバットガーディアンはコントロールを失いG 魔理沙をぶら下げたまま林の向こう側に落下する。

F ミスティア「魔理沙さん!」

J O 承太郎「よそ見してないで自分の心配をしろ!来るぞっ!」

F ミスティア「!!」

『ガードベント』

ズドドドドドド!!!

F ミスティア「くっ!!」

間一髪で地上戦に移行したコンバットガーディアンのガトリング

ガンの掃射をガードしたFミスティアとスタープラチナに自分を抱えさせて高く飛び上がって回避したJ〇承太郎は必殺技を発動する。

『joker maximum drive!』

『ファイナルベント』

J〇承太郎「オラアあああああ!!!」

Fミスティア「はあああああ!!!」

ドガアアアアアアアアアアアアアアアアア!

J〇承太郎はライダーキックをFミスティアはブランウイングが起こした風に乗ったライダーキック『ミスティックライダーキック』をコンバットガーディアンに繰り出して撃破する。パラドクスもゲムムガーディアンを撃破し、慧音を助けたBにとりも合流した。

Bにとり「あらら?こっちはもう終わっちゃったみたいだね」

パラドクス「なかなか手強い相手だったぜ、それよりも慧音はどうでした?」

Bにとり「一足先にラボに向かってるよ」

J〇承太郎「なら俺達もラボに行かせてもらおうぜ…戦いつばなしでちと疲れたんでな」

Bにとり「霊夢達もいるし今日はパーっと鍋でもやろーか♪」

Fミスティア「それより魔理沙さんが戻ってきてませんよ!」

パラドクス「それなら向こうから走ってきてるぞ?」

Fミスティアが振り向くとG魔理沙が手を振りながらこちらに向かってきていた。

G魔理沙「おーい!こっちは片付いたんだぜ〜!!」タッタッタ

Fミスティア「よかった無事だったんですね!」

Bにとり「まあ魔理沙がそう簡単にはやられないでしょ。さあはやく帰ってみんなで鍋だ!!」

G魔理沙「もうちよつと心配してくれてもいいんだけどなあ…まあ宴会をするってんなら私は家から酒を持ってくるんだぜ!」ヒュー

箒に乗った魔理沙を見送った一行はにとりに案内されてラボに向かったのだった。

そのころ林の奥ではナイトローグがアマゾンネオを追い詰めていた。

ナイトローグ「そろそろ観念なさい…」チャキッ!

アマゾンネオ「嫌だっ!俺は今度こそ普通に生きたいんだ!!」

ナイトローグ「叶わない夢はさつさと捨てることね!ハアッ!!」
ガキン!

スチームブレードの振り下ろしをガードしたネオの首もとを掴んで投げ倒しトランスチームガンを連射する。ネオはそれを転がって回避しながらインジエクターを押し込んで武装を展開する。

『claw reading』

アマゾンネオ「はっ!」バシユウ!!シユルルルル

木にフック状のクローを引っ搔けてワイヤーを巻き取って木の上
に待避する。

ナイトローグ「ちよこまかと…!!?」

バツ!!バシッ!!ドカツゲシッ!

???「はやく逃げなさい」

アマゾンネオ「あ、ああ!!」ダッ!

ナイトローグ「待ちなさいっ!」

???「ここから先は通しません」ゲシッ!

スーツ姿の壮年の男性の乱入によりアマゾンネオを逃してしまふ。
跡を追おうとするがボディに蹴りを入れられて邪魔される。

ナイトローグ「ぐっ!!貴様あ何者だ!!」

???「あなたの敵です。」

男は素早くナイトローグの懐に入り肘打ち、掌打、膝蹴り、ローキックを連続でヒットさせてさらに足に蹴りをいれて膝をつかせ顔面に正拳をはなつ。

???「ぬうん!!でやあああ!」

変身している咲夜に対して男は生身のままナイトローグを圧倒している。スチームブレードの斬撃を腕を掴んでとめて顔に一撃そして右腕にチョップを入れてブレードを落としてドロップキック繰り出してナイトローグをふっ飛ばす。男はスチームブレードを拾い上げ

一閃する。

「??? 「ライダーのシステムもこんなものか…」ザンツ!!」

ナイトローグ「ぐあああ!! はあっはあっ…こうなったら!!」
シューウウン

ナイトローグのバイザーが光るとコウモリのようなメカが飛んできてそれを掴み、ビルドドライバーを装着してコウモリ型のメカ『ローグバット』にバットフルボトルを装填する。

『MIDNIGHT!』

ローグバットをドライバーにセットしてレバーを回す。

『ROGUE BATT!』

『Are you ready?』

ナイトローグ「変身!」

プラモデルのランナーの様なものに黒い装甲が形成されて装着されるとナイトローグのボディアーマーの右腕にコウモリのような装飾がなされ頭部はクローズのようになった仮面ライダーナイトローグに変身完了する。

『MIDNIGHT DARKNESS! bat! KNIGHT

OF ROGUE! yeeeah!!』

N咲夜「幻世『ザ・ワールド』!!! はあっ!!」カチツ
シュバババババ

時は止まりN咲夜は男の周りにパルプのついていない小型のチームブレード『スチームナイフ』を隙間なく何本もばらまく

N咲夜「そして時は動きだす!」

時間停止が解除されてスチームナイフが一斉に男に降り注ぐ。これで勝負は決したかと思われたが男から赤黒い波動が発せられてナイフを弾き飛ばし男の姿は白い狼の鎧のような異形の怪物に姿を変える。

「??? 「今のは惜しかったですね」

N咲夜「その姿…黎斗様から頂いた資料に載っていた…魔導ホラー

か！」

尊士「尊士と申します：以後お見知り置きを」

N咲夜「ほぎけえ!!」スチャツ

尊士は斬撃をブレードを持つ手を弾いて防ぎ回し蹴りを放ち、N咲夜の首もとのアーマーを掴んで放り投げ自分も飛び上がって木を踏み台にして飛び蹴りを繰り返す。

尊士「ふん!!」

N咲夜「甘いつ！」バサア!!

N翼を展開して縦横無尽に飛び回りながら尊士を翻弄するN咲夜。

N咲夜「はあ!!ふっ!!」ガシユン!ガシユン!!

尊士「ふんっ!!」グイッ!

ヒュオオオオオ!!ガサガサ

念力を使って風を起こして葉っぱを空中にばら蒔いてN咲夜の視界を奪いN咲夜より上に飛んで急降下キックでN咲夜を地面叩き落とす。

ドシイイイイン!!

尊士「もうおしまいですか?」

N咲夜「フフフ：そんなわけないじゃない」クイッ

飛んでいる最中に尊士の体と木々に巻つけておいた糸が一斉に引き締まり尊士の体を拘束する。

尊士「!!これは……」

N咲夜「油断したわね!!」

『ready go!』

レバーを回して飛び上がり右足に紫電が迸る黒い煙をドリルのように纏わせたライダーキックを繰り返す。

『ローグネス ファイニッシュ!』

尊士「ふっ」

シユウウウウン…

N咲夜「なにつ！」

尊士は空気に溶け込むように姿を消してライダーキックは不発におわる。

N 咲夜「クソツッ！逃げられてばっかり！なんなのよ今日は!!」ド
ンツッ！

今回の任務は邪魔されてばかりで失敗に終わり、その事に怒った咲夜は木に拳を叩きつける。そして数分後落ち着きを取り戻したあとに本部へと帰還するのだった。

く???
く???

尊士「オリジナルの逃亡は成功いたしました」

???'「よくやった！保険としてあのオリジナルにはまだ生きていても
らわんと困るからなあ!!はっはっ!!」

暗い部屋のなかで尊士は謎の人物に報告をする。その相手は龍の
ような姿で暗い青色をした異形の怪物で足元にはバラバラになった
人間の残骸が転がっていた。

くにとりのラボく

承太郎達を助け、一段落ついた一行はささやかな宴会を開いてい
た。

早苗「はあく!!本物の承太郎さんとお会いできるなんて感激です!
スタープラチナだしてみてください！っていうか私にオラオラして
ください！」キラキラ

承太郎「ああ？なんだこの女は？」

霊夢「どうも早苗がいた世界ではあんたはマンガの主人公だったら
しいのよ」グイく!

子供のように目を輝かせた早苗が承太郎に話しかけて霊夢は呆れ
た目をして酒を飲んでいる。

にとり「ウイくくリツ君もほらドンドン飲みなよくヒック！」

リク「ちよつとにとり！飲み過ぎだつて！」

魔理沙「はっはっはっ!!いいじゃないか！たまには息抜きだつて必
要だぜ！」

リク「魔理沙まで…つてあれ？ゼロは？」

魔理沙「ああそれなら…」スツ

魔理沙が指をさした方には酔った慧音の説教を聞いているゼロと酔い潰れたパラドとミステリアがいた。

慧音「いいかあ？人という字は人と人がささえあつて…クドクドジユウドジユウド」

ゼロ「かつ勘弁してくれ〜」

ミステリア「キュ〜〜〜」

パラド「ん〜〜視界が躍るぜ〜」

リク「あのひと…ウルトラマンだよね？」

魔理沙「教師は強いんだぜ!!」

宴会は夜中まで続きラボのなかは笑いで溢れていた。

ウィーーン

数時間後みんなが寝静まったあとに一人の人物がコンテナの様な装置から何かを持ち出してラボを出る。そして玄武の沢の入り口付近についたときに背後からいつの間にかついてきていた霊夢に呼び止められた。

霊夢「なにしてんのよ？」

魔理沙?」

風呂敷を持った魔理沙は振り返り、

魔理沙「何って家に帰ろうとしたただけだぜ?」

霊夢「だったらその風呂敷はなによ?」

魔理沙「ああ!これか?これは残った食べ物をもらったただけだぜ、一人暮らしだと料理を作るのも面倒だからなあ」

霊夢「ああそう……だったらそれは何かしら!!」 シュバツ

魔理沙「!!」

ガチャガチャ!!

霊夢が札を飛ばし魔理沙の手から風呂敷を落とすと中からビルドドライバーに似た赤いドライバーと数枚のディスクがでてきた。

魔理沙「……はあ、もう言い訳は通用しないか」

霊夢「あいつが現れたときにいつもあんたはいなかった……今日だってそうでしょ?ラボをもぬけのからにしてそれを盗み出すつもりだった……だけど私と早苗のドライバーを解析中でラボから全員をだすことは不可能だった、だから作戦を変えてみんなを酒で酔わせて酔い潰れたあとにそれを盗んでこっそり抜け出した。」

霊夢の話をうつむきながら聞いていた魔理沙は徐々に笑いだし見覚えのある黒い銃を取り出した。

魔理沙「ははっさすが霊夢だ、何から何までお見通しだったんだな」

『COBRA…』

魔理沙「蒸血…」

『MISTMATCH』

魔理沙は赤黒い煙に覆われワインレッド色のスーツに包まれて霊夢達に立ち塞がった存在へと姿をかえる。

『CO…COBRA…COBRA…COBRA…FIRE!!』

魔理沙↓スターク「私がブラッドスタークだ…ンツンンこつちの声の方が馴染みがあるかあ?」

その姿を見て霊夢は無言でスクラッシュユンドライバーを装着する。

第16話 ハザードを越えてゆけ

『ハクレイ イン レイム！ブラア!!』

草木も眠る丑三つ時に仮面ライダーレイムとブラッドスタークは対峙する。

レイム「じっくり聞かせてもらおうよ…あんたの目的を」

スターク「私を倒せたらの話だがなっ！」

ガチイイイイン!!

オハライブレイカーの攻撃をいなしたスタークはうしろ蹴りを放ってレイムをよろめかせる。オハライブレイカーにミコボトルをセットしてスタークに必殺技を繰り出す

『シングル！』『シングルバースト！』

レイム「だりやああああ!!」

スターク「ぬおっ!!」

直撃したスタークは吹き飛び胸部装甲から火花が飛び散る。スタークは立ち上がりスチームブレードを構える。

スターク「はっはあ!!最高だなあ!!もっと楽しもうぜ!!」

レイム「上等よ!このバカ魔理沙あ!!」

くくネオゲナムコーポレーション社長室くく

アマゾンネオの捕獲に失敗した咲夜は社屋に戻り報告をしていた

黎斗「なるほど魔導ホラーか…:…またゲームの進行をするバグがあ…!!」

咲夜「今回は失敗しましたが次こそは必ずオリジナルを捕獲してまいります。どうかご安心を…」

咲夜の言葉を聞いた黎斗は気分を落ち着かせて咲夜の足元の影を睨み付ける。

黎斗「…私の開催するゲームのプレイヤーは陰我にまみれホラーに狙われる可能性が高い…だからライダーのシステムを使用した者や怪人にはコーティングが施してある。ゆえにホラーに憑依はされな

いが……追跡はされるようだな」

咲夜「え？」

ずおおおおお!!

咲夜の影から悪魔のような姿をした陰我を食らう魔獣ホラーが二体姿をあらわす。

ホラー1「アデパメカ？（なぜばれた？）」

ホラー2「ゴルゲノリリ、ソユアイ陰我イナニメカ奴マ……見カソコザアリ（どうでもいい、こんなに陰我にまみれた奴ら……見たことがない）」

ホラーを見た咲夜は素早くトランスチームガンとバットフルボトルを取り出して黎斗を守るように立ち塞がる。黎斗は咲夜をせいして斜め上に手を伸ばし三重の光輪を描く。

黎斗「ホラー程度は私からすれば塵に等しいしライダー達も撃破できるようにプログラムしてある。だがある世界の記憶から持ち主がない鎧を復元した……君たちは知っているか？千のホラーを喰らった魔戒騎士を」

三十の光輪から紋章が（X）なのを除けば黄金騎士牙狼の鎧が歪に変化したシルエットの漆黒の鎧が現れる。それはかつて鎧にその魂を喰わせて暗黒の道に堕ちた騎士『暗黒騎士 呀』^{キバ}だった。

ホラー2「ナサリシチガゴ!!（魔戒騎士だと!?!）」

ホラー1「シャアアアアアア!!」

ガキン！バツ!!

ホラー二体を殴り飛ばして社屋室から追い出す。その様子を黎斗は笑いながら見ている。

黎斗「はっはあ！やはり私の選択は素晴らしかったあ！ホラーは任せたぞ魔戒騎士い!!」

呀は剣を腕の鎧で研ぎ火花が散る。そして剣を構え直して黎斗の言葉を訂正する。

呀「いや、我が名は呀……暗黒騎士!!」

呀は黒炎剣を振りかざしてホラー二体に斬りかかる。

場面は戻り玄武の沢ではレイムとスタークの激闘が続いていた。一進一退の攻防は明け方まで続きレイムの体力は限界をむかえていた。

レイム「はあっはあっ」

スターク「どおしたあ！まだいけるだろ！」ズバツ

レイム「ぐっ！あったり前じゃない!!」

『オハライモード!』

レイム「だりやああああ!!」ギユイイイイン!!

スターク「いいぞ！もつと力を引き出せ!!」

『フルボトル！スチームアタック!』

ズドーン!!

レイム「きやああああ!!」シュウウウウン

レイムは変身解除されて河原に転がりスタークはスチームガンを

霊夢にむける。

スターク「立ってお前はこんなもんじゃないはずだ」

霊夢「……できるわけ……ないじゃない」

スターク「あ?」

霊夢は魔理沙を疑いはじめてから心の内に秘めていたことはきだす。

霊夢「できるわけないじゃない……あんたは私の初めての友達で親友なのよ……今までのいろんな異変と一緒に解決したり宴会でばか騒ぎしたり……最近まで一緒に戦った……そんなあんたを……倒さないといけないなんて」

スターク「……………」スチャツ

霊夢の言葉に反応を見せず無言でトランスチームガンを向けるスターク

スターク「はあくなにもわかってないな霊夢、不思議に思わないか？異変解決したりばか騒ぎしたりはさておき、なぜライダーとしてお前と一緒に戦ったのか？なぜ強化アイテムの設計図をわざわざ渡したのか？答えは簡単だ……ゲームを加速させるためだ」

霊夢「……………」

スターク「原点に存在しないライダーが現れれば僅かに次元が歪み様々な世界からの要素をこの幻想郷に取り込むことができる：お前は怪人どもを倒すために変身したつもりだがそのせいで怪人の出現を加速させていた：つまりお前は正義の味方を演じていたに過ぎない：仮面ライダーごっこをしていただけなんだよ：これでわかっただろう？お前：いやお前達じゃ私には勝てない」

霊夢「そんな……」

失意のどん底に突き落とされた霊夢はうなだれて動かないそこにスタークはスチームガンのトリガーをひこうとする

スターク「お前以外にも原点に存在しないライダーが出現し始めたからなあ：もう戦える気力もなさそうだしここでゲームオーバーにさせてやろう」

ヒュウウウウズドドドドド!!!

スターク「!？」

弾幕がスターク目掛けて放たれてそれを回避する。弾幕が放たれた方向を見ると走ってきたようで息を切らした早苗がいた。

スターク「なんだグツスリ寝てたんじゃないのか？」

早苗「あんなにドンパチやってたら嫌でも起きますよ！それより話は聞かせてもらいました！魔理沙さんあなたはいつからそんな!？」
シュツ

早苗の足元に弾丸が撃たれ話が中断される。

スターク「つたくもう少し寝てればいいものを：だが今さら来たところでもう遅い！霊夢の心は完璧に折れた、それにお前は変身できない、つまり私はお前達を始末して逃走することができ」

早苗「それはどうですかね？」スチャツ

『スクラツシユドライダー！』

早苗はスクラツシユドライダーを腰に装着して緑色のスクラツシユゼリーのキャップを前にむける。

霊夢「早苗!？」

スターク「スクラツシユドライダーだと？装置のデータじゃお前の

やつはまだ開発途中のはず」

不敵に微笑み早苗は大声で叫ぶ。

早苗「奇跡でなんとかありますそんなもん!!」ジャララララ〜
某ゾンビゲームの起動音が聞こえた気がするがそんなことは気にしない。早苗はドライバにゼリーをセットしたレンチを押し下げる。

『コチャゼリー!』

早苗「私!新たな変身!!」

『潰れる!流れる!溢れ出る!!』

『コチャ イン サナエ!!ブラア!!』

早苗の周りにビーカーが現れて緑色のゼリーで満たされ素体スーツに包まれる。そして頭部からゼリーが吹き出して装甲が形成されて早苗は新たなスクラツシユ系のライダー『仮面ライダーサナエ』に変身する。

サナエ「これが新たな奇跡の力!仮面ライダーサナエ 参上!!」

『モリヤクローザー!!』

サナエ「はああああ!!」ザンツ!

バチン!!

スターク「いいぞお!また新しいライダーが生まれた!!」

ビートクローザーを早苗カラーにしてボトルを装填するスロットが縦に2つついた『モリヤクローザー』で斬りかかり、スタークは左腕でそれを受け止める。サナエはモリヤクローザーの柄の部分を引っ張り強化した斬撃を解き放つ。

『ヒツパレー!』

『ダイヒット!』

スターク「ぬおおお!!」

緑色の炎を纏った斬撃がスタークをふきとばしてダメージを与える。さらにサナエは柄の部分を二回引っ張りモリヤクローザーを突き出す

『ヒツパレー!ヒツパレー!』

『スーパーヒット!』

クローザーの先にカエルの顔のエネルギーが形成されて舌を伸ばして強力な突き攻撃を繰り返す

スターク「ぐおおお!!これもデータになかった!奇跡ってのは万能だなあ!!」ブオン!!

コブラの尻尾のような触手をしならせてサナエに叩きつける。サナエは衝撃で吹き飛ばされるが立ち上がりスタークに向かう。

サナエ「はあっ!!霊夢さん!立ってください!仮面ライダーの中には自分が争いごとを起こす原因だった人もいました!ですがみんな自分の運命に抗い続けていたんです!」

霊夢「でも…その仮面ライダーは本物でしょ?私はどうせ紛い物:ヒーローにはなれないの」

スタークの胴体の強力な斬撃を放つて後退させサナエは霊夢の肩を掴んで霊夢を激励する。

サナエ「紛い物なんかじゃありません!人を!妖怪を!平和を守ろうとしたあなたはもう立派な仮面ライダーなんです!!!」

スターク「感動的なセリフだなあ!!無意味だがなあ!!」

『ライフルモード!』

『スチームショット!コブラ!』

サナエ「きやああああ!!」

コブラ状のエネルギー弾がサナエに着弾して大きく飛ばされる。

スターク「せっかくの新しいライダーだが:消えてもらうぜ」

霊夢「待ちなさい」

スターク「あ?」

霊夢「早苗のおかげで吹っ切れたわ:紛い物だろうとなんだろうと私は仮面ライダー!幻想郷の愛と平和の為に戦う!!」スチャッ

霊夢は立ち上がりハザードジンジャを構える。そして前回の戦いでスタークが落としていったガシャットギアデュアルβを取り出す。

スターク「ハザードジンジャにギアデュアルβか:所詮お前は私にくれてやった力に頼るしかないようだな?」

霊夢「いいえ違うわ:私は私のやり方であんたを越える!!」

『マックス!ハザードオン!』

『TADORU FANTASY!』

ドライバーにハザードジンジャを装填してレンチを押し下げてギアデュアルβのスイッチを押してギアホルダーに装填する。

霊夢「変身!」

『デュアルアップ!オーバーフロー!』

『Satan appeared! Say "MAOU" TADDL E FANTASY!ドラア!!』

レイムハザードフォームの姿にファンタジーゲームを纏った仮面ライダーレイム ファンタジーゲームフォームに変身する。ガシヤットを使うためのバグスターウイルスの副作用はプログレスヴェイパーとお互いに中和しあい暴走や消滅の危険性を排除したレイムの強化フォームである。

レイム「力があふれでてくる……待たせたわね早苗! さあ! 異変解決の時間よ!!」

サナエ「はい!」

レイムがマントを翻すと魔法使いの姿を纏ったバグスターウイルスが現れてスタークに向かっていく。

スターク「タドルファンタジーの魔王の力か!!」ボボウ!!

火星の炎でバグスターウイルスを一掃するが爆炎に紛れてサナエが接近しており袈裟斬り、突き、切り上げ、縦斬りを連続で喰らう。スタークは反撃しようとするがレイムの魔力によって拘束されて地面に叩きつけられる。

スターク「ぐああああ!! くそつ!!」シユアアアア!!

スタークは水色のコブラを二体召喚、コブラはレイムに噛みつきこうとするが魔方阵によって阻まれる。

レイム「早苗!!」

サナエ「了解ですつ!!」

『スペシャルチューン!』『ミラクルチューン!』

『ヒップパレー! ヒップパレー! ヒップパレー!』

モリヤクローザーに『ミジヤグジフルボトル』と『オンバシラフル

二人のオーラは増大してパワーが高まりスタークは耐えきれずにライダーキックを喰らって岩盤までぶっ飛ばされて大爆発をおこして変身解除されて魔理沙の姿に戻り地面に倒れこむ。丑三つ時から朝日が昇るまで続いた戦いが今、終わった。

サナエ「はあ…はあ…まさかあそこまで耐えられるとは…まだまだ修行が足りない感じですね…」

レイム「フー…でもこの戦いは私達の勝ちよ、さっさとあいつを連れかえってこの異変の事を洗いざらい吐かせましょう」

魔理沙「フッフッフツ」

二人「!!!」

倒れていた魔理沙が立ち上がり笑いだす、その手には霊夢と早苗の顔が描かれているフルボトルとは違うボトルが握られていた。

魔理沙「霊夢の力を狙ってたがまさか早苗の力も手にはいるなんてとんだラツキーなんだぜ。」

レイム「魔理沙あんた最初からそれが目的で!!」

『ガシヤコンソード!』

レイムとサナエはお互いの武器を構える。

魔理沙「私には壮大な計画があるのさ、これに必要な物は揃ったのぜ」スチャツ

『フルボトル! スチームアタック!』

バシユバシユ!!

サナエ「あつ! しまった!」

レイム「ドライバーが!!」

スパイダーフルボトルをトランスチームガンに装填して銃口から蜘蛛の糸を伸ばして戦闘前に落としてしまった赤いドライバーとディスク数枚を回収する。

魔理沙「力を貸してくれてありがとよ、それじゃ…チャオ!」ブシユウウウウ!!

トランスチームガンから煙をだして魔理沙は退散する。霊夢と早苗は変身を解いてその場にへたりこむ。

霊夢「全部あいつの掌の上だったってわけね…」

早苗「魔理沙さんは一体何をするつもりなんでしょう?」

霊夢「関係ないわ、何をたくらんでいようと私がぶつ潰す…それが巫女としての…いや、仮面ライダーの仕事でしょ?」ニカッ

早苗「訂正してください、私達が…:…ですよ?」ニカッ

二人は河原に寝転びながら笑いあった。そしてそのまま寝てしま
い日が完全に登ったところに探しに来た承太郎に叩き起こされるので
あった。

第17話 Dの襲来

カタカタカタカタカタ

霊夢達と魔理沙の激闘から3日経ち霊夢一行は襲来してきた怪人を倒しながら異変の黒幕の情報を探していたがまったく掴むことができなくて歯噛みするなか元凶の檀黎斗はネオゲムコーポレーション社長室でキーボードをうちこんでいた。

檀黎斗（八雲紫の能力による幻想郷の拡張は順調にすすんでいる。ライダーアイテムの配布に怪人達の出現状況も問題なし、だが問題なのは八雲紫の式である八雲藍と八雲橙が姿を現さないことだ。魔導ホラーと溶源性アマゾンの幻想入りは八雲の式の仕業と仮定しておくとして溶源性アマゾンのオリジナルは必ず削除する必要がある…）カタカタカタカタ

パソコンの画面から目を離して背もたれに寄りかかり外の景色を眺めコーヒーを手に持つ。

檀黎斗「フウ…：神の偉業には苦難はつきものということか」ズズ
ウーーン！ウーーン！ウーーン！

檀黎斗「ぶふうー！！なっなんだ!？」

飲んでいたコーヒーを吹き出して警報を鳴らした人工知能ギルバリスに問いかける。

ギルバリス『侵入者です。機密情報区画に複数のドーパントが現れて破壊活動をしています。』

檀黎斗「まあた侵入者かあ！博麗大結界の強度はどーなってるんだ！ゆるゆるすぎるじゃないかあ!!」

???「博麗大結界が悪いんじゃないかあ!!」
♪

銀色のオーロラが現れてそこから二人の少女が現れる。

檀黎斗「貴様はたしか…」

麟「貴方が檀黎斗ね。私達はダークファンタジア、そのリーダーを務める冴月麟よ」

檀黎斗「檀黎斗神だ!!」

黎斗がすかさず訂正すると麟はクスリと笑う。

麟「おもしろいわね、会いに来て正解だったわ♪」

檀黎斗「貴様達に構っている暇はない！いまは情報区画をなんとかしなくては」

黎斗はメガヘクスとギルバリスを呼ぼうとするが反応がなにもない、その様子を見ていた麟は笑いながら指を鳴らす。するとモニターが表示されて幹部達の前に上級ドーパントが立ち塞がっている様子が映し出された。

麟「無駄よ、いまジャミングをかけているからメガヘクスとギルバリスはしばらく使えない、幹部達にはこの子が操るドーパントを向かわせたわ♪」ナデナデ

麟は隣にいた少女の頭を撫でながら言うのと撫でられている少女は胸をはって自己紹介をする。

縁理「私は逢元縁理！ガイアメモリの付喪神で、ダークファンタジアの幹部よ！」

檀黎斗「ガイアメモリの付喪神だと…？まあいい君たちの目的はなんだ？」

麟「おもしろい組織があるとグランベルに聞いてちよつと様子を見に来たのよ♪新人の小手調べも兼ねてね♪私達はその子の為の囿よ」
麟と縁理はソファアに座りくつろぎ始め黎斗は気持ちを落ち着かせて二人の前に座る。

麟「さて楽しい話し合いといきましたようか」

黎斗は麟に見えないようにゴッドマキシマムマイティXから機密情報区画付近にいる社員達に信号を送り話し合いを始めた。

クロノス「ほほう…神に祈りを捧げる土人形か、何度も粉碎しても再生するとは素晴らしい」

クロノスに変身した檀正宗の前にクレイドールドーパントが立ち塞がっておりすでに何度か撃破された様子だった。

クレイドールドーパント「ちっ！」

クロノス「止まった時の中で倒されても再生できるか試してみると

しよう。それで君の商品価値が決まる。」カチツ

『pause』

瞬間、時が止まりクレイドールドーパントは断末魔をあげる事もなく消滅した。その様子を見届けたクロノスはどこかへと姿をけした。

一方、シユララは

シユララ「ぬおおお!!なあぜニヨロロのドーパントがいるんだあああ!!」

ニヨロロドーパント「ニヨロロロロロロ!!」

スイーツドーパントに似た右腕がニヨロロの口の形になっているニヨロロドーパントに追いかけて回されていた。右腕から光弾がばらまかれシユララは盾とランスで防ぎ弾幕の集中する場所から離脱する。

シユララ「ぬうう…こうなったらこうなったらあああ!!『アアアマアアドオオン!!』ピカア!!」

ケロメットが光輝きあまりの眩しさにニヨロロドーパントは目をそむける。光が収まりニヨロロドーパントが目にしたのは体が人型になりケロメットがシャープな形になって、右手のランスはより攻撃的に左手の盾はより防御に特化した形になり、シユララのボディカラーと同じ配色の鎧に白いマントを纏った騎士の姿になったシユララだった。

シユララ「アーマードシユララ見参!ぶわっはっはっはっ!!」

アーマードシユララはニヨロロドーパントの弾幕を盾で無効化しながらランスを構え突撃した。

戦極凌馬の前にはタブードーパントが浮かんでいて不敵に笑っている。

戦極凌馬「自我のない操り人形に笑われるなんてとても不愉快だねえ」スチャツ

ヘルヘイムの果実の色をしたゲネシスドライバー『ヴァルハラドライバー』を装着して黄金のレモンエナジーロックシード『オーバー

ロードロックシード』を開錠する。

戦極凌馬「変身」

『オーバーロード』

『ロックオン…ドリップ…』

ヴァルハラドライバーにオーバーロードロックシードを装填して
シーボルコンプレッサーを押し込むと凌馬は黄金の果実のエネル
ギーに包まれる。

『オーバーロードアームズ…：genius of ruler』

頭部はドラゴンエナジーアームズを纏ったときのデュークで体は
腕のデザインを左右対象にしたロードバロンで色はデュークの色と
同じの『仮面ライダーデューク オーバーロードアームズ』に変身し
た。デュークはヘルヘイムの果実の色をしたソニックアロー『ネザー
ドアロー』を構える。

デューク「君の禁忌の力と私の禁断の力…どちらが上か比べさせて
もらおうか」シユウウウン

タブードーパント「!!」

突如周りの風景がヘルヘイムの森にかわりタブーは困惑し、目を離
した一瞬の隙にネザードアローの矢が四方八方からタブーに放たれ
た。

ケイ「他愛ない…」

すでに戦闘が終了した伏井出ケイが去ったあとには恐怖の帝王の
残骸が転がっていた。やはりドーパントでは融合獣の力には敵わな
かったようだ。

ーネオゲナムコーポレーション機密情報区画ー

エンジンブロス「この前のインベスに続いて今度はドーパントか
よお！」ガストツ

情報区画にてエンジンブロス、リモコンブロス、ボンバーウルゴス、
シグナルウルゴスはドーパント軍団の相手をしていた。アノマロカ
リス、ビースト、マグマ、バード、ジュエル、デス、ナイトメアドー

パントをなどを撃破したが残っていたテイルレックスとトライセラ
トップスが巨大化して四人を薙ぎはらう。

ボンバーウルゴス「うおあ!!」

シグナルウルゴス「……………」スタツ

エンジンブロス「やってくれるな! 兄貴! ヘルブロスだ!!」

雷は風にギアエンジンを渡そうとするが止められる。

エンジンブロス「あ? なんで止めるんだよ?!」

リモコンブロス「ヘルブロスを使ったらお前の変身が解ける…乱戦
の中で変身が解けたらどうなるかわかるでしょう?」

ボンバーウルゴス「それだったら俺達に任せろ!! 創!!」

シグナルウルゴス「……………了解」

シグナルウルゴスが粒子となってボンバーウルゴスに吸収される。
ボンバーウルゴスはネビュラスチームガンにギアボンバーとギアシ
グナルを連続して装填し引き金をひく。

『ギアボンバー! ギアシグナル! ファンキーマッチ!!』

ボンバーウルゴス「祭の始まりだあ!! 潤動!!」

『フィーバー!!』

金色と銀色の歯車が装甲となり滅はボンバーウルゴスとシグナル
ウルゴスが合体した『デミウルゴス』に変身完了する。

『パーフェクト!!』

デミウルゴス「デミウルゴス!! / ……見参」

デミウルゴスは金と銀の歯車状のエネルギーをビッグテイレーッ
クスとビッグトライセラトップスに放って怯ませる。

デミウルゴス「デカブツは俺らに殺らせてもらうぜえ! / ……殲
滅」

リモコンブロス「任せましたよ…雷!!」

エンジンブロス「ああ!!」ヒユイッ

『ギアエンジン! ギアリモコン! ファンキーマッチ! ギアエンジン!
ギアリモコン! ファンキーマッチ!』

リモコンブ羅斯はギア4つを連続して装填してトリガーを引く、す
るとブ羅斯達は煙幕に包まれてリモコンブ羅斯は強化態の『ヘルプロ

ス』にエンジンブ羅斯はカイザーシステムのオリジナルである『バイカイザー』になる。

リモコンブ羅斯／エンジンブ羅斯「潤動!!」

『ファイバー!!パーフェクト!!』

バイカイザーとヘルブ羅斯はマスカレイドドーパントの軍団に向かつていきあつという間に殲滅しデミウルゴスもビッグトライセラトップスとティーレックスを撃破して一息ついた三人の戦士を高速で移動するドーパントが襲撃する。

ヘルブ羅斯「…青いナスカにスミロドンですか」

デミウルゴス「それだけじゃないみたいだぜ／…増援」

大量のコックローチドーパントが現れて三人を囲む。

バイカイザー「害虫やろーがこんなに…」

ヘルブ羅斯「常人なら卒倒ものでしょうね」

デミウルゴス「ごちやごちや言つてねえで構えろ！来るぜ!!／…嫌悪」

ガサガサガサガサ

バシユン！バキツ!!

バイカイザーはボディブローを叩き込み放り投げて次に向かつてきた個体に歯車状のエネルギーを放つ、数体が爆発から逃れて飛びかかるうとするところをヘルブ羅斯がネビュラスチームガンライフルモードで的確に撃ち落とす。ヘルブ羅斯に襲いかかる個体をデミウルゴスがシグナルの効果で動きを止めて右腕から金色の歯車状のエネルギーを放つて爆殺する。ここまで十体以上は撃破したが勢いはまったくおさまらない。

デミウルゴス「ちっ！一匹みたら三十匹いるってのは本当だったみてえだな／…悪寒」

バイカイザー「口を動かしてないで手を動かせ！ぐはあっ!!」

シュインシュインシュイン!!

ヘルブ羅斯「コックローチの動きはなんとか終えますがスミロドンとナスカの高速移動が厄介ですね…ぐっ!!」

バチン！ザシュ！！

スミロドンドーパント「グルル…」

ナスカドーパント「フツフツフ」シュイン

ナスカは翼を展開してエネルギー弾を放ちコックローチごと三人に攻撃する。三人はそれぞれ回避するがその先を予測したスミロドンの攻撃をくらい徐々に劣勢になっていく。

ヘルブロス「この高速移動をなんとかしなければ！」

デミウルゴス「ああああ！！もうめんどくせえ！！纏めて吹き飛ばしてやらあ！！／……強行」

『ギアボンバー！』

バイカイザー「おいばかやめろっ！！」ガシツ！！

デミウルゴス「離せっ！／……要求」

バイカイザー「奴らを吹き飛ばす威力で撃つたら俺達も無事じゃすまねえぞ！！」

エネルギーをフルパワーで解き放とうとするデミウルゴスをバイカイザーが止めようとする。

スミロドン「シユアアアア！！ツ！？」ドガアアアアン！！

三人「！！」

乙エイラ「まったくお前達は何をしているんだ？」チャキツ

レオゾディアーツのクローを装備した仮面ライダーゾディアックがスミロドンを撃破して三人の前にあらわれる。

ヘルブロス「ハンターエイラですか…」

デミウルゴス「余計なことしやがって！あと少しで奴を引き付けられたのによお！！／……虚言／ああ？！余計なこと言つてンじやねえぞ創！！」

ヘルブロス「正直助かりましたよ…我々ではあのレベルの速さには対応できない」

バイカイザー「あんたはグランベル捜索中だろ？なんでここに？」

乙エイラ「社長から信号が送られてきてな、急いでドーパント達の殲滅に任務を変更したのさ。…ナスカには逃げられたようだが」

ナスカドーパントは忽然と消えており、大量だったドーパント達も

ほぼ全滅したようだった。

ヘルブロス「流石…というべきですか」

Zエイラ「ここはもう問題ないだろう…急いで社長の元へ向かっ!!?」

『ガタガタゴットンズツタンズタン!ガタガタゴットンズツタンズタン!Are you ready?』

ゴスツ!!!

Zエイラ「ぐはあっ!!」ズシャアア

突然、ビルドドライバーの音声が鳴り響き振り返ったZエイラの前に銀色のオーロラが現れて中から拳が突き出しZエイラの顔面を殴り飛ばす。

『オーバーフロー!——漆黒のナイトイレイザー!バットバットヤベーイ!コエーイ!』

カーテンの中からバンダナをつけた少女三人とビルドドライバーに黒いハザードトリガー、黒いフルフルビットタンクボトルをセットした、より仮面ライダーじみらせたナイトローグの姿をしたライダーがあらわれる。

Zエイラ「……貴様ら、何者だ?」

???「俺はダークドライダークラッシュ。壊す、粉碎するって意味のクラッシュだ……ビルドらしく言えばこうか?」

クラッシュと名乗ったライダーに続き少女三人はフルボトルを腕につきたてスマッシュ変貌する。

『ハンマー!』『シマウマ!』『バタフライ!』

???「アタシはマゼンタ!バタフライハードスマッシュよ!」

???「僕はシアン、シマウマハードスマッシュだよ?よろしくね?」

???「わたくしはイエロー、ハンマーハードスマッシュですわ」

マゼンタ/シアン/イエロー「我らダーククファンタジア三羽カラス!(ですわ!)」

スマッシュ三体は高らかに叫び、ヘルブロス達はZエイラの元にかげよって侵入者と対峙する。

ヘルブロス「ダーククファンタジアですか…」

Zエイラ「この世界に何のようだ?」

クラツシユは三羽カラスを押し退けて前に出てエイラの質問に答える。

クラツシユ「深い意味はない。単なるクラツシユのテスト運転と、お前らへの小手調べだ。試させてもらうぞ」

デミウルゴス「上等じゃねえか！テスト段階で廃棄にしてやんよお!!!
／……………粉碎！」

バタフライ「アンタの相手はこのアタシよっ!!」

ヘルブロス「鼠が4匹……………無謀にも程がありますねえ」チャキツ

シマウマ「そうかな？僕達の力をなめないほうがいいと思うよ？」

バイカイザー「あとで後悔するんじゃないぞ!!」バシツ

ハンマー「後悔するのはそちらのほうですわ！」

ヘルブロス達はハードスマツシユ達と戦闘を開始する。

Zエイラ「俺達も始めるか……」

『レオ・クロー!!キャンサー!・シザーズ!!』

クラツシユ「テストなんだから簡単に壊れてくれるなよ？」

Zエイラ「なめるなっ!!」シユイン!!!

異世界からの侵入者との戦闘が始まったところを遠くから見つめる影が2つ。

魔理沙「始まったみたいだな」

クロノス「君はいつ介入するんだ？霧雨魔理沙……いや、スターク……………違うな、エボルトか」

魔理沙「好きに呼んでくれよ、それに俺はゲームメーカーだ、あらゆる状況を鑑みて最良の作戦を考える。全ては……………計画通りだ」チャキツ

そういう魔理沙の手には赤いビルドドライバーが握られていた。

第18話 Eの覚醒

マゼンタ「ほらほらこっちよ！」バサア

デミウルゴス「ちっ！ちよこまかとお！／＼……………捕捉」バシユン！
マゼンタ「きゃあ！」

鱗粉を撒き散らしながらデミウルゴスを翻弄するマゼンタ、滅は苛立ちデタラメに歯車状のエネルギーを乱射するが当たらず、冷静に狙いをすましていた創がネビュラスチームガンの射撃をマゼンタにヒットさせる。

マゼンタ「やるじゃない…でもいい気にならないことね！」シャキ
ン!!

バタフライハードスマッシュのマゼンタは揚羽蝶の模様をした振り袖をブレード状にして斬りかかる。デミウルゴスは体を後ろに反らして回避しつつそのままバク転の要領でマゼンタの顎に蹴りを叩き込みマゼンタが怯んだ隙に両腕の打撃を繰り出して大きく後退させる。

デミウルゴス「なるほどな…こいつの動きが読めてきたぜ／＼…掌握」チャキツ

『ギアボンバー！』
デミウルゴス「これでトドメだ！／＼…?!異常／なにつ!？」ギシギ
シ

必殺技を放とうとしたデミウルゴスの体が突如動かなくなる。

マゼンタ「アタシの鱗粉がきいてきたみたいね！あんたの体に纏わりついて動きを制限したのよ！」

マゼンタは蝶のようなエネルギー弾を形成してデミウルゴスに狙いを定める。

マゼンタ「形成逆転、カイザーシステムってのも大したことなかったわね」

デミウルゴス「……………それはどうだろうな？／＼……………覚悟」カ
チツ

『ファンキードライブ！ギアボンバー！』

マゼンタ「なっ嘘でしょっ!!」

ドガアアアン!!!

デミウルゴスは自爆してマゼンタを巻き込む。近距離での爆発の影響で変身は解けてしまう。一方、デミウルゴスはバラバラになった粒子が再び集合して元の姿に戻る。

デミウルゴス「ハッハア!まさか自爆するとは想わなかっただろ?

／……………驚愕?」

マゼンタ「くっ!この卑怯もの!?!ガバツ!!」

デミウルゴスはマゼンタの首を掴み持ち上げる。

デミウルゴス「卑怯もなにもあるかよ!この世は勝てば正義、負ければ悪だ!／……………摂理／口ほどにもなかったなあ!!」チャキツ

その様子をヘルブロスと戦闘しているシマウマハードスマツシユのシアンが発見しマゼンタとデミウルゴスの元に走りだす。

シアン「マゼンタ!いま助けるっ!」

ヘルブロス「逃がすと思っっているんですか?」バキュン!!

シアン「ぐあああ!!」ガシツ!!

マゼンタの元へ向かったシアンをヘルブロスがネビュラスチームガンライフルモードで狙撃する。射撃の衝撃で転倒しそうになったシアンの首もとをデミウルゴスが空いていたもう片方の腕で掴む。

シアン「くっ!離して!」

マゼンタ「シアンッ!あんなんで来たのよ!?!アタシなんてほっとけばあんたも捕まらずにすんだのに!!!」

シアン「そんなことできないよ、マゼンタは大切な家族だから!!」

マゼンタ「シアン……………」

デミウルゴス「茶番はもういいか?／……………退屈」キュイイイイイン!!!!

二人を掴んだデミウルゴスの両手の歯車が回りはじめエネルギーがチャージされていく、最大までチャージが完了し放とうとした瞬間

バイカイザー「ぐあああ!!」

ヘルブロス「なっ!?雷!?!」

バイカイザーが吹き飛ばされてきてヘルブロスにぶつかる。そし

てバイカイザーの相手をしていたハンマーハードスマツシユがデミウルゴスを殴り飛ばしてマゼンタとシアンを救出する。

イエロー「大丈夫ですか？マゼンタ、シアン？まったく無茶すぎですわよ」

シアン「ゲホッゴホッ：ありがとうございます」

マゼンタ「ケフツケフツそれにしてもよくバイカイザーを圧倒できたわね」

イエロー「いやあのう：なんといいですか…」

ズドドドドドドド!!

イエローが言葉を濁していると周囲に炎の矢が降り注ぎ辺りは燃え上がる。

乙エイラ「回避ばかりしないで真面目に戦ったらどうだ？」

クラツシユ「テストだって言っただろ？機動力を試してたんだよ」

サジタリウスの弓『ギルガメツシユ』を装備した乙エイラがヘルブロス達の横に三羽カラスの横にクラツシユが降り立つ。

イエロー「お兄様が避けたゾディアックの流れ弾が偶然当たったんですわ…」

クラツシユ「それでも二人を救ったことにはかわりないさ、よくやったな」ナテナデ

イエロー「おっお兄様つたら／＼／」

マゼンタ「あっイエローずるい！おにい！アタシにも！」

シアン「ぼっ僕だってお兄ちゃんに撫でられたい!!」

クラツシユ「はあ、お前ら：いまは戦闘中だぞ」

戦闘中にも関わらずいちやついてる四人を見ながら乙エイラは乙エイラ「この場合おれはお前達を撫でればいいのか？」

バイカイザー「なんでそうなんだよ!？」

ヘルブロス「そういえばハンターエイラは天然でしたね」

デミウルゴス「どうでもいいから戦うぞ!…：再開」

乙エイラとヘルブロス達が構えなおすとダークファンタジアの四人組もいちやつくのをやめて戦闘態勢にはいる。マゼンタとシアンは再びボトルを使ってハードスマツシユに変身する。

マゼンタ「さつきはやられたけど今度はそうはいかないよ!!」
シアン「お兄ちゃんに撫でてもらうため…がんばる!」

クラツシュ「すまん…こういう奴らなんだ」

乙エイラ「なに…構わないさ、纏めて倒してしまえば問題ない!」
両者が再びぶつかりあう瞬間、

乙エイラ「ぐっ!」

ヘルブロス「なっ!」

デミウルゴス「うぐあ!! / ……!?!」

バイカイザー「ガハアツ!」

三羽カラス「…きやああああ!!」

クラツシュ以外の8人(デミウルゴスは二人合体しているので)の
変身が解除されて地面にふす

エイラ「くっ!…なにがおこった!?!」

雷「兄貴!これってまさか!?!」

風「彼ですね…ですがなぜ私達まで…」

滅「どういうつもりだ!?!クロノス!!」

突然8人の前に仮面ライダークロノスが現れる。

クロノス「すまなかったねカイザーシステム、それにハンターエ
イラ、私は彼のための舞台を整えただけなのだよ…」 スツ

エイラ「彼…だと?」

クロノスが向いた方向を見ると帽子をかぶっていない魔理沙が歩
いてきた。

魔理沙「おいおい、これは流石にやりすぎだろ…まあ私の指示だけ
どな」

クラツシュ「この世界の霧雨魔理沙か…まさか悪になっているなん
て思ってたかったぜ」

魔理沙「ダークドライバーだったか?私の、いや俺の準備運動の相
手になってもらうぜ?」 カチャツ

『エボルドライバー!!』

魔理沙は赤いビルドドライバー『エボルドライバー』を腰に装着し
てコブラエボルボトルとライダーエボルボトルをセットしてレバー

を回す。

『コブラ！ライダーシステム！』

『エボリューション!!』

すると第九のような音声とともにプラモデルのランナーの様なものが出現し未知の物質で作られた鎧が形成される。

『Are you ready?』

魔理沙「変身…」

両手を交差させたあとに広げ鎧が魔理沙に覆い被さり金色のリングに包まれて変身が完了する。

『コブラ！コブラ！エボルコブラ!!フツハツハツハツハ!!』

エボル「エボル フェーズ1」

魔理沙は火星文明を滅ぼした地球外生命体エボルトの本来の姿『仮面ライダーエボル』に変身した。

エボル「前の世界で倒されて以来だな、この姿になるのは…さてと…やるか」スチャ

クラッシュ「クロノスにエボル、テスト運転でこんな大物と出くわすとはな!!」

エボルとクロノス、二人の強大な仮面ライダーにクラッシュは果敢に立ち向かっていく。

第19話 最終鬼畜エボル

クラッシユ「はああああ!!」ブンツ!

エボル「ふっ」シユバババ

クラッシユが殴りかかるがエボルは赤い残光を残す高速移動で回避してクラッシユの後ろをとり軽く弾き飛ばす。

エボル「おいおい、こんなもんかあ? ダークドライダーってのはあ!!」バキッドカッバキツゴキツ!!

クラッシユ「ぐああ! くそっ!!」

ラッシユを立て続けにくらって膝をつくクラッシユ、エボルはドライバーのレバーを回す、すると足元に星座早見盤のエネルギーを形成して右足に収束し強烈な蹴りを叩き込む。

『ready go!』

『エボルテックファイニッシュ! チャオ!』

クラッシユ「ぐああああああああああ!!」

建物に叩きつけられるクラッシユ、かろうじて変身は維持されているがスーツの至るところが破損しており仮面にもひびがはいっている。

エボル「いままで変身が解けないのは評価できるが、もう戦闘は無理そうだな…これで終わりだ」シユオオオオン

エボルは右手に光のエネルギーをチャージしてクラッシユに狙いを定める。満身創痍のクラッシユを見て三羽カラスは思わず駆け寄ろうとするがクラッシユに止められる。

マゼンタ「おにい!」

シアン「お兄ちゃん!」

イエロー「お兄様!」

クラッシユ「くるなっ! お前達は俺を信じておとなしくしてろ!」
カシユーン

クラッシユは三に人呼びかけると立ち上がり、ビルドドライバーからフルフルボトルを抜いて振り始める。

カシャカシャカシャカシャ

『コブラー!』

エボル「あ?」

クラツシユ「オリジナルのフルフルボトルには二種類あったことを忘れてねえか?これから見せるのはあんたの馴染み深いフォームだ!!」

『マックス!ハザードオン!』

『コブラ&コブラー!ビルドアップ!』

『ガタガタゴットンズツタンズタン!ガタガタゴットンズツタンズタン!ガタガタゴットンズツタンズタン!』

コブラ型の小さなメカがエボルに襲いかかるが弾かれクラツシユの元に飛ばされる。

エボル「ローグの次はこの俺のマネかあ!!」

『Are you ready?』

クラツシユ「マネじゃねえ!これがダークドライダークラツシユだ!!」

『オーバーフロー!—紅蓮のブラッドマダー! コブラコブラ ヤベーイ!ヒエーイ!』

煙に包まれコウモリの装甲がパージされて代わりにコブラの装甲を纏ったより仮面ライダーに近づけたブラッドスタークのようなコブラコブラフォームにかわる。

クラツシユ「さあ第二ラウンドだ!!」

変身の様子を見ていたエボルは軽く笑いながら緑色のボトルをとりだす。

エボル「俺の姿を真似るとはニクいねえ、だったら俺も早苗の力から生成したこのボトルで!」

『サナエ!ライダーシステム!エボリューション!』

『Are you ready?』

『サナエ!サナエ!エボルサナエ!!フツハツハツハツハ!!』

頭部と肩のパーツが仮面ライダーサナエのようになったサナエフォームにチェンジする。その様子を見てクラツシユは一瞬驚くがスチームブレードを召喚して構える。

エボル「アナザーフェーズ、サナエフォームってどこだな」
『モリヤクローザー!』

クラツシユ「この世界のライダーの力か!面白い!」

『エレキスチーム!』

ズオオオオオオオオ!!

電撃を纏って体をコブラ状のエネルギー体に変えてエボルを翻弄しながら攻撃する。エボルはクローザーを地面に突き刺してスperl宣言をして弾幕を発動する。

エボル「秘術『グレイソーマタージ』!!』キラーン!ズドドドドドドドド!!」

エボルを中心に星形の弾幕が放たれる。クラツシユは被弾してダメージを受けつつもエボルの特攻して胸部に蹴りを繰り返して吹き飛ばす。

エボル「ぬおお!!」バシユーン

クラツシユ「あいにくだがその弾幕は飽きるほど見てるんだよ!!」

エボル「そうか、ならこれはどうだあ!!」

『スペシャルチューン!ミラクルチューン!』

ガシユン!ザン!!ザン!!

クラツシユ「ぐっ!しまった!!」

『ヒツパレー!ヒツパレー!』

『スーパーファイバー!』

エボル「本人もまだ使っていない技だ、これはこたえるだろ?」ズバアアアアアアアア!!

クラツシユ「がはっ!!」

サナエエボルボトルとライダーエボルボトルをモリヤクローザーに装填し刀身に黄緑と赤紫のオーラを纏った斬撃をクラツシユはもろに受けて吹き飛ぶ。エボルはボトルをドライバーに再装填してレバーを回すと緑色の風が腕に集まりエネルギーがチャージされる。

『ready go!』

『エボルテックファイニッシュ!チャオ!』

エボル「お前にはフェーズ2を使うまでもない、これで実力差はわかっただろ？」キユイイイイイン

クラツシユ「くっ！くそっ！！動けっ！動けよ俺のからだあ！！」

強烈なダメージを受けて立つことのできないクラツシユに向けて緑色のエネルギー波が放たれる。クラツシユは歯を食い縛り衝撃に備えるがいつまでたつてもこない、恐る恐る目を開けてみると信じたくない光景が広がっていた。

シアン「ガフツ：お兄ちゃん：大丈夫？」

クラツシユ「シアン！おいっ！しっかりしろっ！シアン！！」

シマウマハードスマツシユに変身したシアンがエボルの攻撃からクラツシユを庇いスマツシユの姿が解除されて倒れクラツシユはシアンを抱き抱える。

マゼンタ「シアンッ!?よくもシアンを!!」

イエロー「許しませんわ!!」

『ハンマー！』『バタフライ！』

二人「はあああああ!!」

エボル「ふんっ！」クルツバチツ

イエローの攻撃を回避してマゼンタに掌底を放つ。後ずさるマゼンタは蝶型の弾幕を放つがエボルは高速移動で回避、イエローの後ろに回り込み手からエネルギー弾を放つ。

イエロー「くあっ!!」

エボル「お前らもあいつと同じになりたいみたいだな、だったらこいつを使つてやる！」カシユン

『レイム！ライダーシステム！エボリューション!!』

エボルはレイムの顔が描かれたボトルをドライバーに装填してレバーを回す。

『Are you ready?』

『レイム！レイム！エボルレイム!!フツハツハツハツハ!!』

『オハライブレイカー!!』

エボル「ゴーストカード『ファンタジーシール』ババババババババババ!!

レイムフォームに変わったエボルはオハライブレイカーから七色の弾幕をばらまく、マゼンタとイエローは最初は抵抗したが圧倒的物量差に押し負けて吹き飛ばされる。

マゼンタ「うわあああ!!」

イエロー「まだっ！終わりませんわ!!」

そうは言うが二人は立ち上がることができない。エボルは二人を嘲笑いながらオハライブレイカーを二人に向けるがそれを止める者がいた。

ガシッ

エボル「……なんのつもりだ？壇 政宗」

クロノス「彼女達に審判を下すのはまだ早い……あれを見たまえ」

エボルが目を向けると赤黒いオーラを迸らさせているクラッシュがいた。その足元にはシアンが横たわっている。

エボル「なんだ？お別れは終わったのk!?!ぐおっ!!」

クロノス「ふむ、」『pause』

瞬間、エボルの前に瞬間移動したクラッシュはオーラを拳に収束させて殴り飛ばして、さらに飛ばしたエボルに追い付き踵落としを放つて地面に叩きつける。ちなみにクロノスは時間を止めて攻撃からちやつかり逃れていた。

エボル「ハザードレベル4. 6:仲間を傷つけられて覚醒したかああ!!」

『オハライモード!』

エボル「ふんっ!!けっ!せりやあ!!」ギューンギューン!

クラッシュ「はっ!せいっ!!」ガシッ!シユバン!!

オハライモードで正拳を放ち、続けて回し蹴りへとつなげるエボル、クラッシュはコブラ状のエネルギー態になりエボルに巻きついて辺りにぶつけまくる。

クラッシュ「俺はお前を許さない……この身が滅びてもお前を殺す!」

『ready go!』

エネルギー態のまま空へ飛び上がりレバーを回してクラッシュは

必殺技を発動する。

『ハザードファイニッシュ！コブラコブラファイニッシュ!!』

クラッシュ「はああああああ!!!」

エボル「その程度で俺を攻略できるかあ!!!」

『ready go!エボルテックファイニッシュ!チャオ!』

オハライブレイカーを投げ捨ててレバーを回し、右手に七色のエネルギーを纏ったパンチを繰り出して迎え撃つ。

クラッシュ「うおおおおお!!!」

エボル「おおおおお!!!」

互いのエネルギーが高まりあい、二人を中心に小規模な爆発がおこる。

―社長室―

モニターでクラッシュ達の戦いを見ていた麟は黎斗に話しかける。その様子は顔から笑みが消え失せて少し威圧感を漂わせていた。

麟「あなたの仲間のエボルトだったかしら?少しやりすぎじゃない?」

静かに怒る麟に縁理は背筋を震わせたが黎斗はそれがどうした?と言わんばかりにドヤ顔で答える。

黎斗「ビルドの世界で撃破され、私が再生させた彼にはクロノスを通して容赦をするなど伝えてある。これくらい当然さあ。」

バン!と机を叩き、麟は立ち上がり縁理に指示をだす。

麟「あなた達とは仲良くしようと思っていたけれどこんな仕打ちをされて残念だわ:縁理、部屋の外のドア。パント達をここに呼びなさい」

縁理「わかったよ麟姉!覚悟しなさい!私の能力であんたなんかイチコロなんだから!!」

黎斗「ほほう?話し合いだけじゃなかったのか?」

麟「ダークファンタジアのメンバーは私の大切な家族なの、それを傷つけたあなた達は生かしておけないわ」

バタン!!!

ドアが勢いよく開かれる。だが入ってきたのはドーパント達ではなく

プレデター「残念だが外にいた奴らは全員倒させてもらったぜ」
ローグ「こうなるだろうと思ったからな…話し合いが始まった時から待機させてもらった」

部屋の外にいたドーパント達を壊滅させたローグ達がおり、二人の奥から仮面ライダーナイトローグに変身した咲夜が麟に飛びかかった。

縁理「麟姉っ！」

『arms』

ガキイイイイン!!

N咲夜「ちっ！邪魔よっ！」

『ready go!ローグネスファイニッシュ!!』

縁理によって召喚されたアームズドーパントの胴体にドス紫色の煙を纏ったミドルキックを放って消滅させる。

麟「この世界は咲夜も悪に染まっているのね……」

黎斗「どうする？形成は逆転したようだが？」

麟「今回はお暇させてもらうわ、でも私達が本格的に活動を始めた時には……覚悟しておいてね♪あっいいい忘れたけど、アマゾン達が行動を起こすみたいよ♪」ニッコリ

麟は縁理の手を引いて社長室の窓際までいく。

ローグ「逃がすか！火神っ!!」『クラックアップファイニッシュ!』

プレデター「了解!!」『クラックアップブレイク!』

バチイイイイイイイン!!

プレデター／ローグ「!!?」

銀色のオーロラが二人の技を弾き、麟と縁理はその中に消える。

ローグ「すまなかつた…あと一手早ければ…」

黎斗「気にすることはない、奴にいつぱいくわせることができたかな、それにしてもダークファンタジアか……アマゾンに続きまたバグが増えるとは……それはそうと咲夜、君に神の恵みを与えよう。」
ドヤア

咲夜「こっこれは…ありがとうございます…黎斗様」

黎斗はいつもの調子に戻り咲夜に複製したエボルドライバーを渡す、ローグとプレデターは部屋を出ていく。モニターには幹部達の勝利した様子が写し出された。ただひとつエボル達に移る筈のモニターは爆煙に包まれていた。

―機密情報区画―

クラッシュ「ぐあっ……」ガクッ

必殺技の撃ち合いの末に負けたクラッシュは地面に膝をつく。

エボル「なかなかがんばったが俺には遠く及ばないようだなあ」

クラッシュ「クソッ……まだ完全には使いこなせないか……?!」

バタフライハードスマッシュに変身したマゼンタがクラッシュをだき抱えてイエローとシアンが倒れていた場所まで運ぶ。

クラッシュ「悪いなお前ら…シアンの仇を取れなかった……」

イエロー「それなのですがお兄様……」

クラッシュ「……?」

マゼンタ「シアンはまだ死んでないみたいなんだ!」

クラッシュ「なにっ!」

その情報にクラッシュは驚き、変身を解いたマゼンタは懐から白いメモリをとりだす。

『Sacrifice』

イエロー「麟様が御守りにとくくださったこのメモリが代わりに破損しておりました、なのでシアンはいま気絶しているだけかと」

生け贄／犠牲の記憶を持つメモリを渡されたことを忘れていたクラッシュは仮面の下で安堵の表情を浮かべる。

クラッシュ「さすがだぜ、麟様……」

エボル「お前ら、ここが敵陣だつてこと忘れてないか?」

『エボルコブラーフツハツハツハ!!』

安心したのもつかの間、コブラフォームに戻ったエボルが声をかけるとマゼンタとイエローはハードスマッシュに変身しクラッシュは

第3章 アマゾンズ異変の章

第20話 獣の宴

レイム「ああもう!!なんなのよ!!」

『スクラップパニツシュー!』

ドガアアアアアアン!!!

アマゾン『ぎゃああああああ!!』

レイムは激昂しながらオハライブレイカーから弾幕を放つ。霊夢達の知らぬところで起こったダークファンタジアとネオゲムの邂逅の数日後に突如として人を喰らう異形の怪物『アマゾン』達が幻想郷の至るところで活動を開始、人を喰らい始めた。

レイム「こいつらも魔理沙達の手先つてことかしら!」ギユイン!

カマキリアマゾン『ぎゃつ!!』

レイム「そりゃあ!!」ブルン!!シユバツ!

サイアマゾンの角を掴んで放り投げ落ちてきたところをオハライブレイカーのパイルバンカー部分で貫き仕留め、続いて襲いかかるイノシリアマゾンに頭突きをお見舞いして後ろ回し蹴りで頭部を粉砕する。

ヘビアマゾン「シヤア!!」

バツアアマゾン「クルクルクル!!」

レイム「なっ!?!」

後ろから2体のアマゾンがレイムに飛びかかるが…

Bにとり「ほいほいつと!」ギユルル!!

ビルドに変身したにとりがドリルクラツシャーで2体を弾き飛ばす。

Bにとり「後ろをとられるなんてまだまだだね〜レイム?」

レイム「うっさいわね!こんなにいるんだから仕方ないじゃない!」

Bにとり「ははは、うん、確かに」

二人の回りにはまだ数十体以上アマゾンが残っていた。二人は背

中合わせになり構える。

レイム「承太郎や早苗達は大丈夫かしら？」

Bにとり「いざとなったらウルトラマン二人がなんとかするらしいから心配ないさ、それより一気に片付けない？」

Bにとりは赤と青のジュース缶のような『ラビットタンクスパークリング』をとりだす。

レイム「その作戦：乗った!!」『マックス！ハザードオン！』『BANG BANG SIMULATIONS！』

Bにとり「さあ、実験を始めようか♪」シャカシャカチャカチャツ
!!

Bにとりはラビットタンクスパークリングを振ってプルタブを開けてドライバーに装填、レバーを回す。

『ラビットタンクスパークリング！』

『Are you ready?』

Bにとり「ビルドアップ！」

プラモデルのランナーがビルドのライダーズクレストの形で形成され気泡を纏った鎧をBにとりが纏い仮面ライダービルドラビットタンクスパークリングフォームに変身する。

『シユワツと弾ける！ラビットタンクスパークリング!!イエイ！イエイ!!!』

『オーバーフロー！Enemy is coming！Shot down their BANG BANG SIMULATIONS！ドリア!!!』

レイムはハザードフォームにシミュレーションゲームを纏ったシミュレーションゲームフォームになり両手の砲台を構える。

レイム「ミッシェン開始！」バン!!バン！バン！バン！

Bにとり「多対一に強いフォームか、そのフォームのデータも記録しておかないとね」カチャツ

ガンモードにしたドリルクラッシュヤーとホークガトリンガーを装備してアマゾン達に立ち向かうBにとり、レイムとBにとりが妖怪の山付近で戦っているその頃別の場所の承太郎&早苗組は人里でアマ

ゾンから逃げる人々を守りながら戦っていた。この里は以前のヒトツミの襲撃から復興途中だった。

村人「うわあああ!!」

トンボアマゾン「ぐがあああ!!」

J〇承太郎「オラア!!」バキイ!!

トンボアマゾン「ぎやふっ!!」

村人に股がり食らいっこうとしたトンボアマゾンをJ〇承太郎が殴り飛ばす。

J〇承太郎「おい死にたくなかったらさっさと逃げな、ここにいると命の保証はないぜ」

村人「あっありがとうございまして〜!」ヒュー

村人は逃げ、J〇承太郎はそれを追おうとするアマゾンを食い止める。

J〇承太郎「オラア!オラオラオラオラ!!!」

アマゾンズ「「ぎやああああああ!!」」

スタープラチナと共にアマゾンズにラツシュを叩き込み粉碎するが数匹が攻撃をきりぬけて村人達の方にせまる。

J〇承太郎「ちいっ!!まちやがれっ!!くっ!?!」

トカゲアマゾン「シューシュー!!」

追いかけるJ〇承太郎に飛びかかるトカゲアマゾン、その隙に数匹が村人に追い付きそうになるが

バシユ!バシユバシユ!!

アマゾンズ「「……カッ……」」

T慧音「よし…次」カチャツカチャバン!

トカゲアマゾン「カヒユツ……」

髪の毛がより青くなり左目にスカウターのようなものがつき、トリガーマグナムをライフル型にした「トリガーライフル」を装備したトリガー慧音（T慧音）がアマゾン達の頭部を撃ち抜き絶命させる。

J〇承太郎「助かったぜ慧音」

T慧音「ああ、これでこちら一帯のアマゾンはほぼいなくなったな」

「きゃあああああああ!!」「あああああああああ!!」
ああ!!」

J O 承太郎「いなくなったんじやなくてあっちに向かってただけみたいだな!」

T 慧音「まずいつ!行くぞ!!」

叫び声が聞こえてきた方に向かうと大量のアマゾンから村人達を守っているパラドクスとサナエがいた。アマゾン達を次々撃破していくが際限なく遅い来るアマゾンに対応できず何人か村人が襲われていた。

ワニアマゾン「シユアア…!」ガブツ!!

村人「ああああ!痛い!痛い!やめ…!」ぐしやあ

ワニアマゾン「シユアア…!?!」

パラドクス「このやろう!!」ブルン!!

パラブレイガンでワニアマゾンの頸動脈を切り飛ばして仕留めるが食いつかれた村人はすでに絶命していた。

パラドクス「くそお!!サナエ!!村人を守れ!!」

『デュアルガシャット!』

『キメワザー!パーフェクトクリティカルフィニッシュ!!』

すばばばばばばばば!!!

サナエ「わわわわわ!!みなさん伏せてください!!」

『スクラップバースト!』

パラドクスが弾幕をばらまきサナエはヴァリアブルゼリーでバリアをはって村人を守る。怒りにまかせたパラドクスの攻撃によりアマゾン達は爆散するがまだ数は減らない。

サナエ「このままでは里の人達を守りきれませんね…!」

パラドクス「シラケること言うなっ!こいつらを倒して里の人達を救うんだ!」

バツ!!

T 慧音「その通りだ!!」

J O 承太郎「いいこと言うじやねえかパラド」バキイ
スズメアマゾン「ぎやつ!!」

アマゾンネオ「うっ…」

ピピピキュインキュイン

メガヘクス『アマゾンネオの記憶を解析』

コードからアマゾンネオの記憶を解析しているメガヘクスにパラドクスとJ〇承太郎が攻撃し、メガヘクスは接続を切断してJ〇承太郎の拳とパラドクスのパラブレイガンを両手で受け止める。

J〇承太郎「オラア!!」

パラドクス「この前の奴らの仲間ならお返しをさせてもらおうぜ!!」
メガヘクス『メガヘクスの目的は溶源姓細胞オリジナルの抹殺である。君達に用はない』ピロロロロ!ザンツ!

二人「がはっ!!」

水色のレーザーブレードを形成して二人を斬り伏せる。メガヘクスはアマゾンネオの方に向き直りマイティブラザーズXXのブランクガシヤットをとりだす。

メガヘクス『君の記憶からアマゾン抹殺を効率的に行う為の情報を引き出した、檀黎斗の許可はすでにおりている。ガシヤットにデータ転送、メガヘクスはこの端末の主導権を形成した2つの人格に譲渡する』

するとブランクガシヤットが赤と緑色に着色されてメガヘクスはゲーマドライバーを腰に召喚する。

J〇承太郎「あれは…:パラドと同じ…」

パラドクス「ゲーマドライバーだと?」

メガヘクスはガシヤットを起動

『ワイルドハントアマゾンズXX!』

『ダブルガシヤット!』

『ガツチャーン!ダブルアップ!』

『お前は誰だ?俺の中の俺!ワイルドハントアマゾンズXX!!』
ガシヤットを装填してレバーを開くとメガヘクスの体が赤と緑の蒸気に包まれそれぞれ2つに別れる。

J〇承太郎「なんだか知らねえがあれはヤバい!おいお前!逃げろ!!」

赤い蒸気からはアマゾンライダーの不完全態とされるプレ・アマゾン（あるいはジャングラ）に近い配色となっており、頭部は初代アマゾンライダーに近い形状で眼はシャドームーンと同じくエメラルドグリーン。また全身に施されている模様は戦闘による傷跡があるライダーに緑の蒸気からは頭部は目立ったクラッシュャーは存在してはなく、釣り目の複眼や知覚アンテナ、各部のプロテクター状の部分など「平成ライダー風」なスタイリッシュな外見が特徴的なライダーになる。二人とも原点とは違いゲーマドライバーを装備している。（キメワザスロットホルダーなし）

『BLOOD AND WILD W—W—W—WILD』
『EVOL—E—EVOLUTION』

アマゾンネオ「と…父さん」

緑の仮面ライダー『アマゾンオメガ』の横から父さんと呼ばれた赤い仮面ライダー『アマゾンアルファ』はアマゾンネオの肩に手をおき口を開く

アマゾンアルファ「千翼…母さんのところに行けなかったのか…：
？」ザッザッザッ

アマゾンネオ「……………」

アマゾンネオ『千翼』が答えられずにいるとアマゾンアルファ『鷹山 仁』は少し笑い

アマゾンアルファ「そっか…悪かったな、でも安心しろ

「今度はちゃんと会わせてやるよ」

腕のアームカッターを千翼に振り下ろした。

第21話 始動／AMAZON

ガキイイイイン!!

アマゾンネオ「はあ…はあ…:…:…?」

アマゾンアルファ「あつ?なんだお前?」

アルファが振り下ろしたアームカッターをサナエがモリヤクローザーで間髪受け止めた。

サナエ「させませんよ、どんなに彼が危険であろうと父親が子供を殺すなんて」

アマゾンアルファ「…アマゾンは全て俺が殺す、邪魔するんじゃねえよ」

ブウウン!

ザンツガキン!!ザシユ!シユドツ!バツバツバツ!!

サナエ「くっ!パラド!承太郎さん!慧音さん!彼を連れて逃げてください!!」

アマゾンアルファのストレートと裏拳、手刀、足払い、ミドルキック、突きを受けながらアルファをネオのもとに行かせないようにするサナエ、パラド達はネオを連れて退散しようとするがオメガが襲いかかる。

アマゾンオメガ「行かせない!」

J〇承太郎「その要求は飲めねえな!!」ビシッ!どっ!

飛びかかるオメガをJ〇承太郎が受け止めて投げ飛ばす、オメガは体勢をすぐさま立て直して飛び膝蹴りを打ち込みJ〇承太郎は倒れオメガにマウントをとられる。

『ガッチョーン…キメワザ!!ガッチャーン!』

『ワイルドハント クリティカルパニッシュ!!!』

アマゾンオメガ「ヴオオオオアアア!!!ガウツ!!!」ジャキン!!

ゲーマドライバーのレバーを開閉して必殺技を発動するオメガのアームブレードがより鋭利になりJ〇承太郎の首もとをかつ切ろうとする。

J〇承太郎「…胴がガラ空きだぜ、スタープラチナア!!!」

スタープラチナ『オオオオラアアアアア!!』

アマゾンオメガ「ぐああっ!!」ドスウ!!!

スタープラチナの拳を胴体に叩き込まれ吹き飛ばされるオメガ、J
O承太郎は立ち上がりパラド達に

J O承太郎「お前らラボに戻ってな…そろそろにとり達も戻る頃だ
ろうしな、そいつの解析もやってくれるだろうぜ」

パラドクス「わかった…なるべく早く帰ってこいよ」

『透明化！高速化！』バシユン!!

M慧音「待てはやっ!？」

アマゾンネオ「えっ?ちょまつ!？」

バシユン!!

パラドは透明化と高速化のエンジーアイテムを使って慧音とネオ
を抱えてラボに帰還する。

J O承太郎「なんでお前達はあいつを狙う?あいつは化け物ども殺
してただろう?」

アマゾンオメガ「…その彼が化け物を生み出している原因だと
言ったら?」

J O承太郎「なにい?」

J O承太郎が構えながら質問をするとオメガは構えを解き疑問に
答える。

アマゾンオメガ「彼は…人間とそこで戦っている赤いアマゾンの間
に生まれた子どもです、彼のアマゾン細胞は母親の中で突然変異を起
こして新たなアマゾン細胞になりました…」

J O承太郎「それが化け物を生み出す事とどう関係するんだ…
?」

アマゾンオメガ「彼の細胞は人に感染するんです、そして人を喰ら
う怪物に変貌させる。もちろん彼はわざと感染させているわけじゃ
ない…：外の世界での感染は彼の母親が変異したアマゾンが原因で
したからね」バツ!

ひととおり説明を終えるとオメガはJ O承太郎に飛びかかる、J O
承太郎は横に回避して蹴りを放つ、オメガは受け止めアームブレード

をJ〇承太郎の胸部に突きつける。

J〇承太郎「ぐっ……だからって殺すことはねえだろう？」

アマゾンオメガ「溶源姓は危険すぎる……彼自身にも制御できないほどに……」

『オラァー！オラオラオラオラ！！』

アマゾンオメガ「!?」バシッ！バツ！シュッ！ババババツ！

仮面ライダーに変身したことによりスタンドを持たない人間にも視認できるようになったスタープラチナのラツシユをさばきながら後ろに飛ぶオメガ、J〇承太郎はマキシマムスロットにジョーカーメモリを装填、スタープラチナと承太郎が重なり右足に紫色のオーラが迸る。

『J o k e r m a x i m u m d r i v e !』

J〇承太郎「それでもここは幻想郷だ！あいつを受け入れられる時が必ず来る!!!」

アマゾンオメガ「その時には全ての人間がアマゾン化しているかもしれない……そうなつてからじゃ遅いんだ!!!」

『ガツチョーン……キメワザ！ガツチャーン!!』

アマゾンオメガはレバーを開閉して必殺技を発動すると左足から緑色の蒸気が発生する。

『ワイルドハント クリテイカルストライク!!!』

アマゾンオメガ「ウオオオオオオ!!!」

J〇承太郎「オオオオオオオオ!!!」

飛び上がり蹴りと蹴りがぶつかり合うが押しきられJ〇承太郎のドライバーにオメガの蹴りが炸裂して承太郎は吹き飛ばされて地面に転がり変身解除される。腰のロストドライバーとメモリからは火花がでていた。

承太郎「ぐっ……まずいつ!!」

ヒヒアマゾン「キャーイ!!」バツ！

スタンドも使えないほどのダメージを受けた承太郎にガーディアンの攻撃から生き残ったアマゾンが襲いかかりマウンドをとる。

アマゾンオメガ「まだ生き残りが……!」

ゾウアマゾン「ブオオオオ！」

カニアマゾン「シユルルルルル!!!」

アマゾンオメガ「っ!!」

重量級のアマゾン2体がオメガの行く手を阻む、オメガはゾウアマゾンの膝を蹴り碎きバランスを崩したゾウアマゾンを踏み越えてカニアマゾンの胴体を手刀で貫いて仕留め、引き抜いた腕のアーンプレードで振り向きざまにゾウアマゾンの首と胴体を切断する。

ヒヒアマゾン「キャヒヒヒヒ!!」

承太郎「ぬう……！」グググググ

ヒヒアマゾンが今まさに承太郎の首に喰らいつきそうなる瞬間
ドシユウ!!!

ヒヒアマゾン「キャ………」

アマゾンアルファ「つたく、何やってんだ悠」

アルファがヒヒアマゾンを後ろから手刀で貫き心臓を握り潰して仕留める。

アマゾンアルファ「これがアマゾンだ、事の重大さがわかっただろ？」スツ

アルファは承太郎に手を差し伸べ承太郎は手をとりに立ち上がる。
そこにガーディアンを撃破したサナエが合流する。

サナエ「承太郎さん大丈夫でしたか?!」ペタペタ

承太郎「うっとおしいぜ……」

サナエ「はっ!ごめんなさい……」

全身をくまなく触って怪我を確認するサナエを一蹴する。

承太郎「帰るぞ……」

サナエ「えっ!?!でも彼らを……」

承太郎「そいつらは敵だが悪ってわけじゃない……それに俺は今戦えないしな……」スツ

破損したメモリとロストドライバーを見せ、承太郎はその場を去ろうとするが去り際に

承太郎「アマゾンって奴を倒すのは協力するがアイツを殺すってんなら話は別だ……罪もねえ奴が殺されるのは見えて胸糞悪イからな。」

帰るぜ早苗」

サナエ「待つてくださいい〜」

二人はその場をあとにする。残されたアマゾン達はその後ろ姿を見つめながら

アマゾンオメガ「仁さん…いいんですか？」

アマゾンアルファ「構わねえよ、そのうち考えが変わるだろ…それよりも……………」

アマゾンオメガ「??」

アマゾンアルファ「千翼一人でこんなに感染が広がると思うか？」
アルファは右胸の傷を撫でながら考え、オメガはなにかを察したようだ

アマゾンオメガ「もしかして……………また……………」

アマゾンアルファ「ふつ……………なかなか浮かばれねえよなあ〜七羽さん」

アルファは幻想郷の空を見上げながらぼんやりと呟くのだった。

数時間後、ラボに戻った承太郎は頭に河童型のヘルメットのよう装置をつけられていた。ちなみにパラドはゼロとゲーム、早苗はモニターで外の監視とレジエンドルガの襲来以来姿を見かけない紅魔館勢の行方の搜索、慧音とミステイアは夕飯の準備をしており、リクは千翼の解析をしていた。

承太郎「おい河童……………このふぎけたやつはなんだ？」ギリギリ

にとり「痛ててててて!!あんたがぶつ壊したメモリの変わりを作る装置だよ!!痛いってば!!!」

アイアンクローから解放されたにとりは頭を押さえる。呆れた承太郎は装置をつけたままソファーにもたれかかり寝息をたてはじめた。

にとり「はく痛かった……………承太郎はなんでこんなに苛立ってだろ」
にとりの疑問に答えたのはお茶を啜っている霊夢だった。

霊夢「あの子……………千翼を救いたいけど救えない自分に腹をたててるんでしょ」ズズ……………コトツ

霊夢は湯飲みを置いてにとりのほうに向き直る、それも真剣な表情で

霊夢「にとり……………」

夕飯まだかしら?」グウウ

ずっこおおおおおおおおおおん!

霊夢「?」

にとり「まったくぶれないねえ」

ゼロ「それにしても腹へったなあ」

承太郎「Z z z ……やれやれだぜ」ムニャムニャ

ラボの全員が(カプセルの中の千翼)盛大のずっこける中で霊夢はきよとんとしていた。

その頃冥界の白玉楼では地上で殺されたアマゾン達の魂が暴れていた。

???「くっ!こんなに荒ぶった魂は初めてだ……妖夢ちゃん、大丈夫かい?」

妖夢「ええ……このくらいなんともないです、霧彦さん」

妖夢とともに並び立つ男の名は風都を愛し風都のために散った男『園崎霧彦』彼は着物に赤血のような点がある帯を巻いた姿で日本刀

を構えていた。

霧彦「はあ!!」ザンツ!

アマゾン「きゅっ!」

次々アマゾンの魂を斬り伏せていく中で突然彼らの目の前に青い怪物が現れた。

妖夢「なっ!」

霧彦「こいつはナスカっ!!」

ナスカドーパント「フンツ!」ババババ!!

二人「ぐあああ!!／きやああああ!!」

ナスカドーパントは手から青い衝撃波を放って二人を攻撃する。白玉楼へ続く階段まで吹き飛ばされた二人は立ち上がって構えてながら作戦を話し合う。そこにアマゾンの魂とナスカドーパントが迫ってきた。

霧彦「妖夢ちゃん……ドライバーを使って奴を倒してくれ……ナスカのメモリがあれば僕も十分に戦えるはずだ。懐の彼もその気のようにだしね」

妖夢は懐からクリアイエローのボディに極ロックシードの絵柄がついた『フルーツバスケットエナジーロックシード』をとりだす。ロックシードからある男の声が発せられた。

絃汰「妖夢、恐れちゃ駄目だ!君なら俺の力の一部を使いこなせる!」

妖夢「絃汰さん……グツ!!」

実はネオゲムに飛来するまえに精神体で白玉楼に来ていた絃汰は妖夢達に幻想郷で起こっていることを伝えて戦極ドライバーとロックシードと自分のバックアップがとってあるエナジーロックシードを託していたのだった。

絃汰「主が帰ってくるまでここを守り通すって決めたんだろ!?昨日までの自分から変身するんだ!!」

霧彦「僕も君を信じてるよ、君なら大丈夫さ!」

妖夢「絃汰さん……霧彦さん……!!」スチャ

二人の言葉を受けた妖夢は決意を固め戦極ドライバーを腰に装着、

するとフェイスプレートに鎧武のような顔がイニシャルイズされる。

妖夢「私は白玉楼のお庭番 魂魄妖夢！幽々子様がお戻りになるまでここは私が守ってみせる!!変身っ!!!」

『妖夢！』『フルーツバスケットエナジー！』

ジイイイ

頭上にクラックが開き白いオレンジアームズとメロン、ピーチ、チェリー、マツボツクリ、レモン、ドラゴンフルーツ、マロン、のエナジーアームズが周囲を漂う

『ロックオン！』

ロックシールドをセットしてハンガーをおろすと妖々夢のテーマ曲 maximum moving aboutの前奏が鳴り響き妖夢はカツテイングブレードをおろす。

『みよんっ！ミックス！妖夢アームズ 半・人・半・霊！ジンバーフルーツバスケット！ハハー!!!』

妖夢はどことなくガイムに似た仮面ライダー妖武に変身する。

霧彦「おお！なんと美しい……」

紘汰「さあ行くぜっ！」

妖武「はい!!」

妖武は楼観剣と白楼剣を構えてナスカドーパントとアマゾンの魂達に宣言する。

妖武／紘汰「ここからは私達（俺達）のステージだ!!」

第22話 乱戦／ROGUE

楼観剣と白楼剣でアマゾン達の魂を切り裂き、ナスカドーパントに振り下ろす。ナスカはブレードで2刀を防いで弾きとばして妖武の胴体の前に手を添えてエネルギー弾を連射するが妖武はチェリーエナジーの高速移動で回避する。

ジャキン！ザンツ！ザザン！！

ナスカドーパント「……………フンツ」シュシユシユシユ！！

妖武「この速さに追い付いてくるとはっ!?」

ガキイイイイン！ザンツ！ガキン！！

妖武「きやつ！」

アマゾン達の魂を巻き込みながら高速移動で戦うナスカと妖武、ナスカドーパントのブレードが妖武を捉え右上に切り上げる。

妖武「少し荒っぽいですがこれなら!!」

『みよんっ！妖夢スカツシュ！ジンバーフルーツバスケットスカツシュ!!』

妖武「彩果刃『フルーティカルブレードエア』!!!」

霧彦「うわあっ!!」ヒューン

ナスカドーパント「……………!!」

妖武を中心に様々なフルーツの幻像を纏った竜巻が発生してナスカドーパントを空へ打ち上げる(霧彦は吹き飛ばされていった。)ナスカドーパントはハチドリのような翼を展開してバランスをとろうとする。

霧彦「ははっ！この時を待っていたよ!!」スバン！スバツ!!

ナスカドーパント「……………!!」グラァ

竜巻で飛ばされ落下してきた霧彦が鮮やかな剣さばきでナスカドーパントの翼を切り落とす。するとナスカは非行能力を失って落下する。その下には妖武が剣を十字に構えて待ち構えていた。

『みよんっ！妖夢スカツシュ！ジンバーフルーツバスケットスカツシュ!!』

妖武「はああああ!!」ズバァン！ズバツ!!

十字の斬撃がナスカに襲いかかり、妖武は続けて足にエネルギーを溜める。

絃汰「妖夢っ！もう一押しだ!!」

妖武「はいっ!!」

妖武は十字の斬撃を受けてなおブレードを離さずに落下してくるナスカにライダーキックを放つ（真上から落下してくる敵に向けてなので打ち上げロケットのような感じ）

妖武「セイハアアアアアアアアアア!!」

ナスカドーパント「……………!!」

ドガアアアアアアン!!

霧彦「ナイスだよ、妖夢ちゃん！」パシッ カシユーン

『NASCA』

落下してきたナスカメモリをキャッチした霧彦は幻想入りした時に一緒に持っていたガイアドライバーにメモリを挿入、ナスカドーパントへ変身する。

ナスカ「うっ……………！」バチツバチバチ

妖武「霧彦さんっ！」

絃汰「大丈夫か!？」

ナスカ「ぐああああ!!」バチツバチバチイ!!!

ナスカの体に電流が走り霧彦は苦しむがしばらくすると電流が治まる。

妖武「大丈夫……………ですか？」

ナスカ「ああ……………風都では適合できなかったがこの幻想の地で適合することができた……………」チャキン

ナスカと妖武は刀を構えて成仏できていないアマゾンの魂に対峙する。

ナスカ「久しぶりだよ、この感覚は……………楽しませてくれたまえ!!」シユイン!!

妖武「私達も!!」

絃汰「輪切りにしてやるぜ!!」

二人がアマゾン達の魂に向かって行ったのを陰から見ていたもの

がいた。

グランベル「鎧武の魂はここにいたのね…嬉しい誤算だわ♪さて私達も行きましようか…：幽々子？」

白玉楼の主である幽々子をつれたグランベルはクラックを開きその中に入っていく、クラックの中はマグマの中に巨大な龍の像が立っている幻想郷ではない場所だった。

グランベル「さあて、解けかけているこいつの封印を何とかしないと…：…ね♪」

—無縁塚—

咲夜「やっぱり当たりのようね」

咲夜、幻徳、火神、鷲尾兄弟は無縁塚へと調査に来ていた。外の危険物がよく幻想入りするこの場所をアマゾン達の拠点と判断したからだ。

幻徳「なんだ、あれは？」

火神「ん？」

霧の中から研究所のような建物が現れ、その前にスーツを来た男性が立っていた。

尊士「ようこそいらっしやいました…」

咲夜「貴様、尊士！」

幻徳「奴が例の魔導ホラーか…」

尊士「ここから先へは行かせません」ズオオオ

『ギヤシャシャ』『クルルル!!』『……………ジュールジュール』『カロロ……………!!』

尊士が白い狼のようなホラー態になると建物からサソリ、オウム、ウデムシ、ハイエナのような姿をしたアマゾンが姿を現す。

幻徳「そういう訳にはいかないんでな…：大義の為の犠牲となれ」

『デンジャー』

『クロコダイル!』

火神「押し通らせてもらうぜっ！」

『ワーニング』

『メガロドン!』

火神／幻徳「変身っ!／変身…」

『割れる!喰われる!砕け散る!』

『クロコダイル イン ローグ』

『メガロドン イン プレデター』

『オオオラアア!!!』

スクラッシュライダーに続き鷲尾兄弟もネビュラスチームガンとギアを取り出すが、違和感を感じた咲夜が問いかける。

咲夜「あなた達、カイザーのギアはどうしたの?」

雷「ああ、それなら」

風「ダークファンタジア襲来後から行方が分からなくなってしまいましたね……まあ問題ないでしょう」

『ギアエンジン!ファンキー!』

『ギアリモコン!ファンキー!』

雷／風「潤動」

雷がギアをセットしてトリガーを引いたあとに風にネビュラスチームガンを渡して同じ行動を繰り返す。二人はエンジンブロス、リモコンブロスに変身完了した。

『Engine running gear』『Remote control gear』

リモコンブロス「ヘルブロスになるときも雷は変身解除されずにネビュラヘルブロスになるように設定してありますから」スチャ

咲夜「ならいいわ」スチャカシューン

『MIDNIGHT!』

コウモリ型ガジェット『ローグバット』にバットボトルを装填してドライバーにはめ込みレバーを回す

『ROGUEBAT!』

『Are you ready?』

咲夜「変身……」

『MIDNIGHT DARKNESS! bat! KNIGHT OF ROGUE! yeeah!!』

咲夜は一足遅れてナイトログをクローズの様な仮面ライダーっぽくした仮面ライダーナイトログに変身する。

N咲夜「さあて準備はできたかしら？」

尊士「むしろ待ちくたびれましたよ」バキィ!

尊士は表皮の肋骨を一本引きちぎり大剣を生成して構える。

N咲夜「上等ね! かかりなさい!!」バツ!

ローグ「やっとか……」

プレデター「ほんとに変身中は攻撃してこないんだな……」

リモコンブロス「メタイことはなしでいきましょう」

エンジンブロス「はっ!」

N咲夜の掛け声で一斉に建物に向かうライダー達、それを尊士は剣を構え、アマゾン達は牙を剥き出して迎え撃つ。

尊士「身の程を……」ガルルル

尊士達とライダーの戦いを建物の中から見ている男がいた。男の足元には人の残骸がたくさん転がっていた。

???「頼むぞお尊士い、うまくやってくれよお」ガブツ!

戦いを見守る男はそう呟きながら手にもった人間の腕にかぶりついた。

第23話 波乱／PEDANIUM

謎の建物の前で戦闘が始まった。初手はウテムシアマゾンの鎌を避けてエンジンブロスがタツクルを食らわせる。ウテムシアマゾンは体の小さなウテムシの様な鱗でダメージを軽減してタツクルしてきたエンジンブロスの腹に膝蹴りを打ち込む。

ドゴオ！

エンジンブロス「うぐっ！」

ウテムシアマゾン「ギシャシャ」ぶんっ！

ガシィ！

エンジンブロス「嘗めんな！虫が!!」ドゴ！バキィ！シユド！

鎌を掴んで引き寄せ、歯車を高速回転させて胴体の鱗を傷つける。

ウテムシアマゾン「ギシャシャ!!!」ウジャウジャ

ウテムシアマゾンの鱗が動き出して本体から分離、子供くらいの大さきのウテムシアマゾンへと変わりエンジンブロスを囲む。

エンジンブロス「おいおい、マジかよ……」チャキィ！

子ウテムシアマゾン「きゅああああ!!」

エンジンブロス「はっ！」ザンツ！

飛びかかってきた1体の脇腹を切り裂き、2体目を掴んで地面に叩きつける。さらに後ろから襲いかかってきた3体目と4体目を蹴りつけて距離をおいたあとに2体目の頭部を踏み潰す。

エンジンブロス「チッ！親はどこにいきやがった！オラツ！」ズバァン！

5体目の首をスチームブレードで切断したエンジンブロスは姿を消した親ウテムシアマゾンを探す。すると地面からウテムシアマゾンがエンジンブロスの足を掴んで拘束する。

エンジンブロス「あっ!?ぐはあ！」ドッ！ゴロゴロゴロオ

リモコンブロス「すみませんねえ雷……」

オウムアマゾンが空からリモコンブロスを動けないエンジンブロスに向かって投げつけて激突させる。

リモコンブロス「こいつらは理性を失ってるはずですが……」

エンジンブロス「小癩なマネをしてきやがるぜ」

二人が立ち上がると、地面から出てきたウテムシアマゾンと空から降りてきたオウムアマゾンの口が花卉のように開く

リモコンブロス「なるほど……陰我ホラーが憑いていたと」

尊士「そのとおりです」

エンジンブロス／リモコンブロス「「なっ!？」」

ズバアアアアン!!!

突然、尊士がブロス達の前に降り立ち剣で一閃する。

エンジンブロス「ぐああああ!!」

リモコンブロス「いつの間に……」

尊士「建物を護衛するアマゾンにはホラーが憑いています。ホラーアマゾンと言ったところででしょうか?……!!」

ドドドドドドドド!!ガキキキキキイン!!

N咲夜「あなたの相手は私よ!」

翼を広げたN咲夜がバルブがついていない小型のスティームブレイド『スティームナイフ』をばら蒔くが尊士は最小限の動きで剣を振るい防御する。

尊士「……ふっ」バサア!!

尊士も翼を広げ飛び上がり、N咲夜へ斬りかかる。旋回しながらトランスチームガンから弾を放つが尊士は剣で弾きながら接近してくる。

尊士「私が騎士としての品格を教えましょう」

N咲夜「魔導に堕ちたあんたに教えられるなんてごめんよ!!」カチツ

瞬間、時は止まった。

地上戦のブロス達は子ウテムシアマゾンを仕留めながら親ウテムシアマゾンとオウムアマゾンの攻撃をなんとか避けていた。

『エレキスティーム!』

バチチチチチイ!!

エンジンブロス「兄貴!」

『ギアリモコン!』

『ファンキードライブ！ギアリモコン!!』

電撃で親ごと子ウデムシアマズンを怯ませてリモコンブロスが必殺技を放つ。

ウデムシアマズン「ギャ……シャ……」

子は一層できたがかるうじて親ウデムシアマズンは生きていた。

エンジンブロス「いまだ！」

リモコンブロス「ああ!!」

リモコンブロスが空中で一回転して踵落としを決めて着地する。

リモコンブロス「雷っ！」

リモコンブロスに手をつけて土台にしてエンジンブロスがウデムシアマズンの胸部に蹴りを叩き込む。さらに二人は並び立ち互いの歯車状のエネルギーを巨大化させる。

リモコンブロス／エンジンブロス「これでジ・エンドだ!!」

『クラックアップフィニッシュー!』

ドゴオオオオオオオオオ!!

リモコンブロス／エンジンブロス「なっ!?!」

紫のオーラ纏ったハイエナアマズンが飛んできてウデムシアマズンを巻き込んで爆発を起こす。

ローグ「ホラーが憑いていてもこの程度の強さか……」

『クラックアップフィニッシュー!』

ローグ「ふんっ！」

オウムアマズン「ぎゃっ!?!」

ドガアアアアアアアアア!!!

右拳を握りしめながらウデムシアマズンごとハイエナアマズンを仕留めたローグがやってくる。左手にはハイエナアマズンから引きちぎった頭部があった。ローグはハイエナアマズンの頭部をサッカーボールの様に蹴り飛ばしてオウムアマズンも仕留める。

エンジンブロス「ローグ……」

リモコンブロス「相変わらずですね、このヒゲホT「ああん?」……なんでもないです」

黒歴史を口走りそうになったリモコンブロスを凄んで黙らせた

ローグは空で戦っている咲夜達を見つめる。

リモコンブロス「加勢しますか？」

ローグ「いや、壇 黎斗とエボルトから奴のハザードレベルを上げるように言われている。エボルトライバーを使うにはハザードレベル5・0以上が必要だからな」

上空のN咲夜は素早い動きで尊士を翻弄するが、尊士は念力で一時的な突風を起こす。

ビュウウウウウウウン!!

N咲夜「きやつ!コントロールが!?!」

結果、N咲夜はバランスを崩して落下する。

ローグ「……………まあ、危なくなったら加勢するか」

リモコンブロス「それなんですけど……………」

エンジンブロス「あれ:見ろよ」スツ

エンジンブロスが指差した方向には降りてきた尊士に向かっていくプレデターがいた。

プレデター「俺と闘ええー!!」ダダダダダッ!

ローグ「はあ、あいつは……………行くぞ」ダッ!

エンジンブロス/リモコンブロス「了解!」

相変わらず戦闘狂のプレデターに頭を抱えながらローグはブロス達を引き連れて加勢に向かう。

プレデター「オラア!セリヤア!!」

バシッ!ドツ!ビシイ!

プレデターが殴りかかり、そのまま後ろ回し蹴りを放つが尊士はそれを避けてプレデターの背中を叩きバランスを崩させる。続いてエンジンブロスがスライディングをしてくるが尊士は軽く飛び膝の上に乗ってエンジンブロスの顔を蹴飛ばす。

エンジンブロス「ごぶっ!」

ローグ「合わせろ!」

リモコンブロス「はいっ!」

『『ライフルモード!ファンキー!』』

『ギアリモコン!エレキスチーム!』『クロコダイル!』

ローグトリモコンブロスがネビュラスチームガンをライフルモードに変えてエンジンブロスにさらなる攻撃を加えようとする尊士を狙撃する。

『ファンキーショット！クロコダイル！ギアリモコン！』

尊士「ぬううう!!」ばごおん!!

『ready go! ローグネスファイニッシュ!!』

N咲夜「隙ありよっ!!」

尊士「ぐはあ!!」

ファンキーショットの爆発で後ろに後退した尊士をN咲夜が紫電を纏ったキックを食らわせる。さらによろめいた尊士をプレデターが捕まえ、立ち上がったエンジンブロスと挟み込む。

ガシイ!

プレデター「よお……覚悟はできてるか?」

『クラックアップブレイク!』

プレデター／エンジンブロス「俺達は出来てるぜ!!」ギユイイイイン!

ディープブルーのエネルギーを纏ったパンチと歯車をフル回転させて威力を高めたパンチが尊士の頭部を捉え、いままでにないほどの大ダメージを与える。

尊士「ガツフ!?……………ぐおおおおお!!はっ!!!」バドーン!!

プレデター／エンジンブロス「うわっ!!」

バツ!

尊士「なかなかいいチームじゃないですか……」

二人を掴んでローグ達の元に投げ飛ばして尊士は建物の前に後退する。

N咲夜「トドメよ!!」

サソリアマゾン「ギシエア!!」バシイ!

N咲夜「きゃっ!」

サソリアマゾンがN咲夜に飛びかかり鉄で攻撃する。すかさずブロス達がサソリアマゾンにボディブローを打ち込んでぶっ飛ばす。

リモコンブロス／エンジンブロス「ふんっ!／オラァ!」

サソリアマゾン「ギシャシャ!!」

ローグ「火神……仕留めてなかったのか?」

プレデター「いや、確実に殺ったはずだ」

ローグ「となると新手か……」

N咲夜「そんな事はどうでもいいのよ!このチャンスを邪魔される訳にはいかないわ!メガヘクス、シグマを!!」ピピ

メガヘクス『了解した、転送を開始する』

空間にアマゾンズドライバーが転送されそこから徐々にアマゾンシグマの体が形成されていくその瞬間に建物から声が響き渡る。

???「尊士っ!いまだあ!!」

尊士「はっ!」シユドドドドドドド!!

ローグ「ぐっ!」

N咲夜「なっ!?!」

尊士は体を黒い液体に変化させてローグとN咲夜を押し退けて形成途中のアマゾンシグマからドライバーを剥ぎ取り建物へ戻る。ドライバーを失いシグマは粒子化した消滅した。

N咲夜「やられたわ……」

リモコンブロス「なぜ奴はドライバーを?」

プレデター「……さっきの声の主が使うつもりじゃないか?」

エンジンブロス「おいつ!なんか出てきたぞ!!」

建物から尊士とスーツを纏った男がドライバーを手に持ちながら出てくる。

???「いやあ!実に素晴らしい!やあ諸君!素敵なおプレゼントをありがとう!!」

男性は大袈裟な身振り手振りでN咲夜達の前に現れる。

エンジンブロス「てめえ、何者だ?」

エンジンブロスの質問に男は満面の笑みで答えた。

???「よくぞ聞いてくれた!俺は誉れ高い金城家の跡取り息子『金城滔星』という者だ!!元は日本から完全に独立したボルシテイの生まれだが……あんのにつきき黄金騎士とその仲間によってすんばらしい計画を破綻され、あげくの果てにホラーに取り憑かれて魔戒

法師に殺された!!」

滔星は話ながら地団駄を踏み、N咲夜達は『なんだこいつ?』という感じでその様子を見ていた。しかし、見るからに小悪党にしか見えない男だが底知れない邪悪さを幻徳は感じ取っていた。

ローグ「その跡取り息子がアマゾンを使って何を起こす気だ?」

滔星「魂だけとなりさ迷っていた俺は狐と猫に導かれて謎の裂け目に飛び込んだんだよ!するとどうだろう?意識が目覚めると俺は幻想郷の森で横たわり体はクラゲの様な怪物で人間に戻れなくなっていたあ!!」

ローグ「狐と猫……やはり八雲の式神が一枚噛んでいたか」

滔星「ムシヤクシヤした俺は人里から離れた山奥の村を襲撃し続けた。辛うじて生き残った人間は皆アマゾンに変わり、俺はアマゾンを増やすことができるのを確信した瞬間に人間の姿に変わることができようになり、姿もクラゲから変化したあ!!このようになあ!!」ブシュー!!

一同「!!!!!!」

滔星の顔に青黒い血管が浮かび上がり熱を放出しながら蒸気に包まれる。蒸気が晴れたあと滔星は体に東洋の竜のような触手が何本も巻き付き、頭部は西洋風のドラゴンのようで背中には悪魔の様な翼があり、背中を中心部分から蛇の顔がついた尻尾が生えたドラゴンアマゾンに変貌する。

エンジンブロス「龍型のアマゾン……?」

リモコンブロス「アマゾンは実在する生物を模した姿のほずですが……」

N咲夜「この幻想郷に常識は通用しないのよ……」

ドラゴンアマゾン「俺は無縁塚で部下の尊士と再会して尊士を使って君たちネオゲムムの情報をとってこさせてドライバーと溶源性の存在を知り、さらに自分がオリジナルであること、もう1体オリジナルがいることを知ったんだよ!……だがそいつはもう感染しない細胞に変化していた。」

呀「暗黒に墮ちた魔戒騎士だがな……」

暗黒騎士 呀が魔導火を纏った烈火炎装の状態で駆けつける。さらに、

エボル「つたく、置いてくんじゃねえよ」

ローグ「エボルト……」

仮面ライダーエボルまで現れてアルファオメガ達は一気に劣勢となる。

尊士「ここで私達を仕留めるつもりですか？」

アルファオメガ「そつ、そうなのか貴様らあ!!!」

魔導火に阻まれながら落ち着きがない様子の滔星が質問するが

エボル「惜しいねえ、正解は無縁塚ごと消し飛ばす……だ。おくい出番だぜえ」

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ!!!

エンジンブロス「うわっ!地震かっ!?」グラグラ

N咲夜「きゃー!!!」ピョンッ

エンジンブロス「え?つておい!降りろ!」

地震に驚きN咲夜はエンジンブロスにしがみつく。N咲夜達の後ろの地面から生えるようにペダニウムゼットンが出現する。変身しているのはもちろん

ケイ/ペダニウムゼットン「退屈させてくれた礼をしてやる!!!」

『ゼットオオオオン!!!』

プレデター「おいおいおい!!」

リモコンブロス「いつの間に……」

実は伏井出ケイは咲夜達より一足早く無縁塚に来ておりフュージョンライズして地面に隠れていたのだった。(制限時間?神に言うてくれ)

アルファオメガ「なっ!?!なんだあ!!」

尊士「ちよこぎいなマネをしますね」

トランスチームガンを構えたエボルトは滔星以上のおちやらけた態度で答える。

第25話 談笑／EVOLT

『コブラーライダーシステム！エボリューション!!』

ネオゲナムの実験室で咲夜はエボルドライバーのレバーを回してスナップライドビルダーに似た金環状の物質を生成するが

咲夜「あつ、ぐあああああ!!」バチチチチイ!!

パイプが形象崩壊を起こして変身が中断されて咲夜は地面に倒れる。

黎斗「……やはり駄目か、どうやらまだハザードレベルを上げる必要があるらしい」

咲夜「……申し訳ございません」

黎斗「気にする必要はないさ、ギルバリス、彼女の治療を」

ギルバリス『了解しました』

実験室のガラス越しに謝罪する咲夜を慰めギルバリスに治療するように指示した黎斗はコーヒーを一口飲みため息をつく。

黎斗「彼女のハザードレベルは4・5、エボルドライバーはレベル4・5を越えれば使えるように改良してある。なぜだ？なぜ変身することができない……」

魔理沙「ボトルの問題じゃねえか？」ガチャッ

実験室のドアを開けて魔理沙（エボルト）が入ってきて机に腰かける。

魔理沙「エボルボトルは俺にしか扱えない、ましてやアイツはハザードレベル5・0に達してないだろ？そりや変身できるわけないぜ。それに……」

黎斗「それに？」

魔理沙「コブラとライダーシステムは俺が完全体になるのに必要なボトルだ、アイツにはやれねえよ」スッ

魔理沙は黎斗からコーヒーを奪って飲みほし、コップを孫の手に変えて背中に当てる。

魔理沙「普通のフルボトルで代用すればいい、それなら変身できるさ……内海のように」

黎斗「内海……となるとこのボトルが必要だな」

黎斗はタブレットを操作して二本のボトルの画像を出す。それは『バットフルボトル』と『エンジンフルボトル』だった。

魔理沙「正解！で？そのボトルはこっちのパンドラボックスからのやつか？」

黎斗「いや、我々のパンドラボックスから生成されるボトルは幻想郷のベストマッチだ。君が石動惣一の記憶から作り出したボトルを生み出すことが出来るのは奴らが持つグランベル・スカーレットが作り出したダミーパンドラボックスのほうさ。」

魔理沙「なあるほど、それじゃあちやっちやと奪ってくるか」クルツ
黎斗「2つパンドラボックスが融合してできる12面体のパンドラボックスが開けば君の持つエボルトリガーに更なる進化の可能性が生まれる。だが今はそれよりもアマゾンさ」

魔理沙「お前が動けばすぐに修まるんじゃないか？」

黎斗「私は補助をするだけさ、アマゾン異変を攻略できるようになればこれから起こることを霊夢達はクリアできない」

魔理沙「優しいんだか厳しいんだか、食えない奴だなあ」

黎斗はスキマを開いてワンホールのケーキを取り出して微笑む。

黎斗「そんな人間が好きなんだろう？」ニタア

魔理沙「ああ、俺はお前の様な人間が大好きだ」ニヤア

実験室から出ようとしたのをやめた魔理沙は黎斗の横のイスに座り先ほど孫の手を二枚の皿に変える。黎斗はフォークとナイフ、ティーカップを取り出すとパチン！と指を鳴らす、するとティーカップには湯気を上げたブラックコーヒーが現れた。

黎斗「人間ではない、ただの………神だあ」

戦いが巻き起こる幻想郷での貴重な休息を二人のライダーは狂気的な話をケーキを肴にして過ごした。

正宗「黎斗お!!エボルトオ!!どこにいるううう!!ぬがあああ!!」
ブラックパラド「うるせーなあ、黙って眠れないのかよこのおっさん」

その他幹部 「「「「まただよ」「」」」」
正宗の寝言がネオゲムの幹部の生活エリアに響き渡った。

第26話 狂気／THE・WORLD

紅魔館付近

レイム「千翼！合わせなさい！！」『ダンマクモード！』

アマゾンネオ「わかった！！」『blade rooding』

オハライブレイカーから弾幕を放って地面に潜行していたミミズアマゾンの群れに衝撃を与え地面から上半身を突き出したところを片っ端からネオが斬って斬って斬りまくる。

レイム「本当にレミア達は無事なのかしら？」

レジエンドルガ軍団の襲撃から安否が不明となっていた紅魔勢が無事という情報をにとりが探食用ドローンでキャッチして霊夢と千翼とパラドが向かっていたが霧の湖付近の森はアマゾンが大量に潜伏していた。

パラドクス「おらっ！」スバアアアアン！

パラブレイガンでセミアマゾンを真つ二つにしたのを最後に襲い来るアマゾンの群れは治まった。

パラドクス「こいつらも元は人間なんだよな……」

レイム「そうだったとしても今は怪物、人を食べて業を重ねるよりも私達が介錯してあげた方がアマゾン達もすつきり成仏できるはずよ」

パラドクスは人間が変貌したアマゾンを殺していることに罪悪感を抱くが霊夢はそれを優しく慰める、だがパラドよりも千翼の方が深い罪悪感を抱いていることに気づいた。

千翼「ごめん……俺がこの世界に来なければ……関係ない人達は……みんなにも迷惑かけて……本当にごめん……」グスツ

レイム「あ、ちっ違うのよ千翼、あんたのせいじゃないわ」アセアセ

涙ぐみながら謝罪する千翼を霊夢は慌てて慰める。パラドとは違い姿は青年でも精神はまだ幼い千翼にはこの状況をポジティブに考えることができなかつた。霊夢は何とか泣き止ませようとしたときにパラドクスが

パラドクス「千翼、さっきのはお前に向けて言ったんじゃない、この状況を作り出した奴に向けて言ったんだ、リクが教えてくれたろ？千翼の細胞はもうみんなには感染しない、バグスターの俺が言うのもなんだが俺達と同じで普通なんだ。それでも不安なんだったら今の状況をゲームだと思え、過去の事をすつきりさせたいなら俺達と一緒にこのゲームをクリアしよう、それが今のお前にできる償いだ」ト
ンツ

アマゾンネオ「ありがとうパラド……俺、精一杯がんばるよ」

千翼を慰めるパラドの様子はまるで年下の弟ができたお兄さんの様だった。霊夢は微笑みながらその様子を見届けて一段落ついたあとにパラドと千翼に近寄り肩を抱きしめて三人四脚の態勢で紅魔館へ向かう。

パラドクス「なんだよ霊夢、おもたいぜ」

レイム「フツツレディにそんなこと言うなんてまだまだね」

パラドクス「なつ、うつうるさい／＼」

アマゾンネオ「アハハハッ！」

三人が進んでいると紅魔館にたどり着く、至るところが壊れているが誰かがいる気配はある。しかし

レイム「美鈴がないわね……」

本来、門番である紅美鈴に門を開けてもらおうのだがどうやらないようなのでレイムは門を開けようとする。

???「まてーい!!」

シユドドドドドドドド！カチカチカチイ!!

パラドクス「あぶねえっ!!」

ババババババ!!

氷の弾幕がレイム目掛けて降り注ぐがパラドクスがパラブレイガンなら弾丸を放って弾幕を相殺する。

レイム「ありがとパラド……つたく、あんたに襲われるのは三度目ね……チルノ!!」

チルノ「相変わらずよく避けるね！」

門の上から氷の妖精チルノが飛び降りてくる。先日、大妖精と共にレジェンドルガ軍団を率いて紅魔館を襲撃したチルノだが、大妖精が居ないことに霊夢は疑問を抱く。

レイム「大妖精はどーしたのよ？軍団ごとぶちのめされて引きこもったのかしら？」

チルノ「大ちゃんは……美鈴と相討って消えちゃったよ」

チルノはいつものように感情的にならずに答える。心に相当なショックを受けたようだった。だがすぐに明るく微笑み

チルノ「でもね！レミアアがアタイを慰めてくれたんだ！大ちゃんと美鈴はデータになっただけだって！この異変が解決すればみんな元通りだって！だからアタイはここで異変解決に向かっているレミアア達のかわりに紅魔館を守ってるんだ！」

レイム「成長してるじゃない、で？今、レミアア達は中にいるかしら？」

チルノ「さつき帰って来たばかりだよー！」

レイム「それじゃ会わせてもらおう!？」

『キヤツハツハツハ』

アマゾンネオ「またアマゾン!」『blade rooding』

パラドクス「行くぞ千翼！ゲームスタートだ!!」『ガシャコンパラブレイガン!』

霊夢達三人が紅魔館に入ろうとしたとき、湖畔の森から女王アリアマゾンが兵隊アリアマズンを引き連れて現れた。パラドクスとアマゾンネオはそれぞれ武器を装備して戦闘を開始する。

チルノ「またお前らか!」パシッ

レイム「その言い方から察するに襲撃は今回だけじゃないみたいね」

チルノ「ここ最近多いんだよね、毎回何体かを倒すと逃げてくんだけど……あの女王っぽいのは初めてみた」

レイム「だったら今回で全滅させてやりましょう、チルノ、あんたはライダーに変身できる？」

チルノ「いや、アタイはこれで充分さ!」パシッ!

青いボトルを握りしめた拳を手に打ち付け獰猛な笑いを見せるチルノにレイムは少し驚き、疑う様な声色で

レイム「あんた……ホントにアイツら追っ払ってたの？」

チルノ「あつ！疑ってるな？大丈夫よ！アタイの強さは一気に父さんだからね!!!」

レイム「んんん？一騎当千の事かなく？」

チルノ「なっ！どっちでもいいの！さっさと行くわよ！」

レイム「最後にひとつ、そのボトルはどーしたの？」

チルノ「前ににとりがくれた!!」

レイム「あいつう！自分で来てたのにわざわざ私達に来させた訳ね!!帰ったらぶちのめす!!!」ダッ！

『オハライモード！』

オハライモードで兵隊アリアマゾンのボディに一撃をいれて蹴り飛ばし同時に飛びかかってきた2体は一步下がって回避、レンチを押し下げて着地した2体の頭をエネルギーを纏った蹴りで粉碎する。

レイム「さあて誰が私を満たしてくれるのかしらあ!!!」

『マックス！ハザードオン！』『BANG BANG BANG SIMULATI
IONS』

ハザードジンジャをドライバーに装填したあとにガシヤットギアデュアルβのダイアルを『BANG BANG BANG SIMULATI
ON』に合わせてボタンを押し、その後レンチを押し下げる。

『オーバーフロー！Enemy is coming！Shot do
wn their BANG BANG SIMULATI
ON ドラア!!!』

ハザードフォームのレイムにシミュレーションゲームが被さった。シミュレーションゲームフォームにパワーアップする。レイムは全身の砲門から弾丸を放ってアマゾンをぶつ飛ばす。

レイム「ひゃっはあ!!!汚物は消毒だああ!!!」バババババ!!

パラドクス「あぶなっ!!おい！俺達を巻き込むな!!!」

レイム「爆発祭りじゃー!!!」ドガガガガ!!!

チルノ「霊夢……ストレス溜まってたんだね……」

一方、ネオは女王アリアマゾンに攻撃を仕掛けていた。飛びかかりから肩を掴んで持ち上げて地面に叩きつける。ブレードで貫こうとしたネオに女王アリアマゾンは頭痛を繰り返して生まれた隙をついてラツシュを叩き込む。

アマゾンネオ「うっ……！くそっ！」

女王アリアマゾン「キシヤア!!」

アマゾンネオ「はっ！」ゴロン!

ゲシッ!

追撃を横に転がって回避、蹴りをいれてぶっ飛んで地面に転がった女王アリアマゾンの腹部にブレードを振り下ろす。

アマゾンネオ「うおおお!!」ザシユ!!!

女王アリアマゾン「ぎしやしやしや!!」バシユウ!ドスッ!ドスッ

!アマゾンネオ「ぐあっ!うおおお!!」ザンツ!ザシユ!!!ザシユ!!!ザンツ!

二本の触手をネオに突き立てて抵抗する女王アリアマゾン。だがネオはその攻撃に怯まずにブレードでひたすら斬りつける。

女王アリアマゾン「キャツハツハツハ………」

アマゾンネオ「はあはあ……はあ」

女王アリアマゾンは力尽き、ネオは一息つくがすぐにレイム達の元に向かう。

パラドクス「やるな千翼!あとはこいつらを片付けるだけだ!!」

『デュアルガシャット!』『分身!』

『ノックアウト クリティカルフィニッシュ!』

パラドクス「「オラオラオラオラオラオラ!!」」

必殺技の発動とともに分身したパラドクスがアリアマゾン一体一体にパラブレイガンを振り下ろして撃破する。(イメージとしてはファイフティーンのデイクイドスカツシュの様な)

パラドクス「ボスは千翼に倒されちまったからな、俺は雑魚どもの討伐数で勝たせてもらうぜ」クイクイツ

パラドクスは千翼に指で挑発する。それを見た千翼は表情は変わらないが内心では満面の笑みでその誘いにのつた。

アマゾンネオ「違うよ、俺がこのまま完全勝利するんだ！」

パラドクス「いいねえ、心が躍るな!!」

二人は怒濤の勢いで兵隊アリアマゾンの群れへ飛び込む。

チルノ「はあ!!オリヤア!!」バキツ!ドゴオ!

アリアマゾン「グエツ!」

アリアマゾン「ぐぎやあ!!」

チルノ「やばっ!」

ドガアン!!

レイム「動きが鈍ってきてるわよ、バテてるんじゃない?」

チルノ「そ、そんなわけじゃないじゃない!」

強がっているが明らかに疲れが見えているチルノ、霊夢がどうするかと考えているとにとりから通信がはいる。

ピピピピピ

にとり『ハロー!霊夢く!レミリア達は見つかったかい?』

レイム「紅魔館にはついたけどアマゾン達に襲われて絶賛戦闘中よ、つてかアンター一回紅魔館来てたらしいわね?」ババババババ!

レイムはにとりと通信しながらチルノを守るように戦う。

にとり『あはは...:そんな事もあつたねえく今からチルノ用のライダーアイテムを転送するから渡してあげて』

レイム「チルノ用の?おらっ!」ドガツ!

砲身でアリアマゾンの頭部を粉碎してチルノの後ろから襲いかかる個体に砲撃を浴びせて吹き飛ばす。

にとり『チルノに説明はしてあるからさ、今から送るやつはチルノのみんなを守りたいって気持ちが一番高頂に達したときにシンクロを起こして変身可能になるんだ!ほら行くよ!』

シュイン!!

レイム「えっ?ちよつまっ!!」

小型のドラゴンとビルドドライバーが転送されてきてレイムはキヤッチしそこねるがドラゴンがビルドドライバーを啜えてチルノ

の方に飛んでゆく、

チルノ「え？」

レイム「チルノ！あんたのライダーアイテムよ！にとりから説明されてるでしょ!？」

チルノ「あれかつ！」

チルノはビルドドライバーを腰に装着して、手にもつボトル『ドラゴンフルボトル』を小型ドラゴン『クローズドラゴン』にセットしたドライバーに装填する。

『Wake up!』

『クローズドラゴン!』

レバーを回すとドライバーからスナップライドビルダーが展開された後、クローズ専用のドラゴンハーフボディ「64」を前後に生成される。

『Are you ready?』

チルノ「変身!!」

「変身!」の掛け声とともにチルノを挟み込むように結合され、その後追加ボディアーマー・ドラゴライブレイザー・フレイムエヴォリユールが上半身と頭部を覆うことで変身が完了する。

『WAKE UP BURNING! GET CROSS—Z D

RAAGON! YEAH!』

にとり『ライダーの名前は、仮面ライダー……クローズ!!』

レイム「へえくかなかかつこいいじゃない」

Cチルノは手を閉じたり開いたりしながら動作を確認したあと拳を手に打ち付ける。

Cチルノ「今のアタイは、負ける気がしねえ!!」

レバーを回してクローズドラゴン・ブレイズを背後に出現させるCチルノ、さらに自身の能力でリアマゾン達の足元を凍らせて拘束する。

Cチルノ「ウオオオオオ!!」

『Ready go!』

『ドラゴニックファイニッシュ!!』

Cチルノ「オオオオリアアアアア!!」

背後に出現したクロースドラゴン・ブレイズの吐き出した炎に乗って蒼炎を纏った右脚でのボレーキックが逃げることでできないアマゾン達に襲いかかる。

—紅魔館から少し離れた小高い丘—

エボル「さて、本番だ咲夜」ヒョイツ

エボルドライバーを投げ渡された咲夜はなんの躊躇いもなく腰に装着して藍色と灰色のフルボトルを取り出して振る。

『エボルドライバー!』

カシヤカシヤカシヤカシヤ!カシヤン!!

『メイド!ナイフ!エボルマツチ!!』

ボトルのキャップを前に合わせドライバーに装填、レバーを回す

咲夜「くっ!うああああつ!!があ!!ぐあああああ!!」

藍色と灰色の煙が咲夜を包み込んだあと体に吸収される。

咲夜は苦しみながらもレバーをまわしつづけると咲夜の腰のドライバーを中心にトランジエルソリッドのチューブが天狗巢状に広がる。

『Are you ready?』

咲夜「変身!!」

『メイドナイフ!フツハハハハハ!!』

咲夜の顔に禍々しく血管が浮かび上がったあとに「変身」の掛け声と共にチューブが身体に巻き付き変身が完了した。

咲夜? 「はあ……はあはあ」

変身した咲夜は手で自分の顔に触れて変身したことを実感する。

エボル「さあ、存分に戦えい!仮面ライダーマッドサクヤ!!!」

マッドサクヤは紅魔館の方を向いて狂ったような笑いをあげる。

マッドサクヤ「ハツハツハ……ハツハツハツハ!フハハハハ!ハア!ハツハツハツ!!」

小高い丘から紅魔館に向けてマッドサクヤは飛び立った。

第27話 要塞／REVOL

エボル「行ったか……さて、俺もやることやろうかね」スツ
『分身！』

エナジーアイテムを使用して分身したエボルはそれぞれ博麗神社、守矢神社、にとりのラボに向かう。エボル達はそれぞれの場所に僅か数分で到着するがその光景に啞然とする。

エボル「「なっ!?!」」

博麗神社、守矢神社、にとりラボがあつた場所はクレーターになっていた。まるで建物が抉りとられたように。

紅魔館前

『パーフェクトノックアウト クリティカルボンバー!!!』

パラドクス「はああああ！おりやあああ!!!」ドガアアア!!!

エネルギーを纏った両足キックでアリアマゾン一体を蹴り飛ばし他の数体を巻き込んで撃破する。

パラドクス「これで57体目!どうだ千翼!!」

パラドクスの横にモニターが表示されてそこに討伐数が映し出される。パラドクスは勝ち誇つたように千翼の方を見るが。

アマゾンネオ「俺も57体目だ!」

パラドクス「おいおい、マジかよ……」

同じ数値ということを知り少しガツカリするが千翼の楽しそうな姿を見てパラドは仮面の下で微笑む。

レイム「アンタ達なにやってんのよ?」

Cチルノ「こっちは片付いたよ!やっぱりアタイったら最強ね!」
通常形態に戻ったレイムとCチルノのがやってくる。兵隊アリアマゾンはライダー達の活躍により全滅した。

アマゾンネオ「パラドとどっちが多く倒せるか勝負してただけど」

パラドクス「同点で終わっちゃったんだよ」

レイム「まだまだアマゾンはいるだろうから勝負は一旦持ち越し

ね」

Cチルノ「三人ともく中に入るぞく」

門が開き変身を解いた四人が中に入ろうとした矢先

ドガアアアン!!ドガアアア!!ドドオオオオン!!!

四人「「「?」「」」

森から轟音が響き徐々に爆発が近づいてくる。紅魔館の橋の前の林から爆煙巻き起こりボロボロのミスティアが煙の中から飛んでくる。

ドツ!ゴロゴロ!!

チルノ「ミスチー!!」

四人がかけよりチルノがミスティアを抱き上げる。

チルノ「なにがあつたの!?!何にやられた?!」

チルノの問いかけのミスティアは消え入りそうな声で答える。

ミスティア「きつ……切れた……ナイ……フ……」ガクッ

チルノ「ミスチー?ミスチー!ねえ起きてよ!!死んじやだよミスチー!!!」

ペシンツ!

霊夢「氣を失っただけよ、あんたはミスティアを中に運びなさい」

チルノ「そーだったのか!よかつたあ!!」ダキツタツタツタツ

ミスティアを運んで行ったのを見届けた三人は爆煙の方を見つめる。すると煙の中からエプロンを巻いてナイフのような装飾を纏った仮面ライダーが現れる。

パラド「なんだ……あいつ」

千翼「アマゾン……じゃないみたいだけど」

霊夢「とりあえずまともな奴じゃないことは確かね」

三人の言葉を聞いて現れたライダーは嘲笑するような仕草で答える。

マッドサクヤ「フツツ、ひつどいこと言うじゃない」

霊夢「その声……咲夜ね?だいぶ見た目が変わったじゃない。衣替えかしら?」

バキユン!!

マッドサクヤは左手に持つトランスチームガンの弾丸で霊夢の頬をかすめる。

マッドサクヤ「ハハハハハッ！面白いこと言うわねえ！でもざあんねん♪私の目的はくあ　な　た　の　ボ　ト　ル♪キャハハハッ！」
狂ったように笑うマッドサクヤをよそに霊夢達三人はそれぞれの変身アイテムをとりだす。

霊夢「少し見ない間にいろいろと残念になったわね」

『ハクレイゼリーー！』

パラド「なあ千翼、こいつを倒したら勝ちにしないか？」

『デュアルガシヤット！』

千翼「えっ？ああ、そうしようか」カチャ、キューン

『NEO』

霊夢／パラド「(マックス大)変身っ！」

千翼「アマゾン!!」

ドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドド!!!

右手にもつネビュラスチームガンと左手のトランスチームガンから大量の弾幕が放たれて爆煙が三人を包み込む。マッドサクヤはこれで倒したとは思わず構えていると、案の定、変身完了した三人がマッドサクヤに向かって走ってきた。

レイム「はああああ!!」

『ハクレイ　イン　レイム！ブラア!!』

パラドクス「おおおお!!」

『パーフェクトノックアウト!!』

アマゾンネオ「ウオオオオオ!!」

マッドサクヤ「アハッ！美しく芸術的に息の根を止めてあげるわあ

!!!

レイム「おりやあああ!!!」ギューーン!!

マッドサクヤ「キャッ！」クルツ

レイムの攻撃を回避して背後に周りネビュラスチームガンを連射する。

バキyunバキyunバキyunバキyun!!

レイム「がはあっ!!」

マッドサクヤ「はあ!せやつ!!」バシッ!

後ろ蹴りでレイムを転がしパラドクスが振り下ろした攻撃をネビュラスチームガンの銃身で受け止め、トランスチームガンをパラドクスの腹部に押し付けるがパラドクスの後ろからきたネオのブレードがマッドサクヤの腹部をとらえた。

アマゾンネオ「甘いよっ!!」ザンツ!

マッドサクヤ「うっ!………なあんてね♪」バババン!ガキイン!

パラドクス「ぐっ!」

アマゾンネオ「うわっ!!」

トランスチームガンの引き金を引いてパラドクスにゼロ距離射撃を放ち、パラドクスが離れたおかげでパラブレイガンを抑える必要がなくなったネビュラスチームガンでネオを殴る。

『シングル!ツイン!ツインバースト!!』

レイム「だりやああああ!!」ギュルルルルルルル!!!

マッドサクヤ「はいはい♪」クルツブンツ!

ツインバーストで突き出されたレイム左腕を掴んでパラドクス達のところを放り投げる。

レイム「あああつ!!くそっ!!!」

アマゾンネオ「こいつ、前より強い!」

パラドクス「諦めるな!合体技だ!!」

パラドクスはレバーを開閉、レイムはレンチを押し下げ、アマゾンネオはインジエクターを押し込み、ブレードの強化を右脚にまわす。

『スクラップバニッシュ!』

『パーフェクトノックアウト クリテイカルボンバー!!』

『AMAZON・BREAK』

三人は飛び上がり、トリプルライダーキックを放つ。マッドサクヤはネビュラスチームガンとトランスチームガンを投げ捨て、両手を広げて蹴りを受ける体勢をとる。

レイム/パラドクス/アマゾンネオ「「はああああああ!!!」」

マッドサクヤ「来なさい!!……………なんちやつて♪幻世『ザ・ワールド』♪」カチツカチツカチツドゥーン

トリプルライダーキックが直撃する瞬間にマッドサクヤは時を止めて、歌を口ずさみながらエボルドライバーのレバーを回す。

マッドサクヤ「時間の波を掴まえて今すぐに行くこう約束の場所♪」

『Ready go!』

マッドサクヤの周りに銀色のナイフ状のエネルギーが出現して右脚に収束する。

『エボルテックアタック!!チャオ!』

回し蹴りで三人を蹴り飛ばしてマッドサクヤは時間停止を解除する。

三人「「うわああああああ!!」」

ドガアアアン!!

三人は変身解除され、霊夢はその衝撃でミコとジンジャのフルボトルを落としてしまい、マッドサクヤはすかさずそれを拾いあげる。

霊夢「くっ、返さない……」

マッドサクヤ「嫌よ、これから消える奴に必要なじゃない♪」

霊夢「嘘でしょ……」

マッドサクヤはレバーを回して再度必殺技を発動させようとする。エネルギーがチャージしそうになった瞬間、紅魔館から4本の紅い魔力の柱が天にそびえる。

ドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドド!!

霊夢「なっ!?!」

Bにとり「おーい!霊夢くパラドく千翼く!!」

霊夢「にとり!助かったわってええええええええええええ!?!」

にとりの声が聞こえてきた空を見ると博麗神社と守矢神社、さらににとりのラボが空に浮かんできていた。ラボにはBにとりが乗っており霊夢達の前に飛び降りる。

Bにとり「よつと!これ以上はさせないよ?咲夜?」

マッドサクヤ「にとりつたらすごいわね!ウルトラマン達も来てる

ようだし、今回はお暇させてもらおうわ♪バイバアーイ」ブシュー
ネビユラスチームガンから煙を放出してマッドサクヤは退散する。
霊夢は立ち上がりBにとりに質問する。

霊夢「助かったわ、ところであればどーゆーことかしら？」

Bにとり「私達の拠点を紅魔館と合体させようと思ってるね、博麗神社の御神体も狙われそうだし合体しといて損はないさ！もちろん異変が解決したらもどすよ！ちなみにあの魔力の柱はレミリア達を作り出してるんだよ」

承太郎「まったくめんどうなつた」トツ

慧音「にとり、そろそろ始めるぞ」トツ

博麗神社、守矢神社から承太郎と慧音が降りてくる。

Bにとり「そうだね！おーい！リツ君！ゼロ！おねがーい!!!」

リク「待つてました！」

ゼロ「俺達に任せろ！」

二人はラボから飛び降りてそれぞれの変身アイテムを使用する。

ゼロ「でやっ!!」

リク「ヒアウイーゴー!!」

『ウルトラマンジードープリミティブ!!!』

ドドドオオオオオオオオン!!!

ジード「セヤツ!!」

ゼロ「ウルトラバリア!!!」

ジードとゼロが融合を開始した建物達をバリアで覆う。

Bにとり「魔力が周りに漏れないようにウルトラマン達に結界を張ってもらった。融合は2分くらいですむと思うよ、すごいでしょ？最高でしょ？天才でしょ？」

仮面の上からでもわかるにとりのどや顔に霊夢はあきれつつも融合が終わるのを待つのだった。

妖怪の山

Zエイラ「周囲の状況はどうだ？」

ボンバーウルゴス「近くにいた虫どもは皆殺しにしてやったぜ!!」
シグナルウルゴス「……全滅」

Zエイラ「上出来だ……行くぞ」

守矢神社が消失した妖怪の山の地下に異常なエネルギーの存在があることを知ったZエイラはウルゴス達とガーディアン、黒影トルーパー部隊を引き連れて調査に来ていた。

???「待ってくれ、君達に少し聞きたいことがあるんだが」

地下へ続く洞穴に入る瞬間、Zエイラ達はスーツを来た鋭い眼光の男に呼び止められる。(イメージは反町隆史)

Zエイラ「なぜまだ人間がいる」

ボンバーウルゴス「てめえ!どこから入りやがった!!」

ボンバーウルゴスが男をつまみ出そうとするが男はそれを手で制する。

???「私は質問をしただけだ」

Zエイラ「……何を聞きたい?」

???「これと同じ物を持っている奴を知らないか?」カチャ

男はエボルドライバーを見せる。Zエイラ達は驚愕し、すぐさま戦闘態勢に移る。

Zエイラ「エボルドライバー……貴様!何者だ!?!」

???「やれやれ……質問に質問で返すなど教わらなかつたのか?まあいい、力付くで聞き出すとしよう」

『エボルドライバー!』

『オーバー・ザ・エボリューション!』

男はエボルドライバーを装着して、エボルトリガーを起動、ドライバーにセットする。さらに白いエボルボトルとライダーシステムエボルボトルをとりだしてドライバーに装填する。

『ラーテラーライダーシステム!レボリューション!!』

???「私の名はレボルト……そして、」

レバーを回すことで男の周囲に3つの銀色の環状のフレームが出現し、回転しながら頭上・ベルト付近・足元に留まると同時に、無数のキューブが出現する。

『Are you ready?』

レボルト「変身……」

―ネオゲムムコーポレーション社長室―

黎斗「なに？ 兄がこの幻想郷に来ている？」

黎斗の質問にエボルは気だるそうにソファに座ったまま答える。

エボル「ああ、アイツは一族の中でもピカイチでなあ、完全体のスベックは計り知れなかったよ」

黎斗「それで？ そのお兄さんの名前は？」

エボルは一旦、間をおいて答える。

エボル「レボルト、またの名を仮面ライダー………レボル」

―妖怪の山―

『ブラックホール！ブラックホール！ブラックホール！レボリューション！！フハハハハハ！！』

レボルトの「変身！」の掛け声とともに無数のキューブがレボルトを覆うように組み合わさりひとつの直方体を形成。直方体は回転しながら縮小・消滅し、直方体が存在していた場所に白いエネルギーとともに変身が完了したレボルトが出現する。

レボル「仮面ライダーレボル、降臨」(c.v.;大塚明夫)

乙エイラ「なっ!? 全員、死ぬ覚悟でかかれ!」

ボンバーウルゴス「やってやらあ!!」ガシッ!

シグナルウルゴス「……排除」

「「「オオオオオオオ!!」」」

乙エイラの指示でウルゴス達を筆頭にガーディアン、トルーパー部隊がレボルに襲いかかる。

レボル「ふっ……」クイツ

レボルが手を軽くスナップした瞬間、妖怪の山の麓に大爆発が起こった。

第28話 覚醒／ARMORE ZONE

霊夢「ははははは……こりやまたすつこい」
にとり「でしよ？」

紅魔館、博麗神社、守矢神社、にとりのラボの融合がすんだあと、バリアが解かれて現れた建物に霊夢は唾然としていた。全体的に面積が増した紅魔館の外壁に砲台がつき、庭園内には、砲台がついた建物、格納庫、ミサイルポット、メーサー砲、対空砲などその他もろもろの兵器たちがあり、その中心に時計台の右に博麗神社、左に守矢神社が増設された要塞化した紅魔館の本館がある。

にとり「名付けて、『幻想要塞』!!」

霊夢「やりすぎでしよ……これ」

慧音「まあ気にすることないさ、備えあれば憂いなしって言うだろう？」

承太郎「何に備えてるかが問題だな……」

四人が話していると変身を解いたリクとゼロがこちらに歩いてくる。

リク「はあく疲れた〜」

ゼロ「つたく人使いが粗いぜ、このカッパは」ピシッ

にとり「いたっ！デコピンしなくたっていいじゃないか〜」

チルノ「おおい！早く来てくれ〜レミリア達がひっくり返ってるんだ〜」

慧音「魔力を使い果たしたんだろう、はやく行くぞ」

霊夢「そうね、承太郎、そこでのびてる二人を運んでって」

承太郎「まったく、やれやれだぜ、スタープラチナ」

スタープラチナ『オオウ！』ガシツガシツ

霊夢達はレミリア達の介抱のために一足先に中へ、承太郎はスタープラチナで気絶しているパラドと千翼を抱えて幻想要塞の中へ入って行く。その様子を森の中から見ている者がいた。

滔星「すっばらしい、あの要塞を奪って俺の拠点にしてやろう……尊士！アマゾンどもを集めるぞ、今夜、奴らが寝静まったあとに

襲撃するんだ!!」

尊士「かしこまりました……」スウ

滔星をつれて尊士は森からその気配を消した。

―妖怪の山の麓―

エボル「あちやく遅かったか」

博麗神社からエボルの本体が駆けつけるとそこにはバラバラに粉砕されたガーディアン、ドライバーを破壊され戦闘不能になっている黒影トルーパー達、気を失った鷲尾 創 滅、そしてレボルに首を掴まれ持ち上げられているZエイラの姿があった。

Zエイラ「うぐっ……ああ……」

レボル「そろそろ口を割る気になつたかな？」

Zエイラ「ぐっ……誰が……貴様なんぞに！」

レボル「はあ……残念だよ」

エボルドライバーのレバーを回して必殺技のエネルギーを右拳にチャージするレボル、暗黒のエネルギーを纏った拳が放たれようとする瞬間、

ガシツ

レボル「ん？」

エボルが拳を突きだす前に腕を掴んで止め、Zエイラを引つ張りレボルから解放する。

エボル「そこまでだ、レボルト」グイッ

『Ready go! エボルテックフィニッシュ! チャオ!!』

エボル「うらあ!!」ドガアアア!!

レボル「ぬうつ!! はっ!」ズザア!!

レボルはエボルテックフィニッシュを両手を交差して受け止め、数メートル後ろ下がったあとそのエネルギーを分散させる。

レボル「兄を呼び捨てにする生意気さは健在のようだな、エボルト」

エボル「……やっぱ効かねえか」

シュウウン

レボルは瞬間移動でエボルの隣に現れ、肩に手を置く。

レボル「フェーズ1で挑んでくるなんて素晴らしい自信じゃない

か、成長したな」

エボル「相変わらず嫌みつたらしいやつだ……………」

レボル「ふっ、久々の家族の再開だ、楽しく過ごそうじゃないか、さっそくお前が居候してるところに案内してくれ」

ネオゲナムのところへ案内させようとするレボルにため息を吐きながら肩を落とすエボル。

エボル「その前にコイツらを何とかさせてくれ……………」ハアアアア

エボルは鷲尾兄弟、エイラ、トルーパーの変身者をネオゲナムに転送したあとにレボルをネオゲナムへ案内すんだった。

夜 幻想要塞

にとり「続きまして〜エントリーナンバー三番！空条 承太郎!!はりきってどうぞ!!」

霊夢達は要塞完成祝いに宴会を開催していた。(新たに作られた宴会場で)

承太郎「……………火のついたタバコを5本口に入れて、火を消さずにジュースを飲む」

一同「ギャハハハハハハハ!!」

承太郎の妙技が炸裂して会場が大いに沸く、そのなかには昼間ぶつ倒れていたレミア達もいた。

レミア「うう〜気絶あけの宴会は辛いわ……………」

霊夢「なあに言ってるのよ!もうワイン5本は飲んでんじやない!」

レミア「こんくらいは朝飯前よ……………」

フラン「もう夜だけどねえ!ミスチー!!ウナギ追加で〜!!」

キバット『ほらほら!お前達ものめーい!!!』

サガーク『／；＋／＋∞∞≡≡\$—・8』

キバーラ『無理しちや駄目よ?あつ、ウナギくださいー!』

チルノ「こっちも〜!!!」

ミスティア「はああい」

早苗「ミスティアさん、私も手伝いますよ」

大量の注文で大変そうなミスティアを手伝いに早苗が動く、一方、パラドと千翼はパチュリーとその他を交えてゲームをしていた。(なぜゲームがあるかはなんて聞かないでください)

ゼロ「ああ〜!!!また負けたっ!!!」

リク「ゼロの攻撃はわかりやすいんだよ」

パラド「隙ありいー!」

リク「あっ!しまった!!」

千翼「俺なんて開幕にパラドかパチュリーに負けまくってるんだよね」

パラド「ゲームで手加減なんてしないぜ?さあパチュリー、決着だ!!」

パチュリー「望むところ」

某乱闘ゲームで盛り上がるのを見ながら慧音は酒をがぶ飲みしていた。

慧音「まつひやくあひつりやはゲームばかりひやがつへえ」

承太郎「ひでえ酔い方だ、飲み過ぎだぜ」

小悪魔「水を飲みなさい」

慧音「んっ」グイー

泥酔に突入しそうな慧音に呆れる承太郎と小悪魔、慧音は水を飲み干すと倒れてそのまま寝息をたて始める。

霊夢「こんくらいで酔いつぶれるなんて残念ね〜」

承太郎「残念なのはお前もだぜ、霊夢」

一升瓶を持って近づいてきた霊夢が慧音の頬を軽くはたく。

にとり「はいはい!今からレミリアとイツキ飲み対決しまあーす!」

レミリア「えっ!?!ちよっ!やらないわよ」

にとり「おやおやおあ?びびってるんですかあ?吸血鬼ともあろうお方が?」

にとりの挑発にカチンと来たレミリアは帽子を投げ捨て一升瓶を片手に立ち上がる。

レミリア「そこまで言うならやつてやろうじゃない!!私の飲みつぶ

りを見て腰抜かすんじゃないわよ!!」

フラン「お姉さまったらチョロイ」

霊夢「私も混ぜなさああい!!!」

霊夢はその場に駆け寄って対決に乱入する。

ミスティア「みなさーん! ウナギできましたよ〜!!!」

早苗「ついでにほかのおつまみも作ってきましたあ!!」

一同「ヒヤッホーイ!!」

承太郎「やれやれだぜ……スタープラチナ!!」

スタープラチナ『オラア!!』

やれやれと言いつつ承太郎もおつまみに本気で飛び付いた。

数時間後、みんなが寝静まったあとに千翼は要塞の門の横の出口から出ようとしていた。

にとり「待ちなよ」

千翼「にとり……」

にとり「この先の無縁塚跡地に大量のアマゾン反応があった、あんだ……そこにいる黒幕と決着をつけるつもりだね?」

千翼「そうだよ、パラドは俺のせいじゃないって言ってくれたけどこの異変の原因は俺と同じオリジナルのせいだ、だから俺が決着をつけないといけないんだ!!」

千翼の決意を無言で聞き届けるにとり

千翼「止めるつもりなら俺は容赦しないよ、」

にとり「んにゃあ、止めるつもりはないさ……コイツらを使っけらうと思っただけさ」ポチ

にとりがボタンを押すとジャングレイダーが二台、無人で走ってきた。

にとり「あんたの記憶を解析したときに得たデータで作ったんだ、足代わりにつかってくれよ」

千翼「ありがとう……でも、なんで二台も?」

???『それは私が使うからだ』

声がしたほうを向くとにとりの後ろから、頭部がフェイスガードで

保護されている特徴を持ち、色と頭部以外はアマゾンネオとよく似た外見をしていて、特徴的なレジスターと千翼と同じネオアマゾンズドライバーを装着したアマゾンが現れる。

にとり「仮面ライダーアマゾンネオアルファ……前に無縁塚に落ちた腕輪に残ってた記録と千翼のドライバーのデータから作ったホムンクルスだよ、こいつがあんたの助っ人さ」

アマゾンアルファ『君の過去は聞かない、私はそういうルールだから』

千翼「にとり……ほんとにありがとう、」

にとりの心遣いに涙流す千翼だったがすぐにキツとした表情に切り替えてジャングレイダーにまたがる。

千翼「にとり、みんなに伝えてくれ、この数日間ほんとに楽しかったって、ありがとうって」

にとり「それはあんたが帰ってきたら自分で言いなよ、ほら行っくらっしやい」

千翼「そうだね……行ってきます!!」

ブウウウウウウウウウウウウウウウ!!

にとり「さて、ネオアルファに危なくなったら信号を送るように設定したからいいとして……霊夢達をどうやって誤魔化そかな」

千翼とネオアルファはジャングレイダーを駆り、無縁塚へと向かった、全ての因縁に決着をつけるために

— 幻想要塞付近の森 —

アマゾンアルファ「千翼は行ったか……んじゃ俺達も動き始めるかねえ」

アマゾンオメガ「仁さんってほんとに素直じゃないですよね」

アマゾンアルファ「うっせ! さっさと行くぞ!」

アマゾンオメガ「ははっ、はい!」

二人のアマゾンライダーもジャングレイダーに乗って無縁塚へと向かっていった。

第29話 輪廻／DIE SET DOWN

千翼とネオアルファはジャングレイダーで夜道を駆っていた。目的の地はアマゾン異変を引き起こした黒幕がいると思われる無縁塚だ。ネオアルファ『千翼、数メートル先にアマゾン反応を2つ確認した、どうする?』

千翼「一気に突破する!!」カチャ、カシューン

『NEO』

千翼「アマゾンツ!!」

ドライバーにインジェクターを挿してアマゾンネオに変身して速度を上げる、二人のネオのまえにサメアマゾンとバッファローアマゾンが立ち塞がった。

サメアマゾン「シヨオオオ!!」

バッファローアマゾン「ぶおおお!!」

ヴウン!ヴウン!ヴウンヴウン!!!

ジャングレイダーで突進して2体のアマゾンを粉碎する。しばらく進むと剥き出しになった無縁塚の地面に大量のアマゾンがおりその中心には滔星と尊士がいた。滔星は千翼達に気づき

滔星「あれは…千翼か…尊士、片付けさせろ」

尊士「はあっ!!」

尊士が念力でジャングレイダーからネオとネオアルファを引きずり下ろし、アマゾン達に指示をだして襲いかからせた。

アマゾンネオ「うおおお!!」カシューン

『blade roodinn』

へビアマゾン「ぎやひっ!!」

アマゾンネオブレードで襲ってくるアマゾン達を切り伏せて滔星の下へ向かおとするがクモアマゾンの射出した糸がネオの足を捕らえ、横転したところにウミへビアマゾン、トンボアマゾン、ヒビアマゾンが飛びかかる。

ネオアルファ『させんよ』カシューン

ドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドドド!!!

ネオアルファが腕に装備したスニープガン（毎分6600発のアマゾン細胞弾を発射するガトリングガン）でネオに飛びかかったアマゾン撃ち殺す。

ネオアルファ『君は死なせない、それが私のルールだから』ギューイイイイイイイン!!

スニープソーでアマゾン達を惨殺してアマゾンネオの道を作るネオアルファ

ブウン!ブウン!!ブウウウウウウウウウウウウウウウウウウウ!!キー!!

ネオ/ネオアルファ「『!?』」

振り向くとそこにはネオ達と同様にジャングレイダーに乗ってきたアルファとオメガがいた。

アマゾンネオ「父さん……」

アルファはバイクから下りてネオに向かって歩いてくる。そして拳を振りかぶった。

ブシヤアアアアア!!

カメレオンアマゾン「カツ……!?」

姿を消してネオに襲いかかろうとしたカメレオンアマゾンの頭部を砕いて、手に付着した黒い液体をはらう。そして父が自分を助けた事に驚いて啞然としているネオに向かって。

アルファ「何ぼくつとしてんだ、さっさとコイツら片付けるぞ」ポンツアマゾンネオ「え?え?」

オメガ「仁さんは君の細胞が感染しなくなってるってことを知ってるんだよ。まあ正直じゃないからそれを言えてないけど」

アルファ「悠っ!!余計なこと言ってるな!!千翼もはやくこい!」アルファはネオアルファの横に立ち、話しかける。

アルファ「なんの気紛れだ御堂?お前が人の為に動くなんて」ネオアルファ『それはこのレジスターに記録された私の過去の名前だ、今の私はネオアルファ……ただの生体兵器だよ……:鷹山さん』

アルファ「まっ、そういうことにしとくか」

オメガとネオも二人に追い付き、すると途絶えていたアマゾン軍団が再びこちらに向かってきた。

アマゾンネオ「まだこんなに……」

ネオアルファ『一匹残らず排除する』

オメガ「仁さん……」

アルファ「わかってるよ、おい！メガヘクス!!」

メガヘクス『了解した、アマゾンアルファ、アマゾンオメガのアツブグレード及びシグマの転送を開始する。』

『高速化！マッスル化！ジャンプ強化！』

『NEW OMEGA』

『SIGMA』

三種のエナジーアイテムがアルファとオメガの身体に入っていく、アルファは白かった目が鮮やかな緑色になり、オメガは機械的な装甲が上半身を包み込んだニューオメガにかわる。そしてアマゾンシグマも転送が完了した。五人のアマゾンはネオアルファ、ネオ、アルファ、ニューオメガ、シグマというふうに並び立つ。そして何を考えたかアルファが

アルファ「帰ってきたら伝説のヒモ！アマゾンアルファ!!」

ネオ「えっえーと、溶源性細胞！アマゾンネオ！」

ニューオメガ「狩りたいものは狩る！アマゾンニューオメガ!!」

シグマ「お前達は五手で詰む：アマゾンシグマ」

ネオアルファ『アルファを超えた、アマゾンネオアルファ』

アルファ「目を背けるほどのバイオレンス!!怪物戦隊!!」

アルファ／ネオアルファ／ニューオメガ／ネオ／シグマ「『『アマゾンスズ!!!』』」

ドドオオオオオオオン!!!

五人の名乗りを襲いかかってきたアマゾン軍団は、???と首をかしげ、滔星は爆笑、尊士は無言で五人を見ていた。

ネオ「父さん！恥ずかしいよ！」

ニューオメガ「仁さん!!いい年こいてなにを!?!」

アルファ「うるせえ！昔の血が騒いだんだよ!!ってかお前もノリノ

りだったろうが!!」

ネオアルファ『鷹山さん、あなたは研究員だっただろう……』

シグマ「少し…派手すぎたか……」

アルファ「いいからさっさと終わらせるぞ!」

五人のアマゾンズがアマゾン軍団の激突し、次々に仕留めていく、怒涛の勢いは圧倒的物量差をもものとしなかった

滔星「尊士! お前も行け! ホラーアマゾンも連れて奴らを殺せ!!」

尊士「かしこまりました。」

尊士は魔導ホラー態に変身し、ホラーをとりつかせたカタツムリホラーアマゾン、ペンギンホラーアマゾン、バイソンホラーアマゾン、アブホラーアマゾン、ノコギリエイホラーアマゾン、カメモシホラーアマゾン、チューリップホラーアマゾンが駆け出していく、だがその瞬間

ザシュ! ザザザザツ! ズバ! ザシュ!

ホラーアマゾン「ぎゅえああああ!!」バシユウ

滔星「なにい!」

突然、暗黒騎士 呀が現れ、高速移動でホラーアマゾン達を仕留めてしまった。

呀「この戦いにホラーは不要だ! 尊士はもらっていくぞ!!」

尊士「つ!!」

剣を地面に突き刺して現れた無数の茨が呀と尊士を包み込み、消え去ってしまう。

滔星「尊士いいいいいい!!!」

滔星は絶叫するがいくら叫んだところで状況は変わらない。

滔星「くそおつ! こうなったら俺がこの手でアイツらを始末してやる!」ギューン

『ALPHA……OMEGA……』

滔星「アアマゾンツ!!」

『BLOOD AND EVOL WILDEVOLUTION』

アルファオメガ「うおおおおおおおおお!!」

アルファオメガへと変身した滔星は自分の進行方向にいる配下の

アマゾン達をズタズタに引き裂きながらアマゾンの元へ進撃を開始した。

第30話 最期ノ審判／EAT KILL ALL

クモアマゾン「シャシャシャー!!!」

アルファ「おっ、よつと」バシユゲシツ!

突進してくるクモアマゾンを避けて蹴とばして転倒させ乗り掛かるアルファ

アルファ「じゃあな……」ドシユウ!!

手刀でクモアマゾンの身体からコアを抉りだしたアルファは汚い物を感じる感じで握りつぶした。

アルファ「気持ち悪っ」

コウモリアマゾン「がああああ!!」

アルファ「うわつと!あぶねえな」ゴロン

飛行して攻撃してくるコウモリアマゾンを横に転がって回避するアルファ、コウモリアマゾンは旋回してアルファへ向かうがニューオメガが飛びかかってコウモリアマゾンを地面に叩きつける。

ニューオメガ「うおおおお!!」ググググ:ズシヤア!!

コウモリアマゾンの翼を両足で押さえつけたまま胴体を投げ飛ばして翼を引きちぎる。

コウモリアマゾン「ぎゃあああああ!!!」

ニューオメガ「ア”ア”ア”ア”ア!!!ウガア!!!」ヒューン

グシヤア!!

コウモリアマゾンの頭部を踏み潰してニューオメガは雄叫びをあげ、次の標的に狙いを定める。

ネオ「はあっ!!」

ネオはヒョウアマゾンの攻撃をくらいながらもデタラメに攻撃して圧していた。ヒョウアマゾンはネオの脚を掴んで上に放り、落ちてきたところを殴りつける。

ネオ「ぐあっ!!」ゴロゴロ

ヒョウアマゾン「グアアア!!」

ヒョウアマゾンの追撃をいなして隙を作りインジエクターを押し

込んでアマゾンネオブレードを装備する。ブレードでヒョウアマゾンに斬撃を浴びせて突きを繰り返すがヒョウアマゾンはブレードを掴み猛攻を止める。

ネオ「うおおおおおおお!!」ググググ

ヒョウアマゾン「ギッ!ギャ……」

ブシャアアアア!!

ヒョウアマゾン「ぎゃああああ!!」

力任せにブレードを振り抜きヒョウアマゾンの腕を撥ね飛ばす。

ネオ「はあああああ!!」

ザシユザシユザシユザシユザシユ!!!

腕を撥ね飛ばされた痛みで我を失ったヒョウアマゾンをブレードでズタズタに切り裂き、トドメにコアを貫いて仕留めた。ネオは次にクワガタアマゾンに狙いを定めて襲いかかる。

ネオアルファとシグマはニューオメガ、ネオ、アルファの三人を越える勢いでアマゾン達を殲滅していた。

シグマ「3っ!」ドシユウ

ゴリラアマゾン「ガッ!」

シグマ「しまった……一手早すぎたか……」

ゴリラアマゾンの腹から腕を引き抜き近くにいたトラアマゾンの顔面に肘打ちを叩き込み怯んだところをアームカッターで首もとを切り裂いて絶命させる。さらに怯えて逃げだしたモズアマゾン（雛鳥）とゾウムシアアマゾンの前に回り込みゾウムシアアマゾンの脚をローキックで粉碎し、モズアマゾンは首を掴んでネオアルファに投げ飛ばした。

シグマ「おい……新米……」ブウン!

ズバアアアアア!!!

ネオアルファ『その呼び方はやめてもらいたいな』

シグマはゾウムシアアマゾンの頭を踏み潰し、ネオアルファはスイープソーで飛んで来たモズアマゾンを真っ二つに切断して反論する、そのままスイープガンで周りにいるアマゾン達を撃ち殺す。

バツファローアマゾン「ぶふおおおおお!!」

サメアマゾン「シヤアアアア!!」

ネオアルファ『生き残りがいたか……ふんっ』

サメアマゾンが地面を泳ぐように突進してきたのをいなしてシグマに押し付けネオアルファはバツファローアマゾンと対峙する。

シグマ「お前は……」ガシッ

サメアマゾンの頭部を掴み動きを封じる。

シグマ「3手で詰む」

サメアマゾン「ぐきやつ!」

シグマ「1、」

頭部を引っ張ってバランスを崩し後ろに回り込む

シグマ「2、」ズバアアアアン!!

強烈なローキックでサメアマゾンの両足の膝から下を粉碎して地面に倒れさせて取り押さえ

シグマ「3………詰みだ」

グシヤア!!!

頭部を力ずくで引きちぎられてサメアマゾンは絶命する。シグマはサメアマゾンの亡骸に腰かけながら戦闘が終わってないネオアルファに声をかける。

シグマ「ふう、遅くないか?新入り」

ネオアルファ『私は堅実なんだよ』ゲシッ!バゴオン!!

バツファローアマゾンの胸部に左足で蹴りを叩き込んで飛び上がり左足を軸にして放つ後ろ回り蹴りで頭部を粉碎する。

ネオアルファ『さて、ここら一体のアマゾンは一掃したわけだが』

シグマ「あまり倒した気がしないんだが……」

アルファ「尺の都合だ」

ニューオメガ「ちよつと仁さん!」

ネオ「メタイよ父さん……」

アマゾン達をあらかた片付けたアルファ達も合流し話し合っているとアルファオメガが雄叫びをあげながら一行の前に現れた。

アルファオメガ「ウオオオオオオオオオオオオオオオオオオ!!!」

シグマ「ラスボスみずから出向いてくるとは……」

アルファ「RPGじゃ絶対に有り得ないやつだな」

ニューオメガ「じ……自由すぎる」

アルファオメガ「俺の計画の邪魔ばかりしやがってえええええ!!」
バシユ!

アルファオメガはニューオメガに接近して足払いで転倒させ腹部に膝蹴りを叩き込み吹き飛ばす。

ニューオメガ「うぐっ!!」

アルファ「悠っ!!」

アルファオメガ「自分の心配をしたらどうだあ!!」バシツドツドガガ!!

アルファ「ぬうっ!!うわっ!」

アルファの頭部を殴りつけるがアルファはその手を掴み、空いた手でアルファオメガの腹部を貫こうと手刀を放つがその手も封じられる。アルファオメガは両手を掴んだままアルファを持ち上げて放り投げる。

アルファ「いつてえ……」

アルファオメガ「まだまだあ!!」

アルファオメガは全身から虹色の触手を大量に発生させて突き刺さんとしてくる。

ネオ「父さん!クソっ!!」カシユーン

『blade roodinn』

ネオアルファ『援護する』カシユーン!

ババババババ!!!

襲いかかる触手をネオアルファが撃ち落とすしブレードをアルファオメガに振り下ろす。

アルファオメガ「小賢しいっ!!」

一歩下がってブレードを避け、ネオがバランスを崩したところで背後に回りこんで手刀で貫こうとするがネオアルファの銃撃を受け怯む

ネオアルファ『千翼は死なせない、それが私のルールだから』

アルファオメガ「だったらお前が死ねえ!!」

ネオアルファ『!?』ババババババ!!

ネオアルファの銃撃を受けながら接近してジャンプ、ネオアルファを飛び越して背後に回りドライバーのグリップを回す

『Violent Strike』

ドスウ!!!

ネオアルファ『かはっ!?』

アルファオメガ手刀がネオアルファの腹部を貫いた。

アルファオメガ「まずは一匹い!!」

ガシッ!

アルファオメガ「なっ!」

貫いた腕をネオアルファは掴み、ネオに合図する。

ネオアルファ『千翼! いまだ!!』

ネオが放ったニードルガンをネオアルファは頭を傾けて避け、そのまま針はアルファオメガの左目に突き刺さり悲鳴をあげる。

アルファオメガ「ぐぎやあああ! 俺の! 俺の目があ!!!」

ニューオメガ「はあ!!」

ズバアアアアン!!!

悶絶するアルファオメガに追い討ちをかけるようにニューオメガがブレードでネオアルファに突き刺したままの腕を切断する。

アルファオメガ「ぐぎやあああ!!! 腕がっ!? 貴様ら! 俺は金城グルー
プの男だぞっ!! どうなるかわかってるのかあ!!!」

ネオアルファ『そんなことは幻想郷では関係ない』キューン……
ヴウウウウン!!!

アルファオメガ「ぬウ!! ドライバーまで!!」

スリープソーで切り上げアルファオメガのドライバーを破壊する。
ドライバーを破壊されたアルファオメガはドラゴンアマゾンの姿になり這いずって逃げようとする。

ドラゴンアマゾン「くそっ! 俺は……こんなところで死ぬ男じゃな
あい!!」

その行く手にアルファが立ち塞がった。ドラゴンアマゾンはクラ
ゲアマゾンの姿になり、アルファにしがみつき必死に命乞いをする。

ドラゴンアマゾン「助けてくれ！アンタは人間は殺さないんだろ！俺は人間だっ！それに俺のこの体はアンタの恋人の体だ！！俺の魂が幻想入りしていたこの身体に宿ったんだ！！なんでもやる！アマゾンになったが女も金もアンタが欲しいだけやる！だから助けくれえ！！」
ニューオメガ「アイツ！この期に及んでなんてことをつ！！」

ネオ「母さんの姿であんなことを……！！」

醜く命乞いする滔星に憤慨したニューオメガとネオは滔星にトドメを刺さんと駆け出すがシグマに止められる。

シグマ「落ち着け……あいつはもう覚悟を決めてるさ」

アルファはしゃがんでクラゲアマゾンの姿の滔星の肩に手を置いた。許されたと思いきや安堵の息を吐く滔星だ。

アルファ「アマゾンの匂いがするなあ……」

ドラゴンアマゾン「えっ？ぶべらっ！！」

強烈なパンチがドラゴンアマゾンの顔面にめり込み吹き飛んでいく、

アルファ「その体が七羽さんの物なら……なおさら俺が、いや、俺達を送ってやらないとなあ？千翼」

ネオ「うんっ！！」

アルファ「ついでだ、お前らも付き合え」

アルファの指示によりアマゾンは並び立ちそれぞれ必殺技を発動する。

『Violent strike』

カチューン！

シグマ「足を引っ張るなよ」

ネオアルファ『誰に言っている』

右側からネオアルファがスリープソーで、左側からシグマがアームカッターで脇腹を切り裂く、

ドラゴンアマゾン「ぬがあああああああ！！」

『ガッチョーン……キメワザ！！ガッチャーン！』

カチューン

アルファとニューオメガがゲーマドライバーのレバーを開閉し、ネ

オはインジエクターを押し込み必殺技を発動して三人のアマゾン
飛び上がる。

『ワイルドハント クリティカルスラッシュ!! (パニッシュ!!)』
『AMAZON SLASH』

三人「「うおおおおおおお!!」」
ザシユザシユザシユ!!!

ドラゴンアマゾン「あ”あ”あ”あ”あ”あ”あ”あ”あ!!」

体の左、真ん中、右に三人のアマゾンのアームカッターが振り下ろ
されドラゴンアマゾンは頭部、右肩、左肩から黒い液体を撒き散らし
ながら悶絶する。

『惨劇の一発!!』

滔星「あ”あ”あ” ……はあ……はあ、人間は…殺さないんじや
……なかったのか?……この人殺し……め」

滔星の姿に戻り、アルファに向かって最後の挑発をする。しかし、
それにアルファは静かに答えた。

アルファ「人間の心を失ったお前は…人間じゃないだろ?」

滔星「……言ってくれる」ボタン

滔星はその言葉を最後に絶命し地面に倒れる。その遺体はドライ
バーを残して溶けてしまった。

ネオ「やったね……父さん」

アルファ「ああ……」

ネオ「これで母さんも安心してゐるかな?」

アルファ「してるさ……ん?」ピピピ

突然アルファとニューオメガとシグマから何か音声がり響く、そ
の音に続いて流れたアナウンスは非常なものだった。

メガヘクス『オリジナルの絶命を確認、これよりトラロックを開始
する。』

ギューン!ギューン!ギューン!

アルファ「幻想郷一帯のアマゾンを纏めて潰すつもりだな」

ネオ「どうということ?」

ニューオメガ「それは……」

シグマ「我々が自爆して体内の薬品を幻想郷中にばらまきアマゾンどもを纏めて消毒するということだ」

ネオ「!!そんなっ!!」

ネオはアルファに掴みかかり、どうにかならないのかと激しく揺さぶる。

ネオ「どうして!?!やつとわかり会えたのに!もつと父さんと話したかったのに!!」

千翼は変身を解き、目に涙を浮かべながら必死に訴える。アルファは無言でドライバーからガシヤットを抜いて千翼に握らせる。

『ガツシューン……』

アルファ「千翼…俺はいつでも一緒だ…こいつを使えば俺と会える」

千翼「父さん……うっ!」ドスッ

アルファが鳩尾に拳を打ち込み千翼を気絶させ、そして気を失った千翼をネオアルファに預ける

アルファ「千翼を頼んだぜ、御堂」

ネオアルファ『千翼を生きて帰らせるのが私のルールだ……鷹山さん』

ジャングレイダーを呼び出し、ネオアルファは千翼を後ろに乗せてアクセルを噴かす。

アルファ「さて、最後の仕事といきますか」

ニューオメガ「最後の最後までホントに素直じゃないですね」

アルファは千翼達を見送ったあとにニューオメガとシグマの元に行く。そして最後に天を見上げ呟いた。

アルファ「やつと会えるな……七羽さん」

瞬間、無縁塚で爆発が起こり、爆風によって幻想郷中にアマゾン駆除剤（溶源性細胞に対応した）が降り注ぎ千翼とネオアルファを除いたアマゾン達は全て死滅した。幻想要塞の中で目覚めた千翼は父を探しに外に出ようとするが霊夢らに止められその場に泣き崩れた。父『鷹山 仁』から託されたガシヤットを握りしめながら……

―ネオゲムムコーポレーション社長室―

社長室には幹部たちが集結し、緊迫した空気で向かい合つてソファ―に座っている仮面ライダーエボルとその兄、仮面ライダーレボルを見ていた。

エボル「それで、何の為に来たんだ？」

レボルは弟のエボルの質問にはすぐに答えずしばらく沈黙し、ゆつくりと口を開いた。

レボル

「……………」

「……」

社長室にいるネオゲムムの幹部達が一斉にずっこけた、エボルはいち早く復帰してキャラ崩壊など知ったことかと言わんばかりにツツコム

エボル「兄ちゃん！なんか喋るときは間を開けるなっ！いつも言ってるだろ!!」

レボル「フッフ、兄ちゃんか」

エボル「なっ!?!違った！レボルト!!」

レボル「安心しろ、ちゃんとプレゼントも連れてきた。一人ははぐれたがな」

兄ちゃんと呼ばれどこか嬉しそうにするレボルにすかさず訂正するエボル、先ほどまでの沈黙はどこに行つたのかと言わんばかりの光景が繰り返し広げられていた。

シユララ「つ、つうまりい」

ケイ「た：ただ遊びに来ただけだと」

幻徳「人騒がせな」

凌馬「まったくだねえ」

「「いや、お前らが言うなよ」」

すると社長室のドアが開き、黒髪のロングに黒いスーツと眼鏡を着用した女性がはいつてくる。

???「失礼いたします。社長、幹部の皆様、宴会の準備が整いましたので移動をお願い致します」

黎斗「もうそんな時間か：諸君、移動しようか」

黎斗の言葉で幹部達は宴会の会場に移動を開始する。そのなかでエイラは黎斗に女性の素性を質問する。

エイラ「社長、彼女は誰だ？初めて見るが……」

黎斗「ああ、彼女は……」

???「社長、自分で自己紹介をするので先に会場にお向かいください」
黎斗「ん、そうかい？じゃあ任せるよ」

黎斗は部屋から退室し、女性はエイラに向かって自己紹介を始める。

???「私は森崎遙。仮面ライダーマティスに変身するライダーで黎斗様の秘書を務めております。以後お見知りおきを」

遙は不敵に微笑みその肩にはカマキリ型の変身デバイス『マティスゼクター』がいつの間にか乗っていた。

レボル「随分感情的になったじゃないか、なにかやられたのか？」

エボル「そっちこそなんだか人間臭くなってるじゃねえか」

レボル「お前の土産を取つてくるときに転移する時間軸を間違えてな、そこで全身にボトルが突き刺さってる奴に蹴飛ばされたら感情が芽生えたんだよ」

エボル「全身にボトルねえ………つて戦
兎おおおおおおおおおおおおおおおおおおおお!!!」

エボルトの絶叫がネオゲナムコーポレーションに響き渡った。

―迷いの竹林―

ここは迷いの竹林付近にある畑、その端にある切り株にミリタリーモッズコートを着た男が上の空で座っていた。

??? 「どこだあここ。ったくあのエセエボルト、今度あつたらタダじゃおかねえ」

キヤアアアア!!!

??? 「!?」

男が叫び声が聞こえた方向に目を向けると女性が石のような怪人グールに襲われていた。

??? 「なんだあ?スマツシユじやなさそうだが…関係ねえ!」カチャ

男はスクラツシユドライバーを腰に装着して、黄色のスクラツシユゼリー『ロボットスクラツシユゼリー』を取り出してキャップを前に合わせ、ドライバーに装填する。

『ロボットゼリー!』

左手を前に突き出して指を挑発するように動かしながら右手でレッチを押し下げる。

??? 「変身!」

『潰れる!流れる!溢れ出る!!』

ビーカーのような物が出現し焦げ茶色の液体に満たされる。黄金の素体スーツが男の体を包み込み、頭部からヴァリアブルゼリーが噴出して装甲を形成して変身が完了する。

『ロボット イン グリス!ブラア!!!』

グリス「心火を燃やしてぶっ潰す!」ドツ

黄金のソルジャー『仮面ライダーグリス』は自分の胸に拳を当て、女性を救うべくグール達に襲いかかる。

第4章 四次元大戦異変の章

第31話 開幕のゴング

正宗「Deep Inside! 空の果て Deep Inside
e! 海の底 光一つも見えない 闇がひろがる風景(パノラマ)♪」
雷/滅/エイラ/凌馬/火神「「「「イエーイ!!!」」」」
黎斗「私がモデルの歌だあく!!!」

ネオゲムムコーポレーションの宴会場では幹部達の宴会が開かれていた。ステージではつちやける檀親子をよそに変身を解いた魔理沙(エボルト)はレボルト(見た目は反町隆史)に幻想郷に連れてきた土産について聞いていた。

魔理沙「土産つてのはなんだ? つまらない奴じゃないといいが」

レボルト「その期待に答えてみせよう」パチン

シウウウウウン

魔理沙「お前は……」

宴会場に転移してきた男は……そう、サイボーグだった。

内海「お久しぶりですね(怒)」

魔理沙「内海か! そーいや連れてくるの忘れてたなあ!! ハッハッハ!!!」

内海「笑い事じゃないんですが……とか地味にショックです」

魔理沙「はっはっは! 悪い悪い、ほらよ」ヒョイツ

バットフルボルトとエンジンフルボルトを内海に投げ渡す。フルボルトを受け取った内海は周囲を見渡して質問をする。

内海「鷲尾兄弟はいるようですが氷室さんはどこに?」

魔理沙「あいつなら私服に着替えにいつてるよ」

レボルト「そういえば……俺が入ってきた時に結界をぶっ壊してきたんだがよかったか?」

バアアアアアアアン!!

幻徳「待たせたね!」

一同「「「「え?」」」」」

は爆散する。

パチパチパチパチ！

グリス「あ？」

グール達を撃破したグリスに襲われていた少女が拍手を送りながら近づいてきた。

少女「助かったよ！あんたすごいねっ！」

グリス「礼には及ばねえ、それより聞きたいことがあるんだけどよお」

少女「なんでも聞いてくれ！」

グリス「ここはどこだ？」

少女は数歩さがって微笑む。グリスは「なんだこいつ？」という様子になるが。

少女「やつぱ気になるよなあ……………じゃあアタシに勝ったら教えてやるよ！」スチャ

『スクラツシユドライバー！』

グリス「おいおい、なんで持ってんだよ!？」

少女はスクラツシユドライバーとフェニックスが描かれたスクラツシユゼリーを取り出す、

『フェニックスゼリー！』

スクラツシユゼリーをドライバーに装填し少女は左手の人差し指をいやらしく舌でなぞりながらレンチを押し下げる。

少女「変身！」

ビーカーが形成されて赤い液体に満たされ少女の体が素体スーツに包まれる。頭部から赤いヴァリアブルゼリーが溢れ燃え上がり装甲が現れ、赤い仮面ライダーに変身が完了する。

『潰れる！流れる！溢れ出る！フェニックス イン ブレイズ!!ブラア!!!』

ブレイズ「藤原妹紅、仮面ライダーブレイズ見参……………さあ祭を始めようかあ!!!」

『ツインブレイカー！』

バシユンバシユン!!

グリス「おもしれえ！楽しませてくれよお!!!うらあ!!!」バチイン！

牽制として放たれた炎の弾幕をアタックモードのツインでかき消して黄金のオーラが迸る拳をブレイズの顔面めがけて突き出した。

数時間後、幻想要塞にて

にとり「ちよつと！みんな、ヤバイよ！魔理沙達がロボット軍団を引き連れてこっちに來てる!!」

一同「「「なにいい!!」」」

パラド「あ？もう最終決戦なのか？」

千翼「たぶん中盤のイベントだと思ふな」

早苗「メタなこと言つてないでさっさといきますよ!!」

妖夢「せっかくのパーティーが〜(泣)」

紘太『俺のケーキ〜(泣)』

霧彦「二人とも、あとで食べればいいじゃないか」

レミリア「変身できない慧音はここで待つてなさい！」

慧音「いや、私も戦える!!」

フラン「いいからいいから♪ちゃんとお留守番しててよ♪」

承太郎「ほぼ生身の奴を戦わせる訳にはいかねえからな。今回はおとなしくしてな」

慧音「……わかった。」

妖夢と霧彦の(二人が合流したことについて触れたら馬に蹴られます)歓迎パーティーを行っていたメンバーは慌てて準備をして外にでる。すると到着した魔理沙(エボルト)一向がすでに待機していた。

魔理沙「よっ」

霊夢「魔理沙あ!!」スッ

魔理沙「おっと待った」

『M i s t m a t c h』

『c o . c o b r a : : c o b r a : : : f i r e ! ! !』

早苗「スターク!!」

承太郎「この前のコウモリ野郎とは別のやつか…」

ドライバーを装着しようとした霊夢達を止め、魔理沙はブラッドスタークの姿に変わる。

霊夢「なによ、前に負けたその姿で私に挑む気？」

スターク「いや、変身する前に俺の正体について話しておこうと思っただけ」

『エボルドライバー！』

スタークはエボルドライバーを装着し、その体から魔理沙を排出し、気を失ったままの魔理沙を霊夢へ放り投げた。

霊夢「魔理沙っ！ネオアルファ、魔理沙を屋敷の中へ」

ネオアルファ『了解した』

ネオアルファは魔理沙を抱えて屋敷の中に入っていき、霊夢は改めてスタークにむきなおる

霊夢「魔理沙じゃないってことはアンタ、一体だれなのよ」

ドライバーに手を掛けながらスタークは話し始める。

スターク「ああ俺の名はエボルト、火星を滅ぼした地球外生命体、いわゆる宇宙人ってとこだ」

パラド「宇宙人!?ゲームの中でしか見たことないぞそんなの！」

霊夢「あんたはちよつと黙ってなさい。それで?その宇宙人が幻想郷でなにを企んでるのかしら?」グツ

興奮するパラドとは対照的に霊夢は冷静にエボルトを睨み付ける。

エボルト「そいつはネタバレになっちゃうから言えねえな、ただ今日ここに来た理由なら聞かせてやってもいいぞ?」

霊夢「聞かせてもらおうじゃない」

エボルト「簡単だよ、パンドラボックスと上白沢 慧音をいただきに来た!!」カシユンカシユン

『コブラ!ライダーシステム!エボリューション!!』

エボルトがボトルを装填したのを皮切りに連れてこられた部隊も次々変身を開始する。

『デンジャー』 『ワーニング』

『ギアエンジン!ファンキー!!』『ギアリモコン!ファンキー!!』『ギアボンバー!ファンキー!!』『ギアシグナル!ファンキー!!』

『コウモリ!発動機!エボルマツチ!!』

『メイド!ナイフ!エボルマツチ!!』

霊夢 「そんなことさせるわけないじゃない!!」

『マックス！ハザードオン♪』『BANG BANG SIMULAT
IONS!』

早苗 「パンドラボックスがあなた達に渡ったらどうなるか知ったも
んじゃありません!!」

『コチャゼリー!』

妖夢 「よくわかりませんが紘太さんやりますよ!!」

『妖夢!』『フルーツバスケットエナジー!』

紘太 『おう!!』

霊夢達もそれぞれ変身アイテムを装備する。

にとり 「こっそり作ってたコレの初陣だ」

『マックス！ハザードオン♪』『ラビット&ラビット！ビルドアップ』
チルノ 「くうく！冷えてきた!!」

『Wake up!』『Crow-Z dragon!』

フラン 「燃えてきたじゃなくて？」

キバット 『ガブツ!』

レミリア 「アンタ達は緊張感を持ちなさい」

サガーク 『X”：／” ∞；\$ⅡⅡ??ー』

パラド 「マックス大」

『デュアルガシャット!』

千翼 「俺も変身って言おうかな……」カシユン

承太郎 「自分らしくいくのが一番だぜ」

『Star platina/The world』

ドライバーから溢れるエネルギーで要塞周辺の待機が震えはじめ、
ビルドドライバー、エボルドライバーから発せられる問いかけに全員
が全力で答える。

『Are you ready?』

『『『『変身!!』』』』』

『『『潤動!』』』』

『アマゾンツ!』

『コブラ! コブラ!エボルコブラ!フツハツハツ!!』

ねえか」

ブレイズ「おらっ！」ジュイーン!!!

ツインブレイカーの一撃でグリスをレイム達のところへ吹き飛ばし、ブレイズはエボルの横へ飛び下がる。

エボル「グリスか、感動の再開だねえ幻徳？」

グリス「なっ!?!ヒゲ!てめえなんでエボルトに味方してんだ!!」

ローグ「今は…知らなくていい」

グリス「だったら…力づくで聞くしかねえなあ!行くぜ戦兔!龍我!」

Bにとり「え?もしかしてあたしらの事言ってる?」

Cチルノ「アタイはバンジョーって名前じゃないよ!」

グリス「あ?なんだよ別人かよ、まあ関係ねえ!同じ仮面ライダーなら手伝えや!!」

BにとりとCチルノに絡んでるグリスにレイムが割り込む

レイム「手伝ってくれるっことでもいいのよね?私は博麗霊夢。アంతタは?」

グリス「俺は仮面ライダーグリス。猿渡一海29歳独身 カズミンって呼んでくれ」

スバババババババ!!!

エボル「おいおい、いつまで待たせる気だ?」

エネルギー波が足元に打ち込まれレイム達は自己紹介?をやめて戦闘態勢にはいる。

グリス「高揚!動乱!熱狂!祭の始まりだあ!!!」

レイム「なんでこいつが仕切ってるかわからないけど…いくわよお!!!」

サナエ「ミラクルパワーを見せてあげますよ!!!」

Cチルノ「今のアタイは負ける気がしねえ!!」

Kフラン「キバツて行きましょ!!」

パラドクス「心が躍るな!!」

妖武「仮面ライダー妖武 参る!!」

絃太「輪切りにしてやるぜ!!」

Bにとり「さあ、実験を始めようか」
Sレミア「楽しい宴になりそうね」
二人に続きサナエ達も駆け出す。
エボル「はははは！ 返り討ちだあ!!」
ローグ「大義のための……犠牲となれ！」
プレデター「やつと暴れられるぜ!!」
リモコンブロス「雷!!」
エンジンブロス「おうっ!!」
ボンバーウルゴス「うらあ！ かかってこいやあ!!」
シグナルウルゴス「……………開戦」
マッドサクヤ「キャハハハ!! ナイフでズタズタにしてあげる♪」
マッドローグ「私よりもマッドだ……」
ネオゲムの軍勢もハードガーディアンを率いて進軍を開始し2
つの勢力の主力達の戦いが今始まった。